

障害者計画等見直しに関する
アンケート調査
－ 結果報告書 －

令和6年3月
徳島市

目次

第1章 『徳島市障害者計画等見直しに関するアンケート調査』の概要.....	1
1. 調査目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査方法	1
4. 調査期間	1
5. 回収状況	1
第2章 アンケート調査結果のまとめ	2
1. 『障害者を対象とした調査』の結果の概要	2
2. 『市民を対象とした調査』の結果の概要	5
3. 『障害児を対象とした調査』の結果の概要	7
第3章 『障害者を対象とした調査』の結果	9
アンケートの回答者	9
1. あなたご自身のことについて	10
問1 年齢	10
問2 性別	11
問3 一緒に暮らしている人	12
問4 日常生活での介助	13
問5 主に支援してくれる人	19
問6 身体障害者手帳の等級	20
問7 身体障害の種別	21
問8 療育手帳の判定	22
問9 精神障害者保健福祉手帳の等級.....	23
問10 難病（指定難病）の認定	24
問11 発達障害の診断	25
問12 高次脳機能障害の診断	26
問13 高次脳機能障害の関連障害.....	27
問14 現在医療的ケアを受けているか.....	28
問15 現在受けている医療的ケアの種類.....	29
2. 住まいや暮らしについて	31
問16 現在の暮らし方	31
問17 今後3年以内に希望する暮らし方.....	32
問18 希望する暮らしを送るために必要な支援.....	33
3. 日中活動や就労について	34
問19 外出時に困ること	34
問20 障害者団体の認知度	36
問21 知っている障害者団体名	37

問22	障害者団体の行事等への参加意向.....	38
問23	入会している障害者団体名.....	39
問24	平日の日中の過ごし方	40
問25	就労者の勤務形態	42
問26	今後の就労意向	43
問27	職業訓練の意向	44
問28	就労支援に必要なこと	45
4.	相談相手について	47
問29	暮らしの中での悩みや困っていること.....	47
問30	悩みや困った時の相談先	49
問31	困った時の相談体制に対する評価.....	51
問32	相談事業所の認知度	52
5.	情報の入手について	53
問33	障害や福祉サービスなどに関する情報入手先.....	53
問34	障害や福祉サービスなどに関する情報の入手方法に対する評価.....	55
問35	今後充実してほしい情報	56
6.	障害福祉サービスの利用について	57
問36	障害支援区分の認定状況	57
問37	現在利用している障害福祉サービス.....	58
問38	利用している障害福祉サービスの満足度.....	60
問39	障害福祉サービスの今後の利用意向.....	61
問40	利用量の変更や新規で追加したいサービス.....	62
問41	障害福祉サービス利用時に困っていること.....	70
7.	介護保険サービス等の利用について	71
問42	介護保険サービスの利用状況.....	71
問43	要介護度	72
8.	権利擁護について	73
問44	障害があることで差別や嫌な思いをしたこと.....	73
問45	差別や嫌な思いをした場所.....	74
問46	障害や障害の方に対する周囲の理解度.....	75
問47	障害のある方への偏見や差別を解消するために取り組んでほしいこと.....	76
問48	成年後見制度の認知度	77
9.	災害時の避難等について	78
問49	災害などの緊急時の避難が一人で行えるか.....	78
問50	災害時に周囲に助けてくれる人.....	79
問51	火事や地震等の災害時に困ること.....	80
10.	障害福祉施策について	81
問52	今後の障害福祉分野においてもっとも充実してほしいこと.....	81

第4章 『市民を対象とした調査』の結果 83

1. あなたご自身のことについて	83
問1 性別	83
問2 年齢	83
問3 職業	84
問4 身近な障害者の有無	84
2. 障害者（児）に対する意識について	85
問5 ノーマライゼーションの認知度.....	85
問6 ノーマライゼーションの考え方.....	85
問7 障害者（児）へのコミュニケーションや手助の有無.....	86
問7-1 障害者（児）へのコミュニケーションや手助した内容.....	86
問7-2 障害者（児）へのコミュニケーションや手助をしたことがない理由.....	87
問8 今後の障害者（児）との関わり.....	87
問9 障害者（児）の介助・介護などで困っている家庭にできる手助け.....	88
問10 障害者団体の認知度	89
問10-1 知っている障害者団体名	89
3. ボランティア活動について	90
問11 福祉関係のボランティア活動への参加状況.....	90
問12 福祉関係のボランティア活動への今後の参加意向.....	90
問12-1 参加したいと思う活動内容.....	91
問12-2 ボランティア活動に参加したくない理由.....	91
4. 障害者（児）への支援体制について	92
問13 障害者（児）の社会参加のために工夫すべきと思うこと.....	92
問13-1 障害者（児）の社会参加のために工夫すべき内容.....	92
問14 障害者（児）が地域で自立して生活するために必要だと思うこと.....	93
問15 福祉サービスや公共援助を充実させるための財源についての考え.....	93
問16 障害者（児）が今後住みやすいまちづくりのために重要だと思うこと.....	94
5. 社会モデルについて	95
問17 障害者（児）の生活状況についての考え.....	95
問18 現在の障害者福祉の水準に対する評価.....	95
問19 地域や職場環境などでのアクセシビリティ向上の環境整備に対する評価.....	96
6. 障害がある人の雇用について	97
問20 障害がある人の職についている状態は十分足りているか.....	97
問20-1 障害がある人の就労機会は現状より増えるべきか.....	97
問21 障害がある人の就労時の課題.....	98
7. 障害がある子どもについて	99
問22 障害がある子どもの就学の機会は十分か.....	99
問23 障害がある子どもが教育を受ける時に望ましい環境.....	99
問24 障害がある子どもの教育に必要なこと.....	100

8. 権利擁護について	101
問25 障害者差別解消法の認知度.....	101
問26 障害者が差別を受けているのを見聞きした経験.....	101
問27 合理的配慮の認知度	102
問28 国・地方公共団体などでの合理的配慮に対する評価.....	102
問29 障害者虐待防止法の認知度.....	103
問30 障害者への虐待を見聞きした経験.....	103
問31 障害者への虐待の通報義務の認知度.....	104
問32 虐待の通報先の認知度	104
問33 成年後見制度の認知度	105
問33-1 成年後見制度をどこで知ったか.....	105
第5章 『障害児を対象とした調査』の結果	106
1. お子さんについて	106
問1 性別.....	106
問2 年齢	107
問3 所属先・通所先	108
問4 交付を受けている手帳・受給者証の種類.....	109
問5 重症心身障害の有無	110
問6 現在医療的ケアを受けているか.....	111
問7 現在受けている医療的ケアの種類.....	112
2. 気づきについて	113
問8 障害や発達課題に気づいたきっかけ.....	113
3. 相談について	114
問9 障害や発達課題などに困った時に相談した相手・機関.....	114
問10 困った時の相談体制は十分か.....	116
問11 相談事業所の認知度	117
4. 幼児期・学齢期について	118
問12 下校後や長期休暇などの過ごし方.....	118
問13 療育や保育、学校教育について困っていること.....	119
問14 保育所や幼稚園、学校に通う上で求めること.....	120
5. 障害福祉サービスについて	122
問15 利用している（していた）障害福祉サービス.....	122
問16 利用している（していた）障害福祉サービスの満足度.....	124
問17 障害福祉サービスに満足していない理由.....	125
6. 外出について	126
問18 外出の際に困ったり不便に感じること.....	126
7. 就労・地域生活について	128
問19 卒業後、円滑な日常生活・社会生活を送るために学齢期に必要なと思う支援... ..	128
問20 学校を卒業した後の過ごし方.....	129
問21 現状についての不安の有無.....	130

8. 権利擁護について	131
問22 お子さんが障害があることで差別や嫌な思いをする(した)こと.....	131
問23 障害や障害者に対する周りの理解度.....	132
問24 障害者に対する偏見や差別解消のために必要な取組み.....	133
9. ご家族の支援について	134
問25 家族に必要な支援	134
10. その他の環境について	135
問26 お子さんが過ごす環境に必要なもの.....	135
11. その他について	136
問27 障害者福祉分野においてもっとも充実してほしいこと.....	136
第6章 主な自由意見	138
1. 『障害者を対象とした調査』の主な自由意見	138
2. 『市民を対象とした調査』の主な自由意見	140
3. 『障害児を対象とした調査』の主な自由意見	141

第1章 『徳島市障害者計画等見直しに関するアンケート調査』の概要

1. 調査目的

障害者の障害の程度や生活の状況、障害者（児）及びその他の市民の意識等を把握し、今後の徳島市における障害者施策の総合的かつ計画的な推進のための基礎資料とすることを目的として実施しました。

2. 調査対象

- 身体障害者：身体障害者手帳保持者のうち 450 人
知的障害者：療育手帳保持者のうち 200 人
精神障害者：精神障害者保健福祉手帳保持者のうち 250 人
障害児：0～18 歳未満の児童通所支援等を利用している児童のうち 100 人
その他の市民：18 歳以上の市民のうち 500 人

3. 調査方法

郵送配布－郵送回収

4. 調査期間

令和 5 年 7 月 21 日～8 月 11 日

5. 回収状況

	対象者数	回収数	回収率
	(A)	(B)	(C / B)
身体障害者	450 人	197	43.8%
知的障害者	200 人	98	49.0%
精神障害者	250 人	95	38.0%
障害者の計	900 人	354	39.3%
障害児	100 人	32	32.0%
市民	500 人	136	27.2%
全体の計	1,500 人	522	34.8%

※障害者種別ごとの回収数（B）は、重度障害者等が含まれるため、身体・知的・精神障害者の合計は障害者の計と一致しない。

第2章 アンケート調査結果のまとめ

1. 『障害者を対象とした調査』の結果の概要

(1) あなたご自身のことについて

- ・アンケートの回答者は、「本人」(60.2%)が最も多い。
- ・対象者の年齢は、「65歳以上」(41.5%)が最も多い。
- ・対象者の性別は、「男性」(47.7%)、「女性」(50.8%)となっている。
- ・一緒に暮らしている人は、「父母・祖父母・兄弟姉妹」(29.9%)が最も多い。
- ・日常生活での【食事】の介助は、「不要」(74.0%)が最も多い。
- ・日常生活での【トイレ】の介助は、「不要」(76.8%)となっている。
- ・日常生活での【入浴】の介助は、「不要」(65.0%)が最も多い。
- ・日常生活での【衣服の着脱】の介助は、「不要」(72.6%)が最も多い。
- ・日常生活での【身だしなみ】の介助は、「不要」(61.9%)が最も多い。
- ・日常生活での【家の中の移動】の介助は、「不要」(76.6%)が最も多い。
- ・日常生活での【外出】の介助は、「不要」(49.2%)が最も多い。
- ・日常生活での【家族以外の人との意思疎通】の介助は、「不要」(54.8%)が最も多い。
- ・日常生活での【お金の管理】の介助は、「不要」(50.3%)が最も多い。
- ・日常生活での【薬の管理】の介助は、「不要」(56.5%)が最も多い。
- ・主に支援してくれる人は、「父母・祖父母・兄弟姉妹」(34.5%)が最も多い。
- ・身体障害者手帳の等級は、「1級」(33.0%)が最も多い。
- ・身体障害の種別は、「内部障害」(32.5%)が最も多い。
- ・療育手帳の判定は、「B1またはB2」(60.2%)が最も多い。
- ・精神障害者保健福祉手帳の等級は、「2級」(43.2%)が最も多い。
- ・難病(指定難病)の認定は、「受けていない」(89.8%)が最も多い。
- ・発達障害の診断は、「(診断されたことが)ない」(76.3%)が最も多い。
- ・高次脳機能障害の診断は、「(診断されたことが)ない」(89.5%)が最も多い。
- ・高次脳機能障害の関連障害は、「肢体不自由(下肢)」(45.5%)が最も多い。
- ・現在医療的ケアを受けているかは、「受けていない」(61.6%)が最も多い。
- ・現在受けている医療的ケアの種類は、「服薬管理」(46.7%)が最も多い。

(2) 住まいや暮らしについて

- ・現在の暮らし方は、「家族と暮らしている」(61.6%)が最も多い。
- ・今後3年以内に希望する暮らし方は、「家族と一緒に生活したい」(59.3%)が最も多い。
- ・希望する暮らしを送るために必要な支援は、「経済的な負担の軽減」(52.3%)が最も多く、次いで「必要な在宅サービスが適切に利用できること」(32.5%)となっている。

(3) 日中活動や就労について

- ・外出時に困ることは、「困ったときにどうすればいいのか心配」(34.2%)が最も多く、次いで「公共交通機関が少ない(ない)」(24.9%)となっている。
- ・障害者団体の認知度は、「知らない」(76.0%)が最も多い。
- ・知っている障害者団体名は、「徳島市身体障害者連合会」(41.1%)が最も多い。

- ・障害者団体の行事等への参加意向は、「参加したいと思わない」(59.0%)が最も多い。
- ・入会している障害者団体名は、「徳島市身体障害者連合会」(56.3%)が最も多い。
- ・平日の日中の過ごし方は、「自宅で過ごしている」(35.3%)が最も多く、次いで「収入を得る仕事をしている(会社勤めや自営業など)」(17.8%)となっている。
- ・就労者の勤務形態は、「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」(44.4%)が最も多い。
- ・今後の就労意向は、「仕事はしたくない、できない」(46.4%)が最も多い。
- ・職業訓練の意向は、「職業訓練を受けたいが、受ける状況にない」(38.7%)が最も多い。
- ・就労支援に必要なことは、「職場の上司や同僚に障害者への理解があること」(51.4%)が最も多く、次いで「具合が悪くなった時に気軽に通院できること」(40.7%)となっている。

(4) 相談相手について

- ・暮らしの中での悩みや困っていることは、「経済的なこと」(42.1%)が最も多く、次いで「将来の援助・介護のこと」(39.3%)となっている。
- ・悩みや困った時の相談先は、「家族や親せき」(62.1%)が最も多く、次いで「かかりつけの医師や看護師」(25.4%)、「施設やサービス事業所の人」(22.3%)となっている。
- ・困った時の相談体制に対する評価は、「現在の状態でほぼ十分」(34.2%)が最も多い。
- ・相談事業所の認知度は、「知らない」(67.2%)が最も多い。

(5) 情報の入手について

- ・障害や福祉サービスなどに関する情報入手先は、「テレビやラジオのニュース」(31.9%)が最も多く、次いで「本や新聞・雑誌の記事」(30.5%)、「家族や親せき、友人、知人」(25.4%)となっている。
- ・障害や福祉サービスなどに関する情報の入手方法に対する評価は、「やや不十分」(43.2%)が最も多い。
- ・今後充実してほしい情報は、「困ったときの相談機関・場所の情報」(53.4%)が最も多く、次いで「福祉サービスの具体的な内容や利用方法などに関する情報」(49.7%)となっている。

(6) 障害福祉サービス等の利用について

- ・障害支援区分の認定状況は、「受けていない」(57.9%)が最も多い。
- ・現在利用している障害福祉サービスは、「利用していない」(46.3%)が最も多く、次いで「就労継続支援(A型、B型)」(12.1%)、「生活介護」(10.2%)、「居宅介護(ホームヘルプ)」(9.3%)となっている。
- ・利用している障害福祉サービスの満足度は、「満足している」(49.3%)が最も多い。
- ・障害福祉サービスの今後の利用意向は、「ない」(66.7%)が最も多い。
- ・現在利用しているサービスのうち今後利用を増やす予定のサービスは、「居宅介護(ホームヘルプ)」(5.1%)が最も多い。
- ・現在利用しているサービスのうち今後利用を止める予定のサービスは、「自立訓練(機能訓練・生活訓練)」(1.3%)が最も多い。

- ・現在は利用していないが、今後新たに利用したいサービスは、「短期入所（ショートステイ）」「共同生活援助（グループホーム）」（同率で7.7%）が最も多い。
- ・障害福祉サービス利用時に困っていることは、「制度（使い方など）がわかりにくい」（38.1%）が最も多い。

(7) 介護保険サービス等の利用について

- ・介護保険サービスの利用状況は、「利用していない」（76.8%）が最も多い。
- ・要介護度は、「要介護4」（18.2%）が最も多い。

(8) 権利擁護について

- ・障害があることで差別や嫌な思いをしたことは、「ない」（37.9%）が最も多い。
- ・差別や嫌な思いをした場所は、「外出中」（41.5%）が最も多く、次いで「学校・仕事場」（39.9%）となっている。
- ・障害や障害の方に対する周囲の理解度は、「進んでいるが不十分」（41.2%）が最も多い。
- ・障害のある方への偏見や差別を解消するために取り組んでほしいことは、「障害についての理解を深めるため、広く市民にパンフレットや研修会・講演会などで周知・啓発をする」（27.4%）が最も多い。
- ・成年後見制度の認知度は、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」（36.4%）が最も多い。

(9) 災害時の避難等について

- ・災害などの緊急時の避難が一人でできるかは、「避難できない」（38.1%）が最も多い。
- ・災害時に周辺に助けてくれる人は、「いない」（47.2%）が最も多い。
- ・火事や地震等の災害時に困ることは、「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」（53.7%）が最も多く、次いで「投薬や治療が受けられない」（47.7%）となっている。

(10) 障害福祉施策について

- ・今後の障害福祉分野においてもっとも充実してほしいことは、「各種サービスなどの情報提供の充実」（27.1%）が最も多く、次いで「年金などの所得保障の充実」（24.9%）、「福祉・保健・医療などの相談体制の充実」（20.3%）、「ホームヘルパー・ショートステイ・デイサービスなどの在宅福祉サービスの充実」（15.8%）となっている。

2. 『市民を対象とした調査』の結果の概要

(1) あなたご自身のことについて

- ・対象者の性別は、「男性」(39.0%)、「女性」(57.4%)となっている。
- ・対象者の年齢は、「70歳以上」(28.7%)が最も多い。
- ・対象者の職業は、「会社・団体の職員・役員」(29.4%)が最も多い。
- ・身近な障害者の有無は、「いない」(57.4%)が最も多い。

(2) 障害者(児)に対する意識について

- ・ノーマライゼーションの認知度は、「聞いたことがない」(53.7%)が最も多い。
- ・ノーマライゼーションの考え方は、「ある程度賛同する」(52.9%)が最も多い。
- ・障害者(児)へのコミュニケーションや手助の有無は、「ある」(47.1%)、「ない」(50.0%)となっている。
- ・障害者(児)へのコミュニケーションや手助した内容は、「相談相手や話し相手になった」、「車椅子を押ししたり、横断歩道や階段で手助けをした」(同率で40.6%)が最も多い。
- ・障害者(児)へのコミュニケーションや手助をしたことがない理由は、「たまたま機会がなかったから」(76.5%)が最も多い。
- ・今後の障害者(児)との関わりは、「身近にいる障害者(児)に対して、できる範囲の手助けをしたい」(50.0%)が最も多く、次いで「障害者(児)が主催する絵画展やコンサートなどを見に行きたい」(23.5%)となっている。
- ・障害者(児)の介助・介護などで困っている家庭にできる手助けは、「安否確認の声かけ」(50.7%)が最も多く、次いで「災害時の手助け」(41.9%)となっている。
- ・障害者団体の認知度は、「知らない」(82.4%)が最も多い。
- ・知っている障害者団体名は、「徳島市身体障害者連合会」(65.2%)が最も多い。

(3) ボランティア活動について

- ・福祉関係のボランティア活動への参加状況は、「参加した事がない」(90.4%)が最も多い。
- ・福祉関係のボランティア活動への今後の参加意向は、「どちらかといえば参加したくない」(38.2%)が最も多い。
- ・参加したいと思う活動内容は、「スポーツ・レクリエーション・リハビリテーションの介助」、「相談相手や話し相手、安否確認」(同率で25.6%)が最も多い。
- ・ボランティア活動に参加したくない理由は、「仕事や家事が忙しいから」(46.1%)が最も多い。

(4) 障害者(児)への支援体制について

- ・障害者(児)の社会参加のために工夫すべきと思うことは、「時々ある」(44.1%)が最も多い。
- ・障害者(児)の社会参加のために工夫すべき内容は、「道路の段差や信号」(83.1%)が最も多い。
- ・障害者(児)が地域で自立して生活するために必要だと思うことは、「障害のある人にとって利用しやすい施設や交通機関を整備すること」(65.4%)が最も多く、次いで「住民全体が、障害者福祉にもっと関心を持つこと」(55.1%)となっている。

- ・福祉サービスや公共援助を充実させるための財源についての考えは、「福祉サービスや公的援助は充実させた方がよいが、公的負担は現状維持がよい」(50.7%)が最も多い。
- ・障害者(児)が今後住みやすいまちづくりのために重要だと思うことは、「雇用・就労の場の確保」(58.8%)が最も多く、次いで「障害者(児)への理解を深めるための学校教育」(47.8%)、「障害者(児)のための相談機関の充実」(45.6%)となっている。

(5) 社会モデルについて

- ・障害者(児)の生活状況についての考えは、「個人の心身の機能と社会的な障壁という両方に問題がある」(56.6%)が最も多い。
- ・現在の障害者福祉水準に対する評価は、「わからない」(50.7%)が最も多い。
- ・地域や職場環境などでのアクセシビリティ向上の環境整備に対する評価は、「わからない」(36.0%)が最も多い。

(6) 障害がある人の雇用について

- ・障害がある人の職についている状態は十分足りているかは、「わからない」(48.5%)が最も多い。
- ・障害がある子どもが教育を受ける時に望ましい環境は、「増えるべきだと思う」(80.6%)が最も多い。
- ・障害がある人の就労時の課題は、「障害に合った仕事内容がないこと」(54.4%)が最も多く、次いで「障害に対する周囲の理解が低いこと」(53.7%)となっている。

(7) 障害がある子どもについて

- ・障害がある子どもの就学の機会は十分かは、「わからない」(53.7%)が最も多い。
- ・障害がある子どもが教育を受ける時に望ましい環境は、「一人ひとりが必要とする合理的配慮をし、望めば他の児童・生徒と同様の学習ができる環境」(46.3%)が最も多い。
- ・障害がある子どもの教育に必要なことは、「児童・生徒の個々のニーズに応じた学習指導の充実」(69.1%)が最も多く、次いで「障害がある児童・生徒の保護者に対する精神的な支援」(57.4%)となっている。

(8) 権利擁護について

- ・障害者差別解消法の認知度は、「知らない」(79.4%)が最も多い。
- ・障害者が差別を受けているのを見聞きした経験は、「ない」(77.9%)が最も多い。
- ・合理的配慮の認知度は、「知らない」(64.0%)が最も多い。
- ・国・地方公共団体などでの合理的配慮に対する評価は、「わからない」(36.0%)が最も多い。
- ・障害者虐待防止法の認知度は、「知らない」(58.1%)が最も多い。
- ・障害者への虐待を見聞きした経験は、「ない」(77.9%)が最も多い。
- ・障害者への虐待の通報義務の認知度は、「知らない」(50.0%)が最も多い。
- ・虐待の通報先の認知度は、「知らない」(83.1%)が最も多い。
- ・成年後見制度の認知度は、「知っている」(55.9%)が最も多い。
- ・成年後見制度をどこで知ったかは、「テレビ・ラジオ」、「新聞・雑誌」(同率で26.3%)が最も多い。

3. 『障害児を対象とした調査』の結果の概要

(1) お子さんについて

- ・お子さんの性別は、「男性」(75.0%)、「女性」(21.9%)となっている。
- ・お子さんの年齢は、「6～12歳」(53.1%)が最も多い。
- ・お子さんの所属先・通所先は、「小・中学校(通常学校)」(37.5%)が最も多い。
- ・交付を受けている手帳・受給者証の種類は、「通所受給者証」(71.9%)が最も多く、次いで「療育手帳」(25.0%)となっている。
- ・重症心身障害の有無は、「該当しない」(93.8%)が最も多い。
- ・現在医療的ケアを受けているかは、「受けていない」(93.8%)が最も多い。
- ・現在受けている医療的ケアの種類は、「服薬管理」(100.0%)が最も多い。

(2) 気づきについて

- ・障害や発達課題に気づいたきっかけは、「保育所・幼稚園の助言」、「あなたを含む家族による気づき」(同率で46.9%)が最も多い。

(3) 相談について

- ・障害や発達課題などに困った時に相談した相手・機関は、「家族・親族」(59.4%)が最も多く、次いで「通所施設」(53.1%)、「かかりつけの病院」(37.5%)となっている。
- ・困った時の相談体制は十分かは、「ほぼ十分」(46.9%)が最も多い。
- ・相談事業所の認知度は、「知っている」(56.3%)が最も多い。

(4) 幼児期・学齢期について

- ・下校後や長期休暇などの過ごし方は、「家庭で過ごしている」(62.5%)が最も多く、次いで「放課後等デイサービスなど、福祉サービスを提供する施設で過ごしている」(59.4%)となっている。
- ・療育や保育、学校教育について困っていることは、「本人にとって望ましい進路が確保できるかどうか不安がある」(50.0%)が最も多く、次いで「教員の指導や支援などに不安がある」(31.3%)となっている。
- ・保育所や幼稚園、学校に通う上で求めることは、「障害特性などに対応する、教師や他の児童・生徒の理解と配慮」(53.1%)が最も多く、次いで「学習支援や介助など、園・学校生活サポート」(37.5%)となっている。

(5) 障害福祉サービスについて

- ・利用している(していた)障害福祉サービスは、「児童発達支援」(71.9%)が最も多く、次いで「放課後等デイサービス」(68.8%)、「保育所等訪問支援」(25.0%)となっている。
- ・利用している(していた)障害福祉サービスの満足度は、「満足している」(84.4%)が最も多い。

(6) 外出について

- ・外出の際に困ったり不便に感じることは、「特にない」(43.8%)が最も多く、次いで「公共交通機関が少ない(ない)」(15.6%)、「周囲の目が気になる」(12.5%)となっている。

(7) 就労・地域生活について

- ・卒業後、円滑な日常生活・社会生活を送るために学齢期に必要なと思う支援は、「特性や発達課題に応じた学習支援」(56.3%)が最も多く、次いで「ソーシャルスキル」(46.9%)となっている。
- ・学校を卒業した後の過ごし方は、「企業などで社員として就労」(65.6%)が最も多く、次いで「福祉施設や作業所で就労」(15.6%)となっている。
- ・現状についての不安の有無は、「不安がある」(53.1%)が最も多い。

(8) 権利擁護について

- ・お子さんが障害があることで差別や嫌な思いをする(した)ことは、「ない」(40.6%)が最も多い。
- ・障害や障害者に対する周りの理解度は、「進んでいるが不十分」(56.3%)が最も多い。
- ・障害者に対する偏見や差別解消のために必要な取組みは、「地域の学校において、障害児と障害のない児童生徒が共に学び、遊び、成長できる環境を整える。また、福祉教育を推進する」(71.9%)が最も多く、次いで「地域において障害者(児)と住民が交流できる機会を増やす」(18.8%)となっている。

(9) ご家族の支援について

- ・家族に必要な支援は、「レスパイトケア」(37.5%)が最も多く、次いで「家計に対する支援」(34.4%)となっている。

(10) その他の環境について

- ・お子さんが過ごす環境に必要なものは、「障害や発達課題などに対する周囲の理解と配慮」(62.5%)が最も多く、次いで「家庭、学校、職場以外の居場所」(46.9%)となっている。

(11) その他について

- ・障害者福祉分野においてもっとも充実してほしいことは、「障害児に対する教育・療育の充実」(37.5%)が最も多く、次いで「通所施設・作業所の充実」(34.4%)、「各種サービスなどの情報提供の充実」(31.3%)となっている。

第3章 『障害者を対象とした調査』の結果

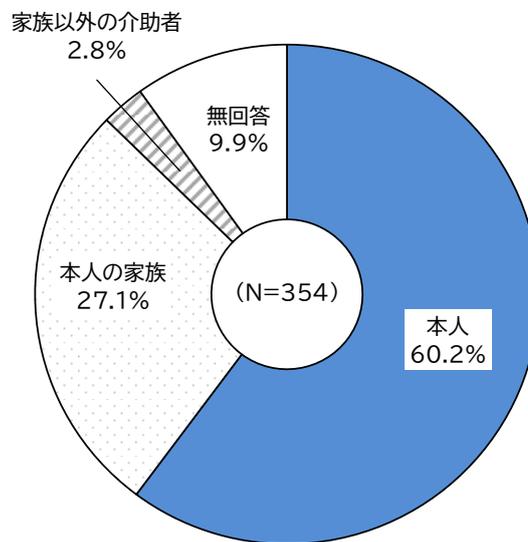
アンケートの回答者

アンケートにお答えいただくのは、どなたですか。(○は1つだけ)

アンケートの回答者は、「本人」(60.2%)が最も多く、次いで「本人の家族」(27.1%)、「本人以外の介助者」(2.8%)となっています。

障害種別にみると、身体障害・精神障害者・難病・高次脳機能障害では「本人(この調査票が郵送された宛名の方)」が最も多く、知的障害・発達障害では「本人の家族」が最も多くなっています。

図表 アンケートの回答者



	調査数	(1)	(2)	(3)	無回答	
		本人宛(この調査票が郵送された方)	本人の家族	家族以外の介助者		
全体	354	60.2	27.1	2.8	9.9	
障害種別	身体障害	197	65.5	21.8	1.5	11.2
	知的障害	98	35.7	50.0	6.1	8.2
	精神障害	95	73.7	16.8	-	9.5
	難病	26	65.4	23.1	-	11.5
	発達障害	71	33.8	52.1	2.8	11.3
高次脳機能障害	22	50.0	36.4	-	13.6	

【表の見方】
比率(%)
網掛け=

1位

2位

1. あなたご自身のことについて

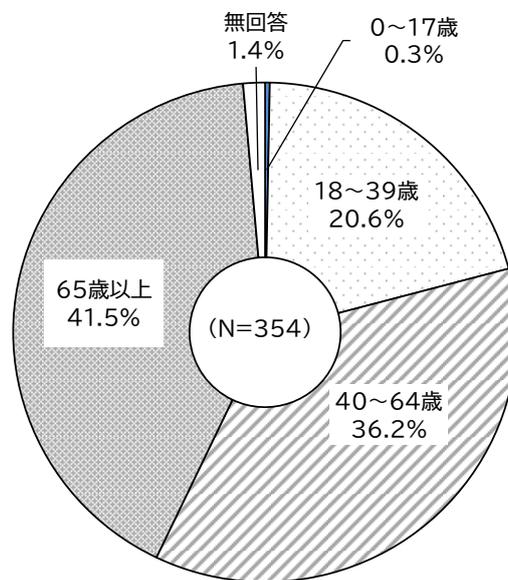
問1 年齢

あなたの年齢をお答えください。(令和5年7月1日現在)

対象者の年齢は、「65歳以上」(41.5%)が最も多く、次いで「40～64歳」(36.2%)、「18～39歳」(20.6%)、「0～17歳」(0.3%)となっています。

障害種別にみると、身体障害では「65歳以上」(67.5%)が最も多く、知的障害・発達障害では「18～39歳」、精神障害・難病・高次脳機能障害では「40～64歳」がそれぞれ最も多くなっています。

図表 年齢



		(1)	(2)	(3)	(4)	
		0 ～ 17 歳	18 ～ 39 歳	40 ～ 64 歳	65 歳 以上	無 回 答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=	1位					
	2位					
全体	調査数 354	0.3	20.6	36.2	41.5	1.4
障害種別	身体障害	-	5.1	26.4	67.5	1.0
	知的障害	1.0	49.0	41.8	8.2	-
	精神障害	-	22.1	61.1	15.8	1.1
	難病	3.8	11.5	46.2	34.6	3.8
	発達障害	1.4	62.0	29.6	5.6	1.4
	高次脳機能障害	-	4.5	50.0	45.5	-

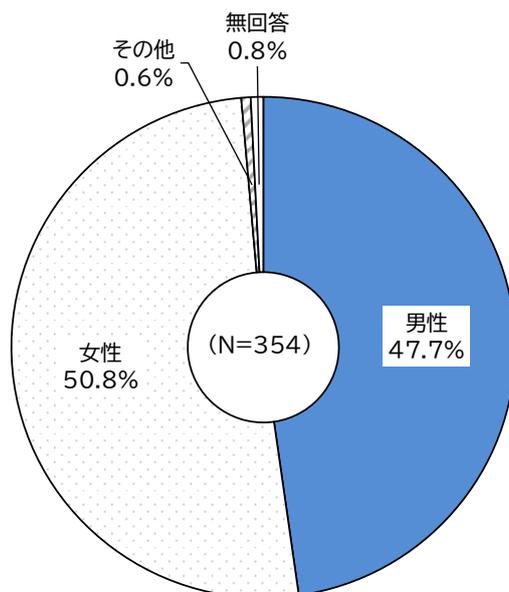
問2 性別

あなた（宛名のご本人）の性別をお答えください。（○は1つだけ）

対象者の性別は、「男性」（47.7%）、「女性」（50.8%）、「その他」（0.6%）となっています。

障害種別にみると、知的障害・発達障害・では「男性」が多く、身体障害・精神障害・高次脳機能障害では「女性」が多くなっています。

図表 性別



	調査数	(1)	(2)	(3)	無回答	
		男性	女性	その他		
【表の見方】 比率(%) 網掛け=						
		1位	2位			
全体	354	47.7	50.8	0.6	0.8	
障害種別	身体障害	197	44.2	55.3	-	0.5
	知的障害	98	59.2	39.8	1.0	-
	精神障害	95	47.4	51.6	1.1	-
	難病	26	46.2	50.0	-	3.8
	発達障害	71	57.7	42.3	-	-
	高次脳機能障害	22	54.5	45.5	-	-

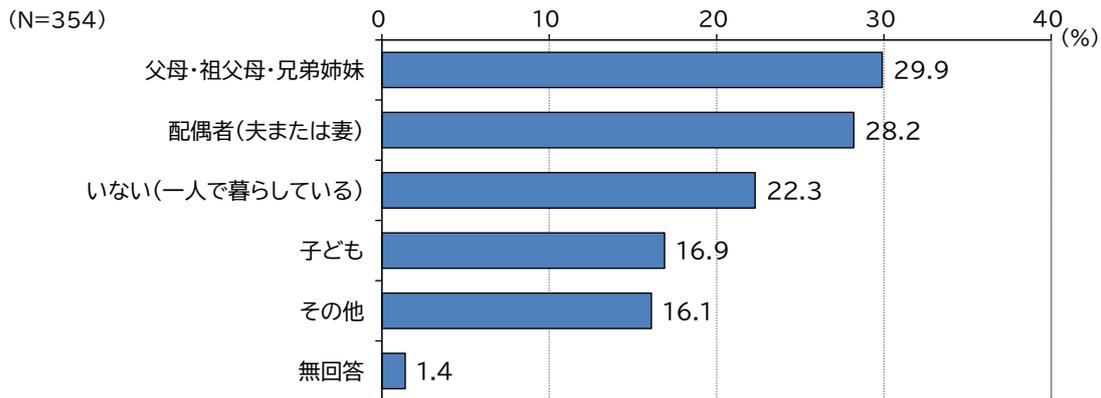
問3 一緒に暮らしている人

いま、あなたが一緒に暮らしている人は、どなたですか。(あてはまるものすべてに○)

一緒に暮らしている人は、「父母・祖父母・兄弟姉妹」(29.9%)が最も多く、次いで「配偶者(夫または妻)」(28.2%)、「いない(一人で暮らしている)」(22.3%)となっています。

障害種別にみると、身体障害・難病では「配偶者(夫または妻)」、知的障害・精神障害・発達障害では「父母・祖父母・兄弟姉妹」、高次脳機能障害では「配偶者(夫または妻)」、「父母・祖父母・兄弟姉妹」(同率で36.4%)がそれぞれ最も多くなっています。

図表 一緒に暮らしている人



	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	無回答	
		父母・祖父母・兄弟姉妹	配偶者(夫または妻)	いない(一人で暮らしている)	子ども	その他		
全体	354	29.9	28.2	22.3	16.9	16.1	1.4	
障害種別	身体障害	197	15.7	44.7	21.8	25.9	11.7	1.0
	知的障害	98	53.1	5.1	13.3	8.2	27.6	1.0
	精神障害	95	40.0	16.8	33.7	6.3	9.5	-
	難病	26	30.8	34.6	15.4	23.1	11.5	3.8
	発達障害	71	63.4	8.5	8.5	7.0	21.1	1.4
	高次脳機能障害	22	36.4	36.4	13.6	22.7	9.1	-

【表の見方】
比率(%)
網掛け=

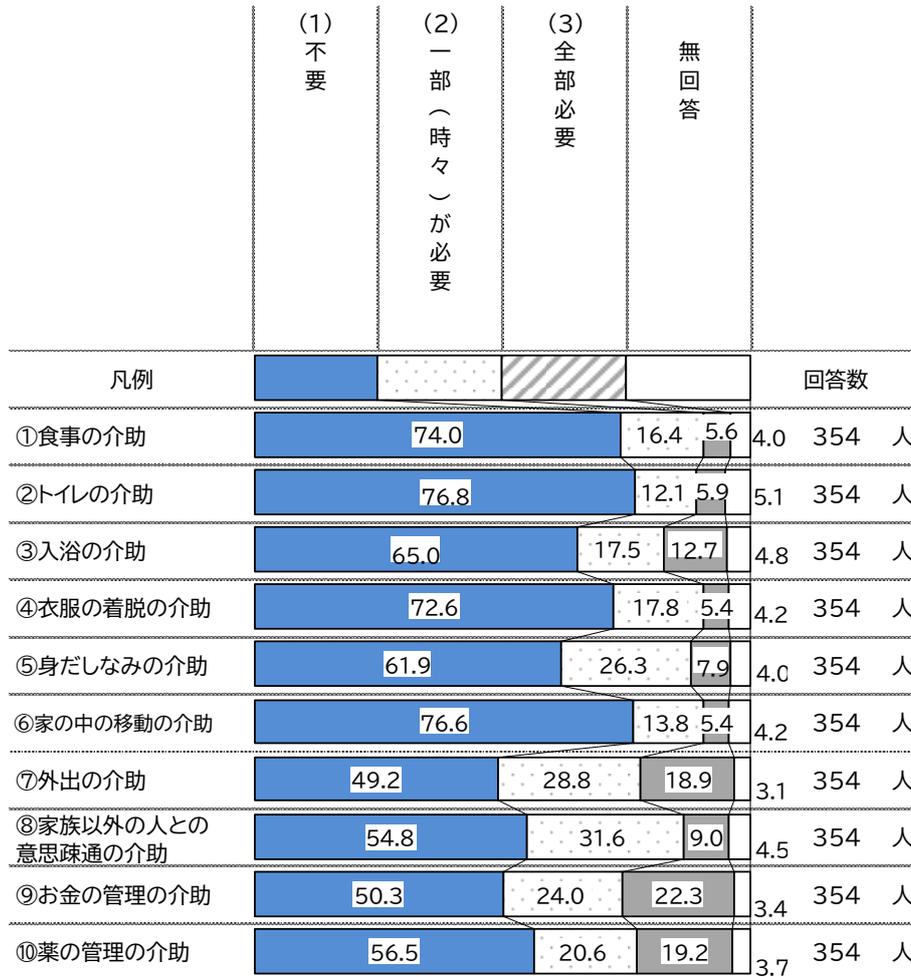
1位
2位

問4 日常生活での介助

日常の生活の中で、次の支援が必要ですか。①から⑩のそれぞれにお答えください。(①から⑩それぞれに○を1つ)

日常生活において何らかの介助を必要とする場面については、すべての項目において「不要」が4割を超えて最も多くなっています。

図 日常生活での介助



グラフ単位:(%)

障害種別にみると、

『①食事の介助』は、すべての障害で「不要」が5割を超えて最も多いものの、難病では「全部必要」(19.2%)がその他の障害と比べて多くなっています。

『②トイレの介助』は、すべての障害で「不要」が5割を超えて最も多いものの、難病では「全部必要」(15.4%)がその他の障害と比べて多くなっています。

表 日常生活での介助

①食事の介助

		調査数	(1) 不要	(2) 一部(時々)が必要	(3) 全部必要	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=						
			1位			
			2位			
全体		354	74.0	16.4	5.6	4.0
障害種別	身体障害	197	74.6	15.2	6.6	3.6
	知的障害	98	72.4	17.3	7.1	3.1
	精神障害	95	74.7	16.8	4.2	4.2
	難病	26	50.0	26.9	19.2	3.8
	発達障害	71	78.9	15.5	4.2	1.4
	高次脳機能障害	22	59.1	27.3	9.1	4.5

②トイレの介助

		調査数	(1) 不要	(2) 一部(時々)が必要	(3) 全部必要	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=						
			1位			
			2位			
全体		354	76.8	12.1	5.9	5.1
障害種別	身体障害	197	76.6	12.7	6.6	4.1
	知的障害	98	72.4	16.3	8.2	3.1
	精神障害	95	84.2	7.4	1.1	7.4
	難病	26	65.4	15.4	15.4	3.8
	発達障害	71	80.3	12.7	2.8	4.2
	高次脳機能障害	22	54.5	31.8	9.1	4.5

障害種別にみると、

『③入浴の介助』は、すべての障害で「不要」が5割を超えて最も多いものの、難病では「全部必要」(23.1%)がその他の障害と比べて多くなっています。

『④衣服の着脱の介助』は、すべての障害で「不要」が最も多いものの、高次脳機能障害では「一部(時々)が必要」(31.8%)がその他の障害と比べて多くなっています。

表 日常生活での介助

③入浴の介助

		調査数	(1) 不要	(2) 一部(時々)が必要	(3) 全部必要	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=						
			1位			
			2位			
全体		354	65.0	17.5	12.7	4.8
障害種別	身体障害	197	64.5	17.3	14.2	4.1
	知的障害	98	56.1	21.4	18.4	4.1
	精神障害	95	74.7	16.8	3.2	5.3
	難病	26	57.7	11.5	23.1	7.7
	発達障害	71	64.8	22.5	8.5	4.2
	高次脳機能障害	22	54.5	22.7	18.2	4.5

④衣服の着脱の介助

		調査数	(1) 不要	(2) 一部(時々)が必要	(3) 全部必要	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=						
			1位			
			2位			
全体		354	72.6	17.8	5.4	4.2
障害種別	身体障害	197	70.1	19.8	6.6	3.6
	知的障害	98	66.3	24.5	6.1	3.1
	精神障害	95	85.3	7.4	2.1	5.3
	難病	26	57.7	23.1	15.4	3.8
	発達障害	71	76.1	18.3	2.8	2.8
	高次脳機能障害	22	50.0	31.8	13.6	4.5

障害種別にみると、

『⑤身だしなみの介助』は、身体障害・精神障害・難病では「不要」が5割を超えて最も多く、知的障害・発達障害・高次脳機能障害では「一部（時々）が必要」が最も多くなっています。

『⑥家の中の移動の介助』は、すべての障害で「不要」が5割を超えて最も多いものの、難病では「一部（時々）が必要」（26.9%）がその他の障害と比べて多くなっています。

表 日常生活での介助

⑤身だしなみの介助

		調査数	(1) 不要	(2) 一部（時々）が必要	(3) 全部必要	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=						
			1位			
			2位			
全体		354	61.9	26.3	7.9	4.0
障害種別	身体障害	197	69.0	21.8	6.1	3.0
	知的障害	98	38.8	43.9	14.3	3.1
	精神障害	95	68.4	24.2	3.2	4.2
	難病	26	53.8	19.2	23.1	3.8
	発達障害	71	42.3	47.9	7.0	2.8
	高次脳機能障害	22	36.4	45.5	13.6	4.5

⑥家の中の移動の介助

		調査数	(1) 不要	(2) 一部（時々）が必要	(3) 全部必要	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=						
			1位			
			2位			
全体		354	76.6	13.8	5.4	4.2
障害種別	身体障害	197	72.6	16.8	7.1	3.6
	知的障害	98	78.6	14.3	4.1	3.1
	精神障害	95	84.2	8.4	1.1	6.3
	難病	26	50.0	26.9	19.2	3.8
	発達障害	71	84.5	11.3	1.4	2.8
	高次脳機能障害	22	63.6	13.6	13.6	9.1

障害種別にみると、

『⑦外出の介助』は、身体障害・知的障害・精神障害・発達障害では「不要」が4割を超えて最も多く、難病では「全部必要」(38.5%)、高次脳機能障害では「一部(時々)が必要」(40.9%)がそれぞれ最も多くなっています。

『⑧家族以外の人との意思疎通の介助』は、身体障害・精神障害・難病では「不要」が5割を超えて最も多く、知的障害・発達障害・高次脳機能障害では「一部(時々)が必要」が4割を超えて最も多くなっています。

表 日常生活での介助

⑦外出の介助

		調査数	(1) 不要	(2) 一部(時々)が必要	(3) 全部必要	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=						
			1位			
			2位			
全体		354	49.2	28.8	18.9	3.1
障害種別	身体障害	197	47.2	28.4	22.3	2.0
	知的障害	98	41.8	35.7	18.4	4.1
	精神障害	95	58.9	28.4	10.5	2.1
	難病	26	30.8	30.8	38.5	-
	発達障害	71	49.3	35.2	12.7	2.8
	高次脳機能障害	22	36.4	40.9	22.7	-

⑧家族以外の人との意思疎通の介助

		調査数	(1) 不要	(2) 一部(時々)が必要	(3) 全部必要	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=						
			1位			
			2位			
全体		354	54.8	31.6	9.0	4.5
障害種別	身体障害	197	65.5	23.9	6.1	4.6
	知的障害	98	31.6	46.9	18.4	3.1
	精神障害	95	53.7	35.8	6.3	4.2
	難病	26	61.5	15.4	15.4	7.7
	発達障害	71	32.4	49.3	16.9	1.4
	高次脳機能障害	22	36.4	40.9	18.2	4.5

障害種別にみると、

『⑨お金の管理の介助』は、身体障害・精神障害・難病では「不要」が4割を超えて最も多く、知的障害・発達障害、高次脳機能障害では「全部必要」が3割を超えて最も多くなっています。

『⑩薬の管理の介助』は、身体障害・精神障害・難病・高次脳機能障害では「不要」が4割を超えて最も多く、発達障害では「一部（時々）が必要」（39.4%）、知的障害では「全部必要」（35.7%）がそれぞれ最も多くなっています。

表 日常生活での介助

⑨お金の管理の介助

		調査数	(1) 不要	(2) 一部（時々）が必要	(3) 全部必要	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=						
			1位			
			2位			
全体		354	50.3	24.0	22.3	3.4
障害種別	身体障害	197	66.0	17.3	13.7	3.0
	知的障害	98	16.3	35.7	45.9	2.0
	精神障害	95	49.5	32.6	14.7	3.2
	難病	26	57.7	15.4	23.1	3.8
	発達障害	71	21.1	38.0	40.8	-
	高次脳機能障害	22	31.8	27.3	36.4	4.5

⑩薬の管理の介助

		調査数	(1) 不要	(2) 一部（時々）が必要	(3) 全部必要	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=						
			1位			
			2位			
全体		354	56.5	20.6	19.2	3.7
障害種別	身体障害	197	67.0	13.2	16.8	3.0
	知的障害	98	31.6	29.6	35.7	3.1
	精神障害	95	56.8	27.4	11.6	4.2
	難病	26	53.8	11.5	30.8	3.8
	発達障害	71	35.2	39.4	25.4	-
	高次脳機能障害	22	45.5	13.6	36.4	4.5

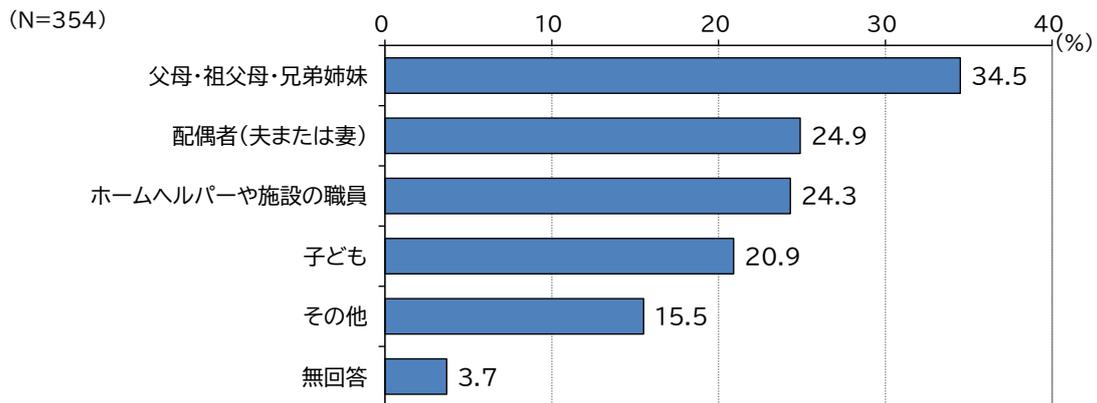
問5 主に支援してくれる人

あなたを支援してくれる方は主に誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

主に支援してくれる人は、「父母・祖父母・兄弟姉妹」(34.5%)が最も多く、次いで「配偶者(夫または妻)」(24.9%)、「ホームヘルパーや施設の職員」(24.3%)となっています。

障害種別にみると、身体障害・難病では「配偶者(夫または妻)」が最も多く、知的障害・精神障害・発達障害・高次脳機能障害では「父母・祖父母・兄弟姉妹」が最も多くなっています。

図表 主に介助している人



		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	
		父母・祖父母・兄弟姉妹	配偶者(夫または妻)	ホームヘルパーや施設の職員	子ども	その他	無回答
障害種別	全体	34.5	24.9	24.3	20.9	15.5	3.7
	身体障害	17.8	38.1	20.3	34.0	13.2	4.1
	知的障害	63.3	5.1	35.7	2.0	18.4	-
	精神障害	48.4	15.8	25.3	5.3	18.9	4.2
	難病	26.9	34.6	23.1	23.1	15.4	3.8
	発達障害	70.4	8.5	25.4	2.8	12.7	1.4
	高次脳機能障害	45.5	31.8	22.7	18.2	13.6	-

【表の見方】
 上段=回答数(人)
 下段=比率(%)
 網掛け=

1位
2位

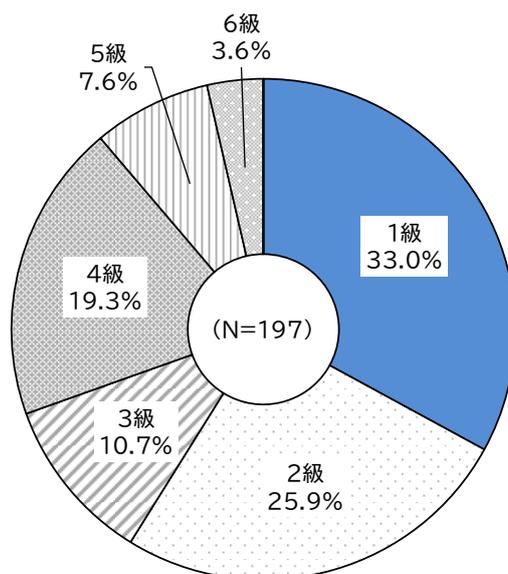
問6 身体障害者手帳の等級

あなたは身体障害者手帳をお持ちですか。(○は1つだけ)

身体障害者手帳の等級は、「1級」(33.0%)、「2級」(25.9%)、「3級」(10.7%)、「4級」(19.3%)、「5級」(7.6%)、「6級」(3.6%)となっています。

障害種別にみると、身体障害・難病では「1級」が最も多く、知的障害・精神障害・発達障害・高次脳機能障害では「2級」が最も多くなっています。

図表 身体障害者手帳の等級 ※手帳保持者のみの集計



		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	
		1級	2級	3級	4級	5級	6級	持っていない	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=		1位	2位						
全体	調査数	197	197	197	197	197	197	-	-
障害種別	身体障害	33.0	25.9	10.7	19.3	7.6	3.6	-	-
	知的障害	35.3	47.1	-	-	17.6	-	-	-
	精神障害	34.6	38.5	11.5	3.8	7.7	3.8	-	-
	難病	42.9	33.3	4.8	9.5	9.5	-	-	-
	発達障害	20.0	50.0	10.0	10.0	10.0	-	-	-
	高次脳機能障害	21.1	36.8	15.8	5.3	10.5	10.5	-	-

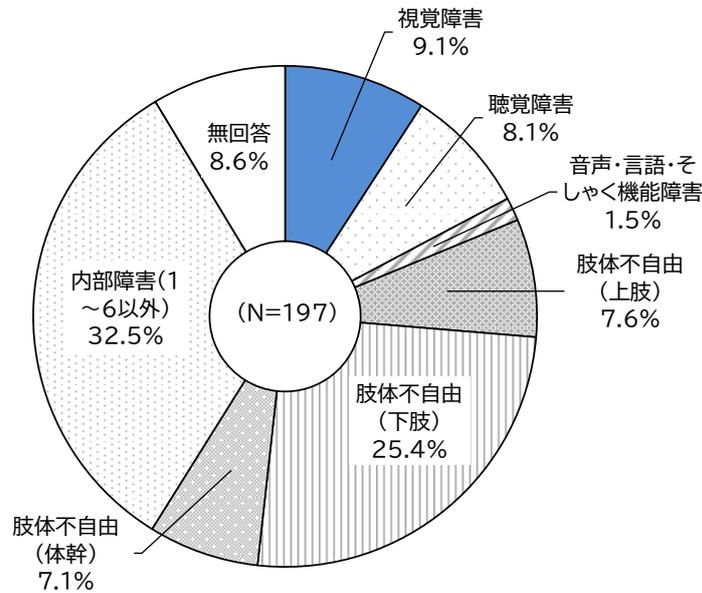
問7 身体障害の種別

身体障害者手帳をお持ちの場合、主たる障害をお答えください。(○は1つだけ)

身体障害の種別では、「内部障害（1～6以外）」（25.4%）が最も多く、次いで「肢体不自由（下肢）」（25.4%）、「視覚障害」（9.1%）となっています。

障害種別にみると、身体障害・精神障害・知的障害・発達障害では「内部障害（1～6以外）」が最も多く、難病・高次脳機能障害では「肢体不自由（下肢）」が最も多くなっています。

図表 身体障害の種別（※手帳保持者のみの集計）



【表の見方】 比率(%) 網掛け=	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	無回答	
		視覚障害	聴覚障害	音声・言語・そしゃく機能障害	肢体不自由(上肢)	肢体不自由(下肢)	肢体不自由(体幹)	内部障害(1～6以外)		
全体	197	9.1	8.1	1.5	7.6	25.4	7.1	32.5	8.6	
障害種別	身体障害	197	9.1	8.1	1.5	7.6	25.4	7.1	32.5	8.6
	知的障害	17	5.9	-	-	-	17.6	17.6	23.5	35.3
	精神障害	26	11.5	7.7	-	3.8	7.7	-	46.2	23.1
	難病	21	23.8	-	4.8	9.5	28.6	9.5	19.0	4.8
	発達障害	10	-	-	-	-	-	20.0	40.0	40.0
	高次脳機能障害	19	10.5	10.5	10.5	15.8	26.3	5.3	10.5	10.5

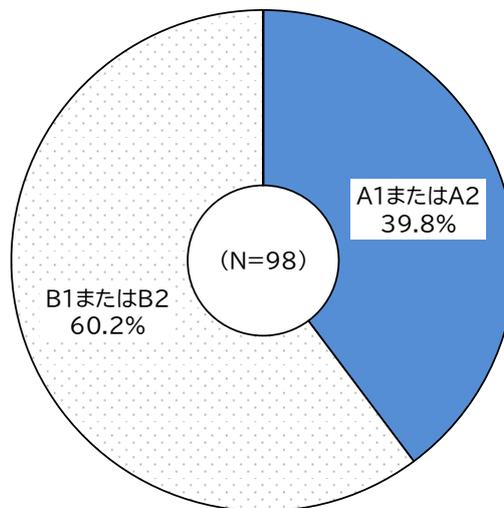
問8 療育手帳の判定

あなたは、療育手帳をお持ちですか。(○は1つだけ)

療育手帳の判定は、「A 1 または A 2」(39.8%)、「B 1 または B 2」(60.2%) となっています。

障害種別にみると、すべての障害で「B 1 または B 2」が最も多く、難病では8割を超えています。

図表 療育手帳の判定 (※手帳保持者のみの集計)



	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	無回答	
		A 1 または A 2	B 1 または B 2	手帳的障害は持っているがいない	持っていない		
全体	98	39.8	60.2	-	-	-	
障害種別	身体障害	17	41.2	58.8	-	-	-
	知的障害	98	39.8	60.2	-	-	-
	精神障害	6	33.3	66.7	-	-	-
	難病	5	20.0	80.0	-	-	-
	発達障害	51	37.3	62.7	-	-	-
高次脳機能障害	3	33.3	66.7	-	-	-	

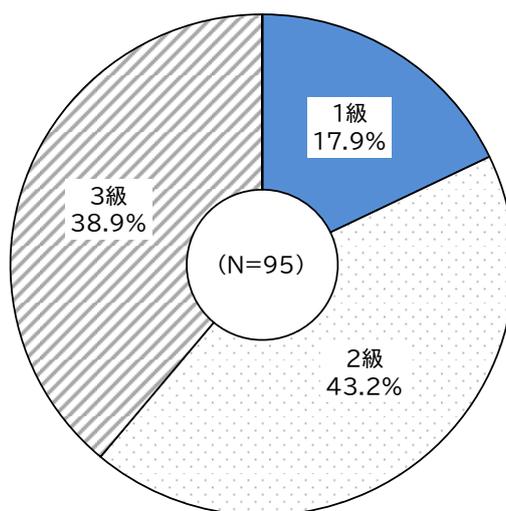
問9 精神障害者保健福祉手帳の等級

あなたは、精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。(○は1つだけ)

精神障害者保健福祉手帳の等級は、「1級」(17.9%)、「2級」(43.2%)、「3級」(38.9%)となっています。

障害種別にみると、身体障害・精神障害では「2級」が最も多く、知的障害・発達障害では「3級」、難病・高次脳機能障害では「1級」がそれぞれ最も多くなっています。

図表 精神障害者保健福祉手帳の等級 (※手帳保持者のみの集計)



【表の見方】 比率(%) 網掛け=	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	無回答	
		1級	2級	3級	精神障害者保健福祉手帳は持っているがいない	持っていない		
1位								
2位								
全体	95	17.9	43.2	38.9	-	-	-	
障害種別	身体障害	26	34.6	46.2	19.2	-	-	-
	知的障害	6	16.7	16.7	66.7	-	-	-
	精神障害	95	17.9	43.2	38.9	-	-	-
	難病	7	42.9	28.6	28.6	-	-	-
	発達障害	21	19.0	28.6	52.4	-	-	-
	高次脳機能障害	10	50.0	10.0	40.0	-	-	-

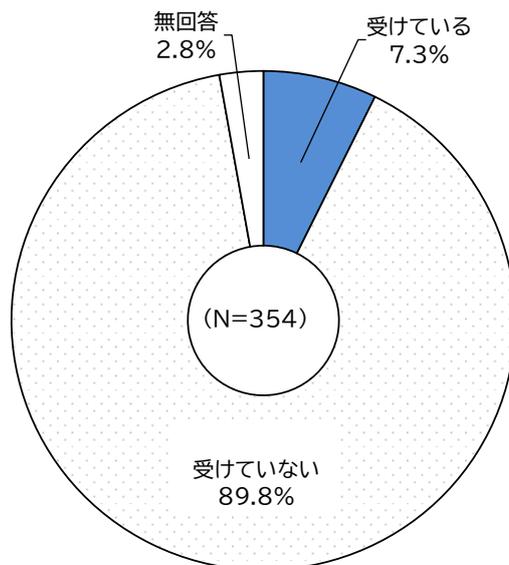
問10 難病（指定難病）の認定

あなたは難病（指定難病）の認定を受けていますか。（○は1つだけ）

難病（指定難病）の認定は、「受けている」（7.3%）、「受けていない」（89.8%）となっています。

障害種別にみると、難病以外では高次脳機能障害が「受けている」（22.7%）がその他の障害と比べて多くなっています。

図表 難病（指定難病）の認定



【表の見方】 比率(%) 網掛け=	調査数	(1)	(2)	無回答	
		受けている	受けていない		
1位					
2位					
全体	354	7.3	89.8	2.8	
障害種別	身体障害	197	10.7	87.3	2.0
	知的障害	98	5.1	91.8	3.1
	精神障害	95	7.4	92.6	-
	難病	26	100.0	-	-
	発達障害	71	1.4	97.2	1.4
	高次脳機能障害	22	22.7	77.3	-

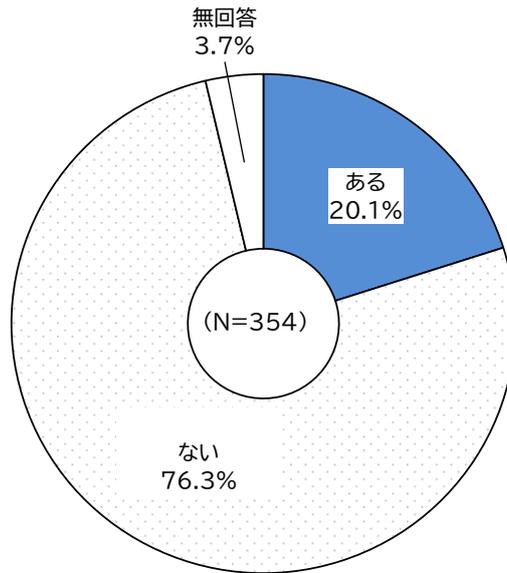
問11 発達障害の診断

あなたは発達障害として診断されたことがありますか。(○は1つだけ)

発達障害として診断されたことは、「ある」(20.1%)、「ない」(76.3%)となっています。

障害種別にみると、発達障害以外では知的障害が「ある」(52.0%)がその他の障害と比べて多くなっています。

図表 発達障害の診断



	調査数	(1)	(2)	無回答	
		ある	ない		
【表の見方】 比率(%) 網掛け=					
		1位	2位		
全体	354	20.1	76.3	3.7	
障害種別	身体障害	5.1	92.9	2.0	
	知的障害	52.0	39.8	8.2	
	精神障害	22.1	75.8	2.1	
	難病	3.8	80.8	15.4	
	発達障害	71	100.0	-	-
	高次脳機能障害	22	9.1	81.8	9.1

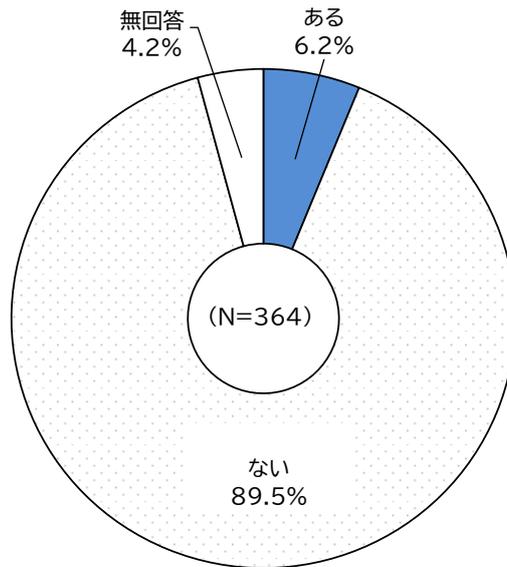
問12 高次脳機能障害の診断

あなたは高次脳機能障害として診断されたことがありますか。(○は1つだけ)

高次脳機能障害として診断されたことは、「ある」(6.2%)、「ない」(89.5%)となっています。

障害種別に見ると、高次脳機能障害以外では難病が「ある」(19.2%)がその他の障害と比べて多くなっています。

図表 高次脳機能障害の診断



	調査数	(1)		無回答	
		ある	ない		
全体	354	6.2	89.5	4.2	
障害種別	身体障害	197	9.6	86.3	4.1
	知的障害	98	3.1	89.8	7.1
	精神障害	95	10.5	88.4	1.1
	難病	26	19.2	73.1	7.7
	発達障害	71	2.8	97.2	-
	高次脳機能障害	22	100.0	-	-

【表の見方】
比率(%)
網掛け= 1位
2位

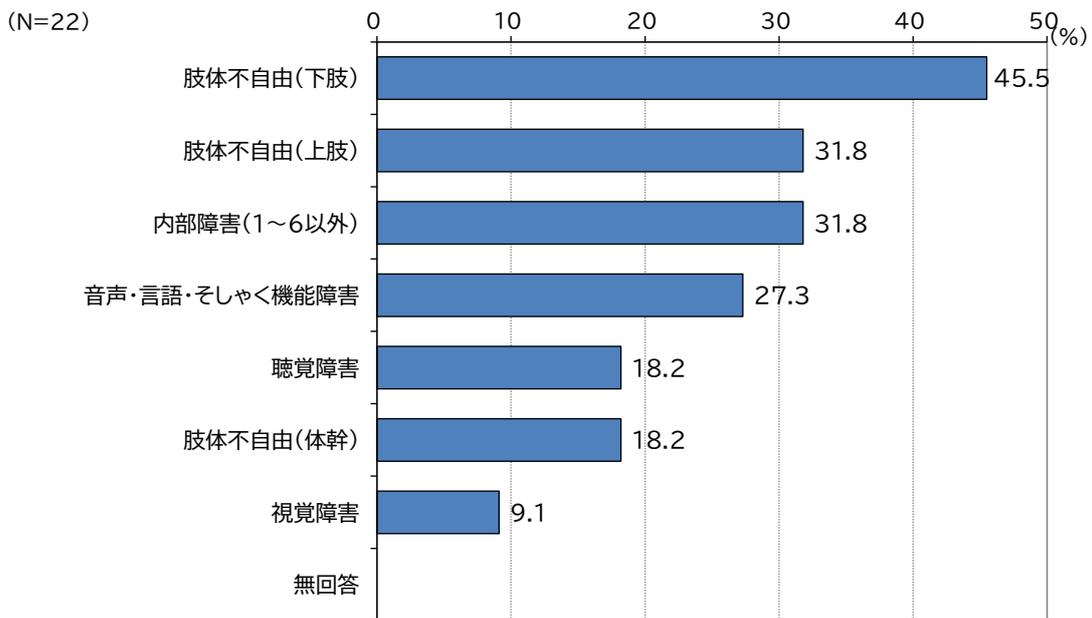
問13 高次脳機能障害の関連障害

問12で「1 ある」を選択した方がお答えください。
その関連障害をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

高次脳機能障害の関連障害については、「肢体不自由(下肢)」(45.5%)が最も多く、次いで「肢体不自由(上肢)」、「内部障害(1~6以外)」(同率で31.8%)となっています。

障害種別にみると、身体障害・難病・高次脳機能障害では「肢体不自由(下肢)」が最も多く、知的障害・精神障害・発達障害では「内部障害(1~6以外)」が最も多くなっています。

図表 高次脳機能障害の関連障害



【表の見方】 比率(%) 網掛け=	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	無回答	
		肢体不自由(下肢)	肢体不自由(上肢)	内部障害(1~6以外)	音声・言語・そしゃく機能障害	聴覚障害	肢体不自由(体幹)	視覚障害		
	22	45.5	31.8	31.8	27.3	18.2	18.2	9.1	-	
全体	22	45.5	31.8	31.8	27.3	18.2	18.2	9.1	-	
障害種別	身体障害	19	47.4	36.8	21.1	26.3	21.1	21.1	10.5	-
	知的障害	3	-	-	66.7	-	-	-	33.3	-
	精神障害	10	30.0	20.0	40.0	30.0	10.0	10.0	20.0	-
	難病	5	60.0	20.0	20.0	40.0	20.0	20.0	20.0	-
	発達障害	2	-	-	100.0	-	-	-	-	-
	高次脳機能障害	22	45.5	31.8	31.8	27.3	18.2	18.2	9.1	-

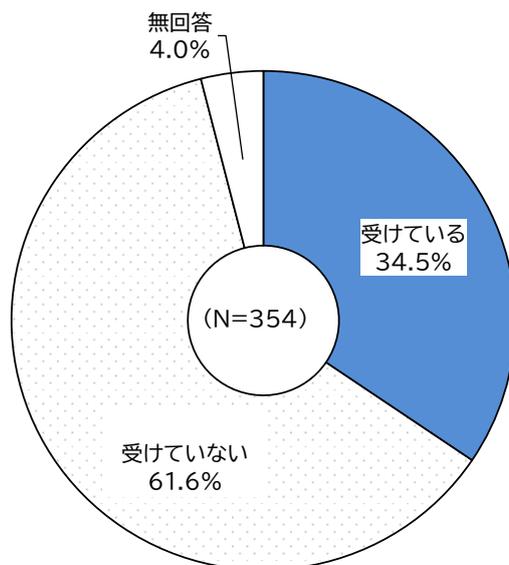
問14 現在医療的ケアを受けているか

あなたは現在医療的ケアを受けていますか。(○は1つだけ)

現在医療的ケアを受けているかは、「受けている」(34.5%)、「受けていない」(61.6%)となっています。

障害種別にみると、高次脳機能障害以外の障害で「受けていない」が5割を超えて多く、高次脳機能障害では「受けている」(45.5%)がその他の障害と比べて多くなっています。

図表 現在医療ケアを受けているか



	調査数	(1)	(2)	無回答	
		受けている	受けていない		
全体	354	34.5	61.6	4.0	
障害種別	身体障害	197	41.6	54.3	4.1
	知的障害	98	19.4	74.5	6.1
	精神障害	95	35.8	63.2	1.1
	難病	26	42.3	57.7	-
	発達障害	71	22.5	71.8	5.6
	高次脳機能障害	22	45.5	45.5	9.1

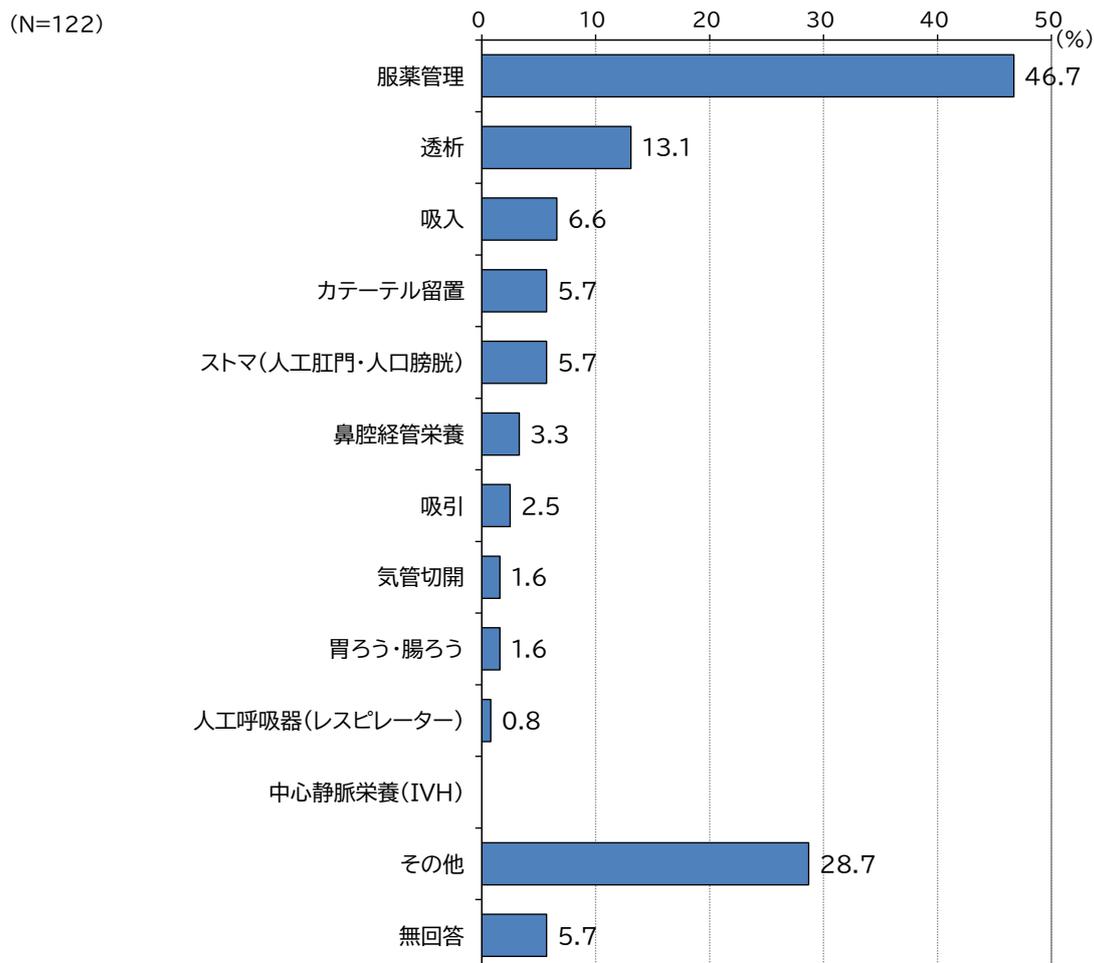
問15 現在受けている医療的ケアの種類

問14で「1 受けている」を選択した方がお答えください。

あなたが現在受けている医療的ケアをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

現在受けている医療的ケアの種類は、「服薬管理」(46.7%)が最も多く、次いで「透析」(13.1%)、「吸入」(6.6%)となっています。

図 現在受けている医療的ケアの種類



障害種別にみると、すべての障害で「服薬管理」が3割を超えて最も多くなっています。

表 現在受けている医療的ケアの種類

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	
		調査数	服薬管理	透析	吸入	カテーテル留置	ストマ（人工肛門・人口膀胱）	鼻腔経管栄養
【表の見方】 比率(%) 網掛け=			1位					
			2位					
全体		122	46.7	13.1	6.6	5.7	5.7	3.3
障害種別	身体障害	82	39.0	17.1	7.3	8.5	7.3	2.4
	知的障害	19	63.2	5.3	5.3	-	-	5.3
	精神障害	34	55.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9
	難病	11	63.6	-	27.3	9.1	9.1	9.1
	発達障害	16	75.0	6.3	-	-	-	-
	高次脳機能障害	10	70.0	10.0	10.0	-	-	10.0

		(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	
		吸引	気管切開	胃ろう・腸ろう	人工呼吸器（レスピレーター）	中心静脈栄養（IVH）	その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=			1位					
			2位					
全体		2.5	1.6	1.6	0.8	-	28.7	5.7
障害種別	身体障害	3.7	2.4	2.4	1.2	-	29.3	7.3
	知的障害	-	-	-	-	-	21.1	5.3
	精神障害	-	-	-	-	-	35.3	5.9
	難病	9.1	18.2	9.1	9.1	-	27.3	-
	発達障害	-	-	-	-	-	18.8	-
	高次脳機能障害	10.0	10.0	-	-	-	20.0	10.0

2. 住まいや暮らしについて

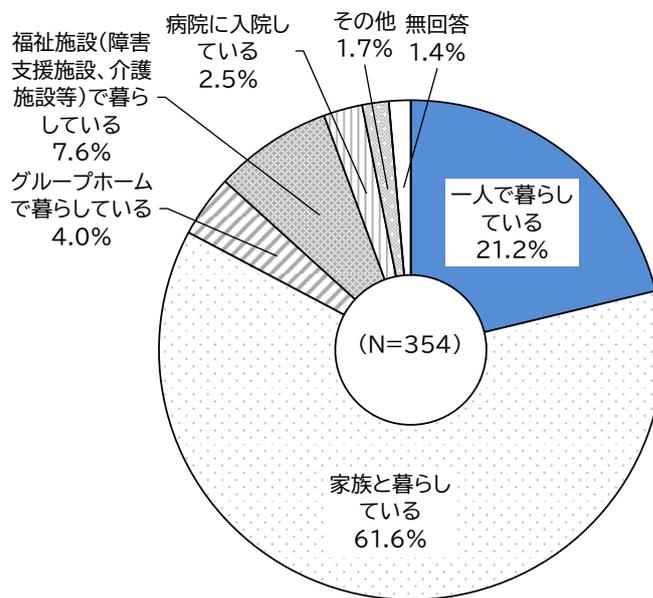
問16 現在の暮らし方

あなたは現在どのように暮らしていますか。(〇は1つだけ)

現在の暮らし方は、「家族と暮らしている」(61.6%)が最も多く、次いで「一人で暮らしている」(21.2%)、「福祉施設(障害者支援施設、介護施設等)で暮らしている」(7.6%)となっています。

障害種別に見ると、すべての障害で「家族と暮らしている」が5割を超えて最も多く、精神障害では「一人で暮らしている」(28.4%)がその他の障害と比べて多くなっています。

図表 現在の暮らし方



	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	無回答	
		一人で暮らしている	家族と暮らしている	グループホームで暮らしている	福祉施設(障害者支援施設、介護施設等)で暮らしている	病院に入院している	その他		
全体	354	21.2	61.6	4.0	7.6	2.5	1.7	1.4	
障害種別	身体障害	197	21.3	62.9	1.0	7.6	3.6	2.0	1.5
	知的障害	98	9.2	62.2	9.2	14.3	2.0	-	3.1
	精神障害	95	30.5	57.9	4.2	3.2	1.1	2.1	1.1
	難病	26	15.4	69.2	-	-	15.4	-	-
	発達障害	71	5.6	76.1	8.5	8.5	-	1.4	-
	高次脳機能障害	22	9.1	68.2	-	18.2	4.5	-	-

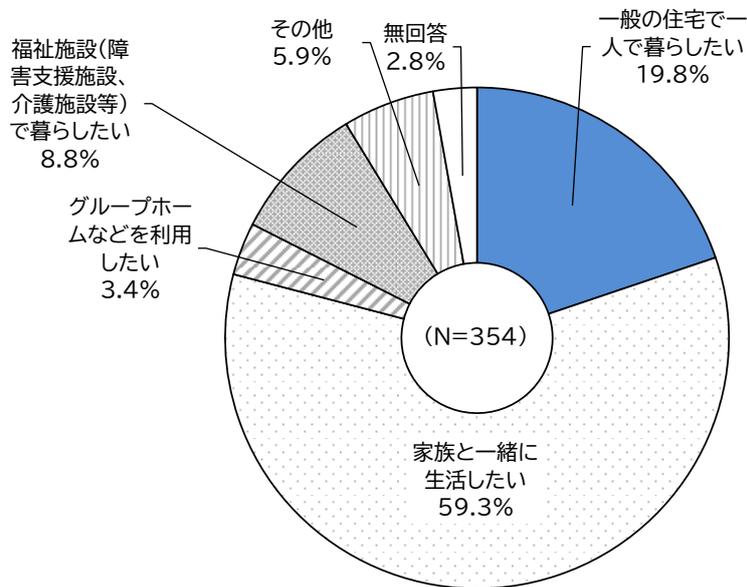
問17 今後3年以内に希望する暮らし方

あなたは今後3年以内にどのような暮らしをしたいと思いますか。(〇は1つだけ)

今後3年以内に希望する暮らし方は、「家族と一緒に生活したい」(59.3%)が最も多く、次いで「一般の住宅で一人で暮らしたい」(19.8%)、「福祉施設(障害者支援施設、介護施設等)で暮らしたい」(8.8%)となっています。

障害種別に見ると、すべての障害で「家族と一緒に生活したい」が5割を超えて最も多く、精神障害では「一般の住宅で一人で暮らしたい」(28.4%)がその他の障害と比べて多くなっています。

図表 今後3年以内に希望する暮らし方



	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	無回答	
		一般の住宅で一人で暮らしたい	家族と一緒に生活したい	グループホームなどを利用したい	福祉施設(障害者支援施設、介護施設等)で暮らしたい	その他		
全体	354	19.8	59.3	3.4	8.8	5.9	2.8	
障害種別	身体障害	197	18.8	63.5	1.5	7.1	5.1	4.1
	知的障害	98	11.2	59.2	8.2	17.3	1.0	3.1
	精神障害	95	28.4	53.7	4.2	3.2	8.4	2.1
	難病	26	19.2	73.1	-	-	7.7	-
	発達障害	71	11.3	66.2	8.5	12.7	1.4	-
	高次脳機能障害	22	13.6	63.6	4.5	9.1	4.5	4.5

【表の見方】
比率(%)
網掛け=

1位
2位

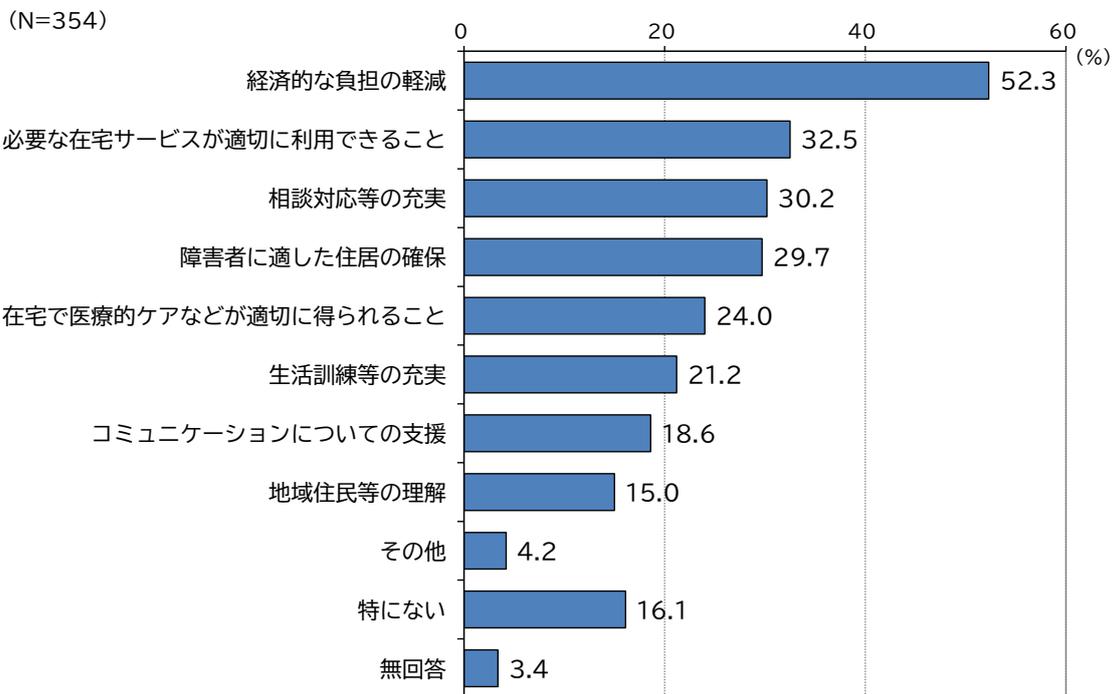
問18 希望する暮らしを送るために必要な支援

希望する暮らしを送るためには、どのような支援があればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

希望する暮らしを送るために必要な支援は、「経済的な負担の削減」(52.3%)が最も多く、次いで「必要な在宅サービスが適切に利用できること」(32.5%)、「相談対応等の充実」(30.2%)となっています。

障害種別に見ると、高次脳機能障害以外の障害で「経済的な負担の削減」が4割を超えて多く、高次脳機能障害では「必要な在宅サービスが適切に利用できること」(50.0%)が最も多くなっています。

図表 希望する暮らしを送るために必要な支援



調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	無回答	
	経済的な負担の軽減	必要な在宅サービスが適切に利用できること	相談対応等の充実	障害者に適した住居の確保	在宅で医療的ケアなどが適切に得られること	生活訓練等の充実	コミュニケーションについての支援	地域住民等の理解	その他	特にない		
全体	354	52.3	32.5	30.2	29.7	24.0	21.2	18.6	15.0	4.2	16.1	3.4
障害種別												
身体障害	197	44.2	38.6	20.3	28.4	32.0	19.3	13.2	12.2	3.6	17.3	3.0
知的障害	98	56.1	28.6	38.8	35.7	13.3	27.6	24.5	23.5	3.1	16.3	5.1
精神障害	95	63.2	22.1	42.1	31.6	14.7	23.2	25.3	14.7	5.3	8.4	3.2
難病	26	65.4	53.8	38.5	46.2	50.0	34.6	19.2	34.6	7.7	7.7	-
発達障害	71	67.6	25.4	43.7	39.4	12.7	33.8	36.6	23.9	2.8	8.5	2.8
高次脳機能障害	22	45.5	50.0	31.8	40.9	36.4	45.5	22.7	18.2	-	4.5	-

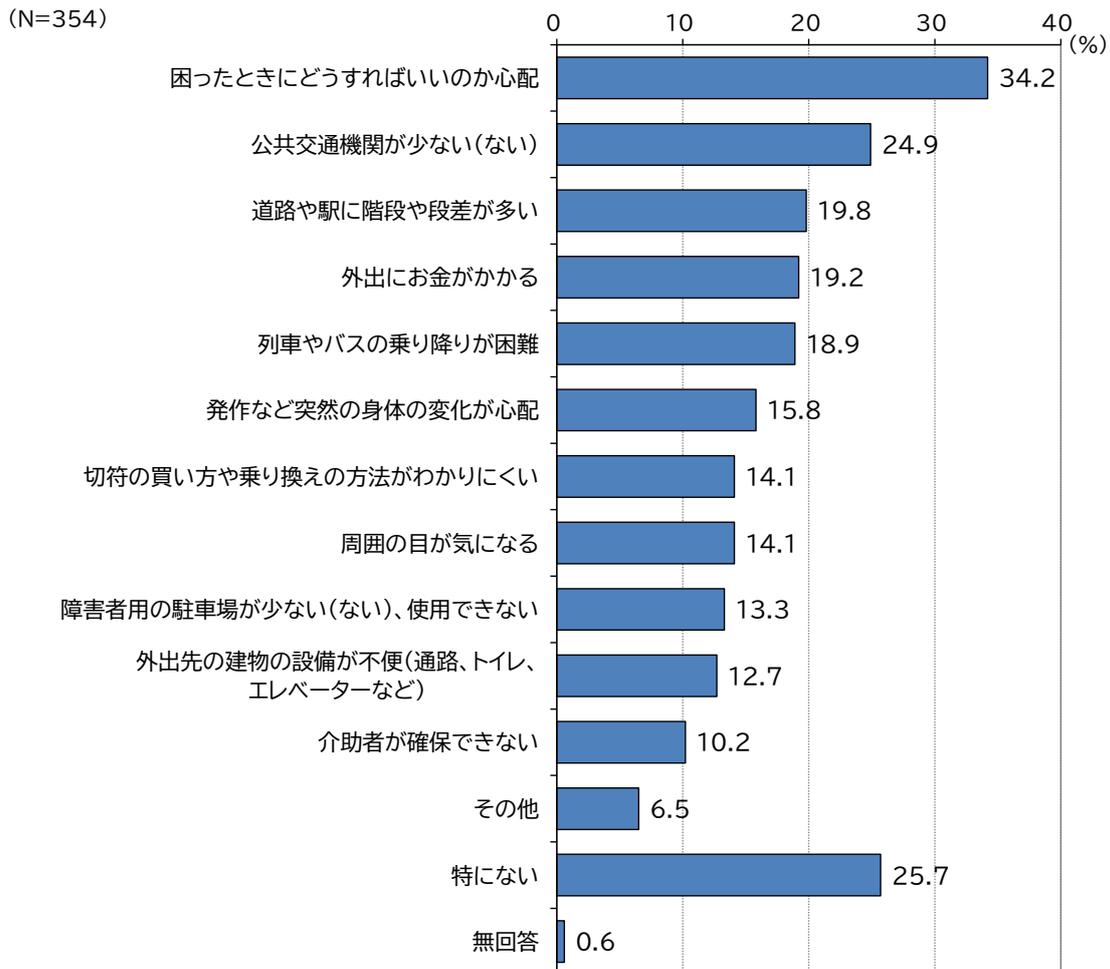
3. 日中活動や就労について

問19 外出時に困ること

外出する時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

外出時に困ることは、「困ったときにどうすればいいのか心配」(34.2%)が最も多く、次いで「公共交通機関が少ない(ない)」(24.9%)、「道路や駅に階段や段差が多い」(19.8%)となっています。また、「特にない」(25.7%)も多くなっています。

図 外出時に困ること



障害種別にみると、身体障害では「道路や駅に階段や段差が多い」が最も多く、知的障害・精神障害・発達障害・高次脳機能障害では「困ったときにどうすればいいのか心配」、難病では「列車やバスの乗り降りが困難」、「周囲の目が気になる」（同率で 34.6%）がそれぞれ最も多くなっています。

表 外出時に困ること

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	
【表の見方】 比率(%) 網掛け=		困ったときにどうすればいいのか心配	公共交通機関が少ない(ない)	道路や駅に階段や段差が多い	外出にお金がかかる	列車やバスの乗り降りが困難	発作など突然の身体の変化が心配	りに符の買い方や乗り換えの方法がわか	
		1位							
	2位								
全体	354	34.2	24.9	19.8	19.2	18.9	15.8	14.1	
障害種別	身体障害	197	27.9	21.3	29.4	17.8	28.4	14.7	14.7
	知的障害	98	45.9	21.4	10.2	17.3	6.1	13.3	17.3
	精神障害	95	38.9	30.5	7.4	23.2	11.6	24.2	11.6
	難病	26	30.8	19.2	30.8	30.8	34.6	26.9	19.2
	発達障害	71	53.5	22.5	1.4	22.5	4.2	14.1	21.1
	高次脳機能障害	22	40.9	9.1	18.2	13.6	13.6	13.6	13.6

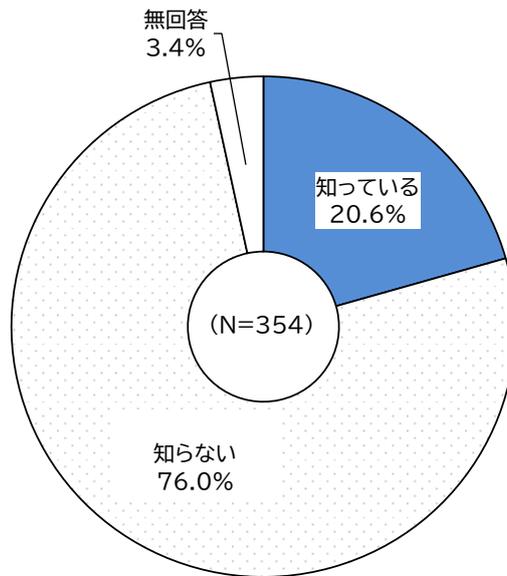
		(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	
【表の見方】 比率(%) 網掛け=		周囲の目が気になる	障害者用の駐車場が少ない(ない)、	外レ、先の建物、タ	介助者が確保できない	その他	特にな	無回答
		1位						
	2位							
全体		14.1	13.3	12.7	10.2	6.5	25.7	2.8
障害種別	身体障害	10.2	20.3	18.8	12.2	6.6	27.4	2.0
	知的障害	18.4	4.1	9.2	11.2	5.1	24.5	5.1
	精神障害	22.1	6.3	4.2	6.3	7.4	27.4	2.1
	難病	34.6	23.1	23.1	15.4	15.4	11.5	-
	発達障害	23.9	2.8	5.6	8.5	5.6	23.9	1.4
	高次脳機能障害	27.3	18.2	13.6	18.2	22.7	13.6	-

問20 障害者団体の認知度

地域には、障害のある本人やその家族の組織として障害種別ごとに、それぞれの目的にそった活動をしている障害者団体があります。あなたは、障害者団体について知っていますか。(〇は1つだけ)

障害者団体の認知度は、「知っている」(20.6%)、「知らない」(76.0%)となっています。
障害種別にみると、すべての障害で「知らない」が6割以上となっています。

図表 障害者団体の認知度



【表の見方】 比率(%) 網掛け=	調査数	(1)	(2)	無回答	
		知っている	知らない		
1位					
2位					
全体	354	20.6	76.0	3.4	
障害種別	身体障害	197	18.8	78.2	3.0
	知的障害	98	30.6	64.3	5.1
	精神障害	95	12.6	83.2	4.2
	難病	26	23.1	73.1	3.8
	発達障害	71	28.2	71.8	-
	高次脳機能障害	22	13.6	81.8	4.5

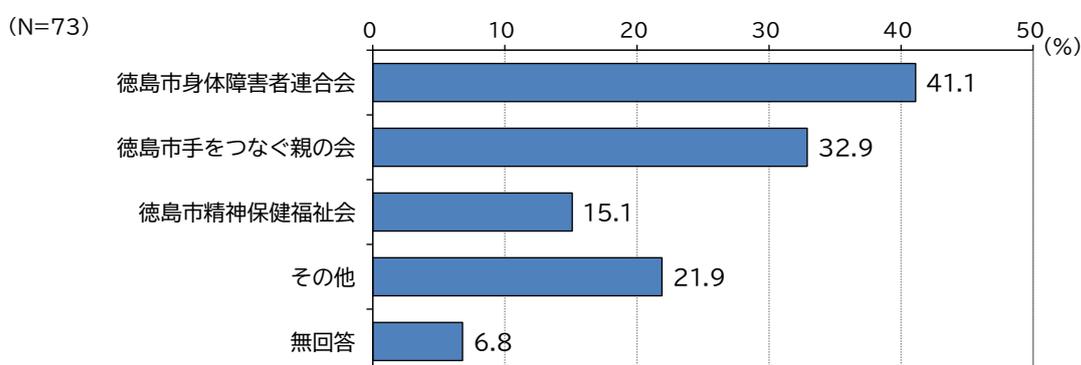
問21 知っている障害者団体名

問20で「1 知っている」を選択した方のみお答えください。
 知っている障害者団体名をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

知っている障害者団体名は、「徳島市身体障害者連合会」(41.1%)が最も多く、次いで「徳島市手をつなぐ親の会」(32.9%)、「徳島市精神保健福祉会」(15.1%)となっています。

障害種別にみると、身体障害では「徳島市身体障害者連合会」(54.1%)が最も多く、知的障害・発達障害では「徳島市手をつなぐ親の会」、精神障害では「徳島市精神保健福祉会」(58.3%)、難病では「その他」(50.0%)、高次脳機能障害では「徳島市身体障害者連合会」、「その他」(同率で33.3%)がそれぞれ最も多くなっています。

図表 知っている障害者団体名



	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	無回答	
		徳島市身体障害者連合会	徳島市手をつなぐ親の会	徳島市精神保健福祉会	その他		
全体	73	41.1	32.9	15.1	21.9	6.8	
障害種別	身体障害	54.1	10.8	8.1	29.7	10.8	
	知的障害	33.3	66.7	6.7	13.3	3.3	
	精神障害	33.3	16.7	58.3	25.0	-	
	難病	33.3	-	16.7	50.0	16.7	
	発達障害	20	15.0	60.0	10.0	15.0	5.0
	高次脳機能障害	3	33.3	-	-	33.3	33.3

【表の見方】
 比率(%)
 網掛け=

1位
2位

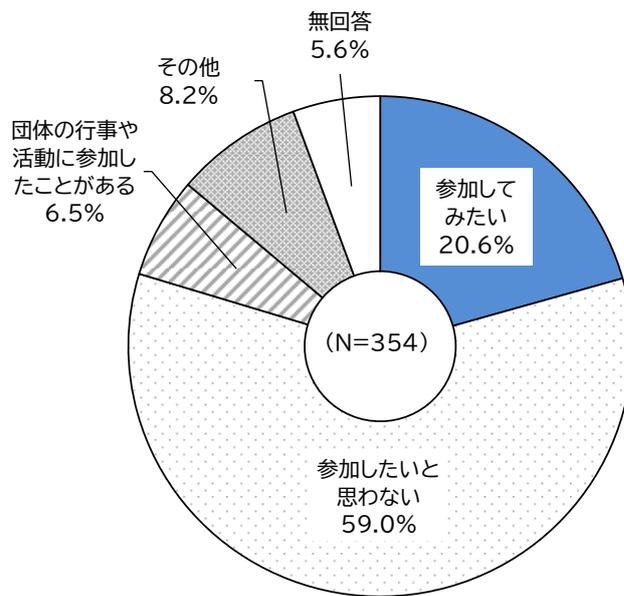
問22 障害者団体の行事等への参加意向

あなたは、障害者団体の行事や活動に参加したいと思いますか。(○は1つだけ)

障害者団体の行事等への参加意向は、「参加したいと思わない」(59.0%)が最も多く、次いで「参加してみたい」(20.6%)、「団体の行事や活動に参加したことがある」(6.5%)となっています。

障害種別に見ると、すべての障害で「参加したいと思わない」が4割を超えて最も多く、身体障害では61.9%と6割を超えています。

図表 障害者団体の行事等への参加意向



	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	無回答	
		参加してみたい	参加したいと思わない	団体の行事や活動に参加したことがある	その他		
全体	354	20.6	59.0	6.5	8.2	5.6	
障害種別	身体障害	197	18.8	61.9	6.6	7.1	5.6
	知的障害	98	27.6	48.0	9.2	7.1	8.2
	精神障害	95	20.0	57.9	4.2	13.7	4.2
	難病	26	26.9	57.7	3.8	7.7	3.8
	発達障害	71	25.4	54.9	8.5	8.5	2.8
	高次脳機能障害	22	22.7	59.1	9.1	4.5	4.5

【表の見方】
比率(%)
網掛け=

1位
2位

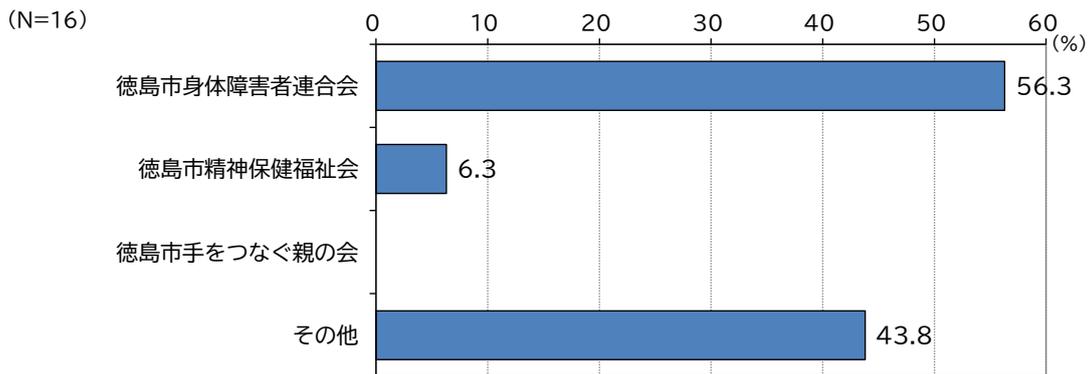
問23 入会している障害者団体名

団体に入会している方のみお答えください。
 入会している障害者団体名をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

入会している障害者団体名は、「徳島市身体障害者連合会」(56.3%)が最も多くなっています。

障害種別に見ると、身体障害では「徳島市身体障害者連合会」(56.3%)が最も多くなっています。

図表 入会している障害者団体名



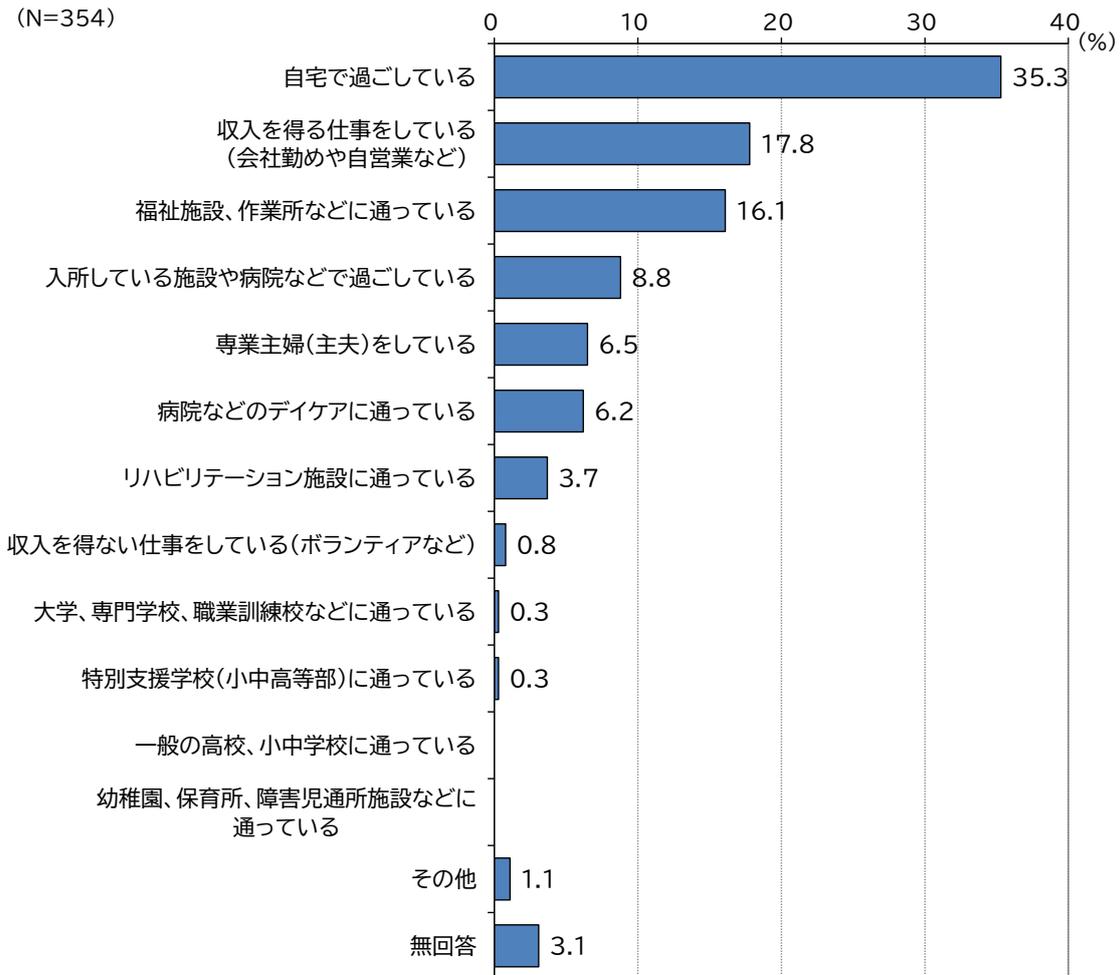
		調査数	(1) 徳島市身体障害者連合会	(3) 徳島市精神保健福祉会	(2) 徳島市手をつなぐ親の会	(4) その他
【表の見方】 比率(%) 網掛け=						
			1位			
			2位			
全体		16	56.3	6.3	-	43.8
障害種別	身体障害	16	56.3	6.3	-	43.8
	知的障害	7	-	-	57.1	42.9
	精神障害	2	50.0	-	-	50.0
	難病	1	-	-	-	100.0
	発達障害	5	-	-	60.0	40.0
	高次脳機能障害	2	50.0	-	-	50.0

問24 平日の日中の過ごし方

あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(○は1つだけ)

平日の日中の過ごし方は、「自宅で過ごしている」が最も多く、次いで「収入を得る仕事をしている(会社勤めや自営業など)」(17.8%)、「福祉施設、作業所などに通っている」(16.1%)となっています。

図 平日の日中の過ごし方



障害種別にみると、身体障害・精神障害・難病・高次脳機能障害では「自宅で過ごしている」が最も多く、知的障害・発達障害では「福祉施設、作業所などに通っている」が最も多くなっています。

表 平日の日中の過ごし方

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	
		調査数	収入を得る仕事をしている（会社勤めや自営業など）	収入を得ない仕事をしている（ボランティアなど）	専業主婦（主夫）をしている	福祉施設、作業所などに通っている	病院などのデイケアに通っている	リハビリテーション施設に通っている	自宅で過ごしている
【表の見方】 比率(%) 網掛け=			1位	2位					
全体		354	17.8	0.8	6.5	16.1	6.2	3.7	35.3
障害種別	身体障害	197	12.7	0.5	10.7	5.6	6.6	6.6	45.2
	知的障害	98	21.4	-	-	39.8	2.0	-	12.2
	精神障害	95	25.3	1.1	4.2	16.8	8.4	1.1	38.9
	難病	26	19.2	-	7.7	3.8	7.7	3.8	34.6
	発達障害	71	25.4	-	2.8	39.4	2.8	-	14.1
	高次脳機能障害	22	9.1	-	9.1	9.1	9.1	13.6	36.4

		(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	
		入所している施設や病院などで過ごし	大学、専門学校、職業訓練校などに通っている	特別支援学校（小中高等部）に通っている	一般の高校、小中学校に通っている	幼稚園、保育所、障害児通所施設などに通っている	その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=			1位	2位				
全体		8.8	0.3	0.3	-	-	1.1	3.1
障害種別	身体障害	9.1	-	-	-	-	1.5	1.5
	知的障害	16.3	1.0	1.0	-	-	1.0	5.1
	精神障害	2.1	-	-	-	-	1.1	1.1
	難病	15.4	3.8	-	-	-	3.8	-
	発達障害	8.5	1.4	1.4	-	-	1.4	2.8
	高次脳機能障害	9.1	-	-	-	-	-	4.5

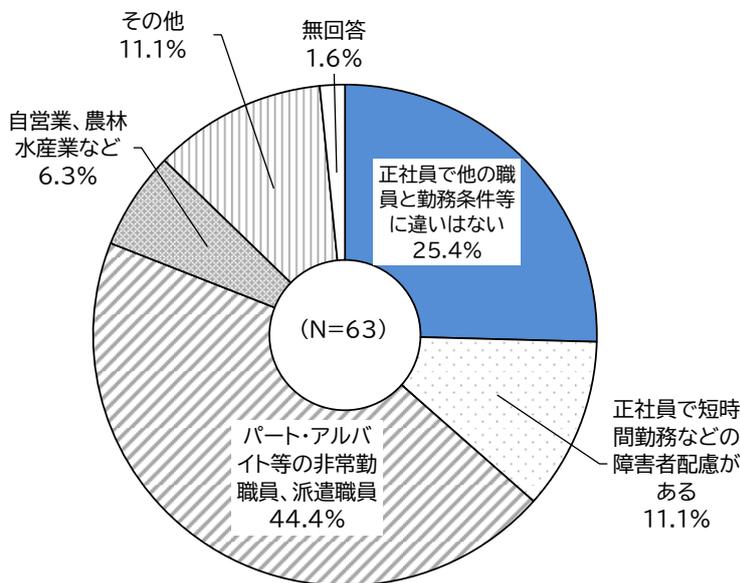
問25 就労者の勤務形態

問24で「1 収入を得る仕事をしている」を選択した方のみお答えください。
 どのような勤務形態で働いていますか。(○は1つだけ)

就労者の勤務形態は、「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」(44.4%)が最も多く、次いで「正社員で他の職員と勤務条件等に違いはない」(25.4%)、「正社員で短時間勤務などの障害者配慮がある」(11.1%)となっています。

障害種別に見ると、身体障害・難病では「正社員で他の職員と勤務条件等に違いはない」が最も多く、知的障害・精神障害・発達障害・高次脳機能障害では「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」が最も多くなっています。

図表 就労者の勤務形態



調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	無回答		
	は正社員で他の職員と勤務条件等に違い	がある正社員で短時間勤務などの障害者配慮	派遣職員、パート・アルバイト等の非常勤職員、	自営業、農林水産業など	その他			
全体	63	25.4	11.1	44.4	6.3	11.1	1.6	
障害種別	身体障害	25	44.0	8.0	36.0	8.0	-	4.0
	知的障害	21	9.5	23.8	42.9	4.8	19.0	-
	精神障害	24	16.7	-	58.3	8.3	16.7	-
	難病	5	60.0	-	40.0	-	-	-
	発達障害	18	11.1	16.7	44.4	5.6	22.2	-
	高次脳機能障害	2	-	-	100.0	-	-	-

【表の見方】

比率(%)

網掛け=

1位

2位

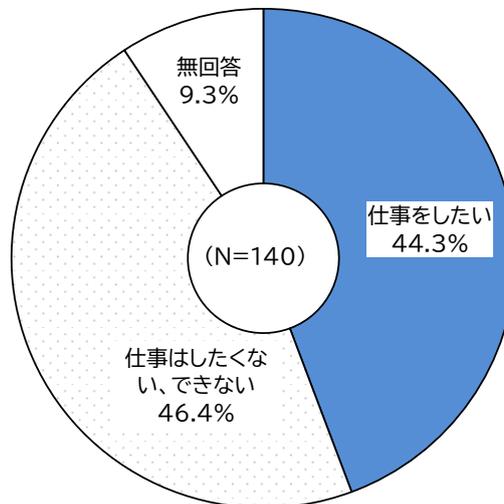
問26 今後の就労意向

問24で「1 収入を得る仕事をしている」以外を選択した18～64歳の方のみお答えください。
あなたは、今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。(〇は1つだけ)

今後の就労意向は、「仕事をしたい」(44.3%)、「仕事はしたくない、できない」(46.4%)となっています。

障害種別にみると、精神障害・発達障害では「仕事をしたい」が5割を超えて最も多く、身体障害・知的障害・難病では「仕事はしたくない、できない」が最も多く、難病では8割以上となっています。また、高次脳機能障害では「仕事をしたい」、「仕事はしたくない、できない」(同率で40.0%)となっています。

図表 今後の就労意向



	調査数	(1)	(2)	無回答	
		仕事をしたい	仕事はしたくない、できない		
全体	140	44.3	46.4	9.3	
障害種別	身体障害	44	36.4	50.0	13.6
	知的障害	64	42.2	46.9	10.9
	精神障害	57	52.6	40.4	7.0
	難病	10	-	80.0	20.0
	発達障害	46	54.3	39.1	6.5
	高次脳機能障害	10	40.0	40.0	20.0

【表の見方】
比率(%)
網掛け= 1位
2位

問27 職業訓練の意向

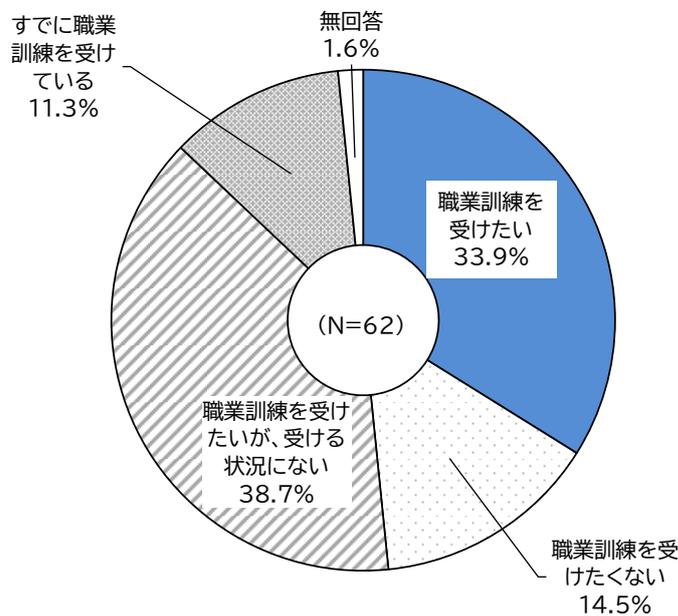
問26で「1 仕事をしたい」を選択した方のみお答えください。

収入を得る仕事をするために、職業訓練などを受けたいと思いますか。(〇は1つだけ)

職業訓練の意向は、「職業訓練を受けたいが、受ける状況にない」(38.7%)が最も多く、次いで「職業訓練を受けたい」(33.9%)、「職業訓練を受けたくない」(14.5%)、「すでに職業訓練を受けている」(11.3%)となっています。

障害種別にみると、身体障害・精神障害・発達障害・高次脳機能障害では「職業訓練を受けたいが、受ける状況にない」が最も多く、知的障害では「職業訓練を受けたい」(44.4%)が最も多くなっています。

図表 職業訓練の意向



	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	無回答	
		職業訓練を受けたい	職業訓練を受けたくない	職業訓練を受けたいが、受ける状況にない	すでに職業訓練を受けている		
全体	62	33.9	14.5	38.7	11.3	1.6	
障害種別	身体障害	16	31.3	-	50.0	12.5	6.3
	知的障害	27	44.4	11.1	25.9	18.5	-
	精神障害	30	26.7	16.7	50.0	6.7	-
	難病	-	-	-	-	-	-
	発達障害	25	28.0	20.0	36.0	16.0	-
高次脳機能障害	4	-	-	75.0	25.0	-	

【表の見方】
比率(%)
網掛け=

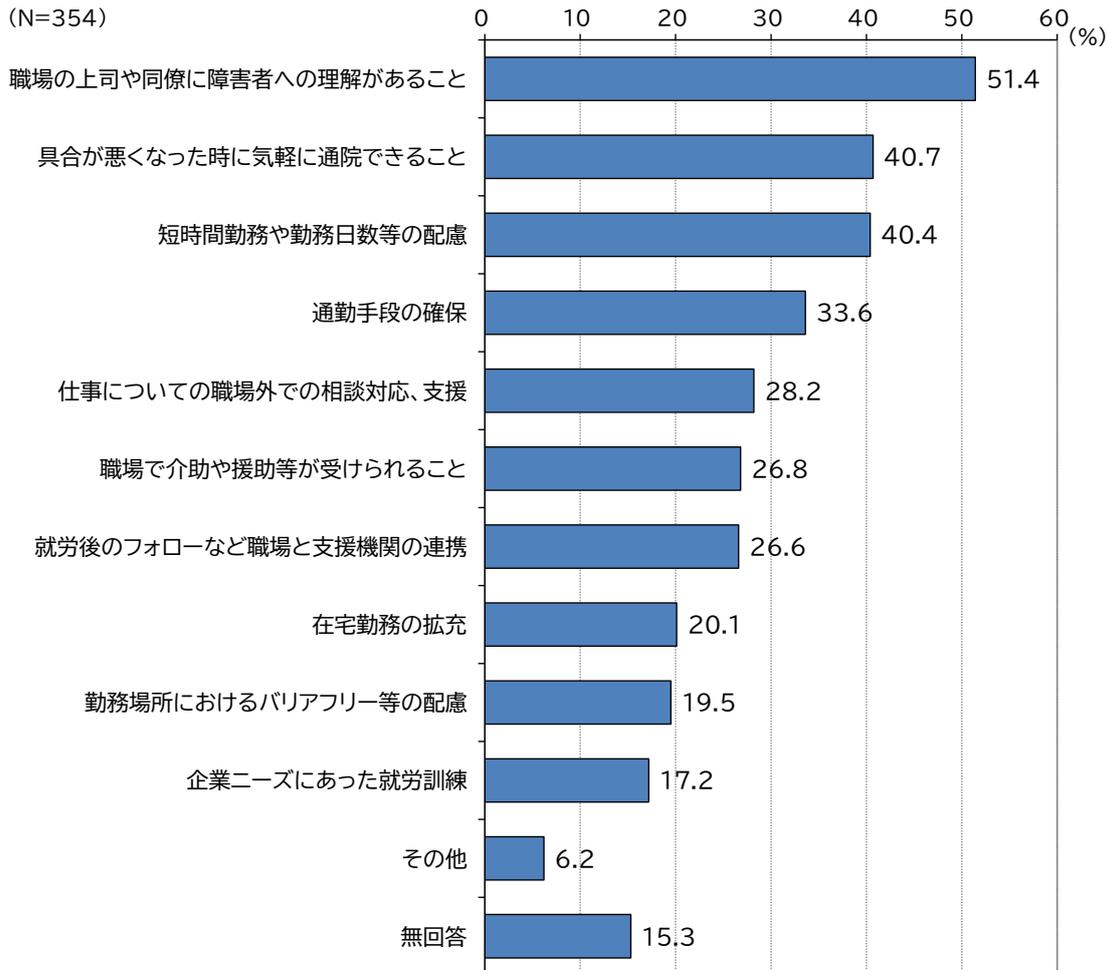
1位
2位

問28 就労支援に必要なこと

あなたは、障害者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

就労支援に必要なことは、「職場の上司や同僚に障害者への理解があること」(51.4%)が最も多く、次いで「具合が悪くなった時に気軽に通院できること」(40.7%)、「短時間勤務や勤務日数等の配慮」(40.4%)となっています。

図 就労支援に必要なこと



障害種別にみると、身体障害では「具合が悪くなった時に気軽に通院できること」、「職場の上司や同僚に障害者への理解があること」（同率で 41.6%）が最も多く、知的障害・精神障害・発達障害・高次脳機能障害では「職場の上司や同僚に障害者への理解があること」、難病では「具合が悪くなった時に気軽に通院できること」（57.7%）がそれぞれ最も多くなっています。

表 就労支援に必要なこと

		調査数	(1) 職場の上司や同僚に障害者への理解があること	(2) 具合が悪くなった時に気軽に通院できること	(3) 短時間勤務や勤務日数等の配慮	(4) 通勤手段の確保	(5) 仕事についての職場外での相談対応、支援	(6) 職場で介助や援助等が受けられること
【表の見方】 比率(%) 網掛け=								
			1位	2位				
全体		354	51.4	40.7	40.4	33.6	28.2	26.8
障害種別	身体障害	197	41.6	41.6	35.5	34.0	23.4	26.4
	知的障害	98	57.1	25.5	36.7	35.7	34.7	28.6
	精神障害	95	62.1	51.6	55.8	32.6	36.8	24.2
	難病	26	46.2	57.7	42.3	53.8	26.9	34.6
	発達障害	71	76.1	33.8	47.9	39.4	38.0	32.4
	高次脳機能障害	22	45.5	36.4	40.9	36.4	22.7	27.3

		(7) 就労後のフォローなど職場と支援機関の連携	(8) 在宅勤務の拡充	(9) 勤務場所におけるバリアフリー等の配慮	(10) 企業ニーズにあった就労訓練	(11) その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=							
			1位	2位			
全体		26.6	20.1	19.5	17.2	6.2	15.3
障害種別	身体障害	18.3	23.4	26.4	16.2	6.6	19.8
	知的障害	34.7	7.1	12.2	15.3	6.1	10.2
	精神障害	31.6	18.9	13.7	17.9	6.3	10.5
	難病	26.9	30.8	42.3	26.9	3.8	15.4
	発達障害	40.8	11.3	12.7	15.5	4.2	5.6
	高次脳機能障害	27.3	22.7	31.8	18.2	9.1	27.3

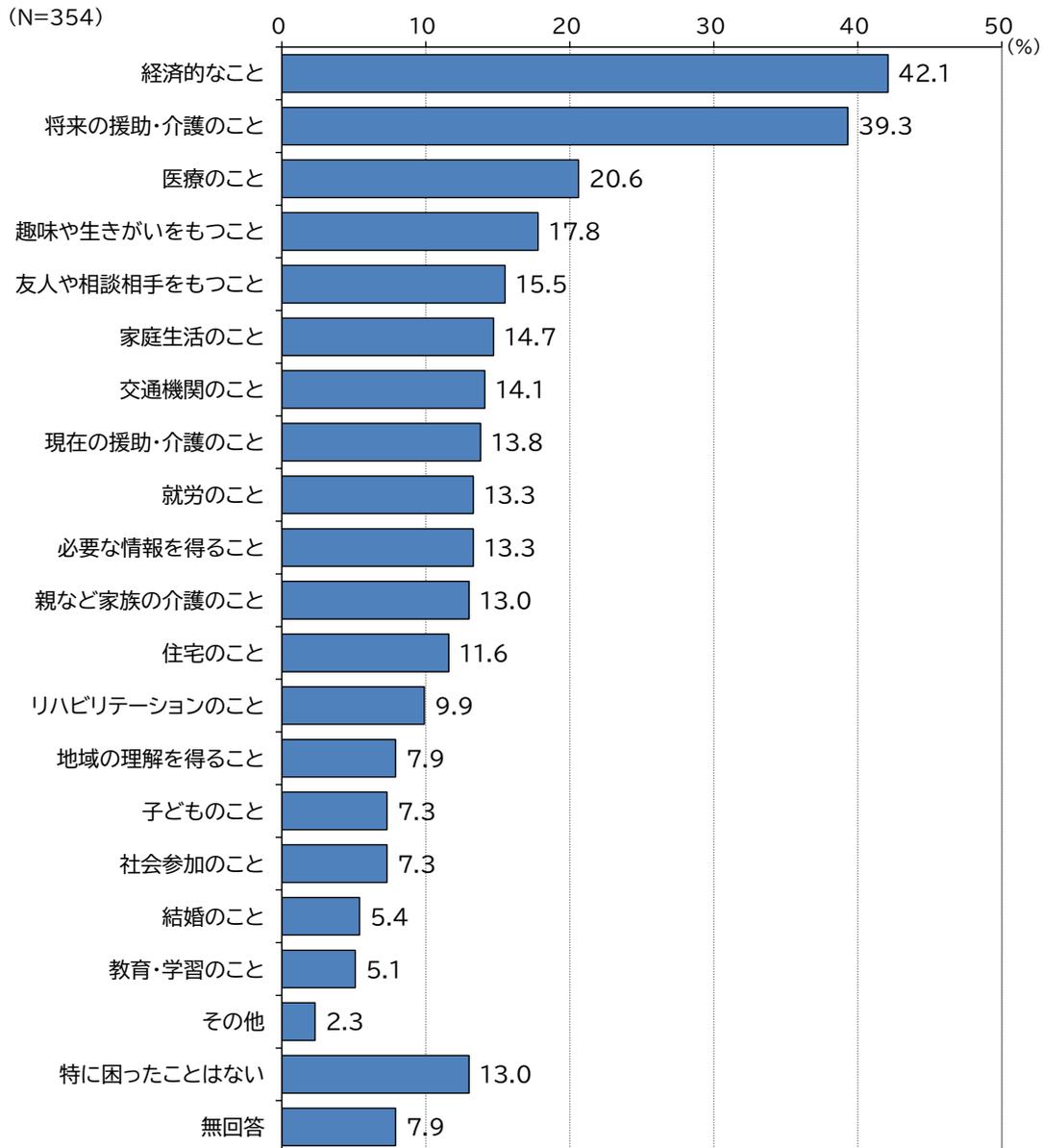
4. 相談相手について

問29 暮らしの中での悩みや困っていること

あなたは、暮らしのなかで、どのような悩みごとや困ったことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

暮らしの中での悩みや困っていることは、「経済的なこと」(42.1%)が最も多く、次いで「将来の援助・介護のこと」(39.3%)、「医療のこと」(20.6%)となっています。

図 暮らしの中での悩みや困っていること



障害種別にみると、身体障害・知的障害・難病・高次脳機能障害では「将来の援助・介護のこと」が最も多く、精神障害・発達障害では「経済的なこと」が最も多くなっています。

表 暮らしの中での悩みや困っていること

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	
【表の見方】 比率(%) 網掛け=												
	1位											
	2位											
全体	調査数	経済的なこと	将来の援助・介護のこと	医療のこと	趣味や生きがいをもつこと	友人や相談相手をもつこと	家庭生活のこと	交通機関のこと	現在の援助・介護のこと	就労のこと	必要な情報を得ること	
	354	42.1	39.3	20.6	17.8	15.5	14.7	14.1	13.8	13.3	13.3	
障害種別	身体障害	197	35.5	39.6	20.3	11.2	8.6	13.2	14.7	13.2	3.0	14.2
	知的障害	98	38.8	41.8	19.4	20.4	20.4	18.4	10.2	17.3	17.3	10.2
	精神障害	95	56.8	37.9	24.2	26.3	24.2	18.9	18.9	9.5	27.4	22.1
	難病	26	38.5	46.2	30.8	19.2	11.5	23.1	15.4	11.5	7.7	15.4
	発達障害	71	49.3	40.8	18.3	21.1	26.8	23.9	12.7	12.7	25.4	15.5
	高次脳機能障害	22	36.4	54.5	22.7	22.7	18.2	22.7	18.2	18.2	4.5	18.2

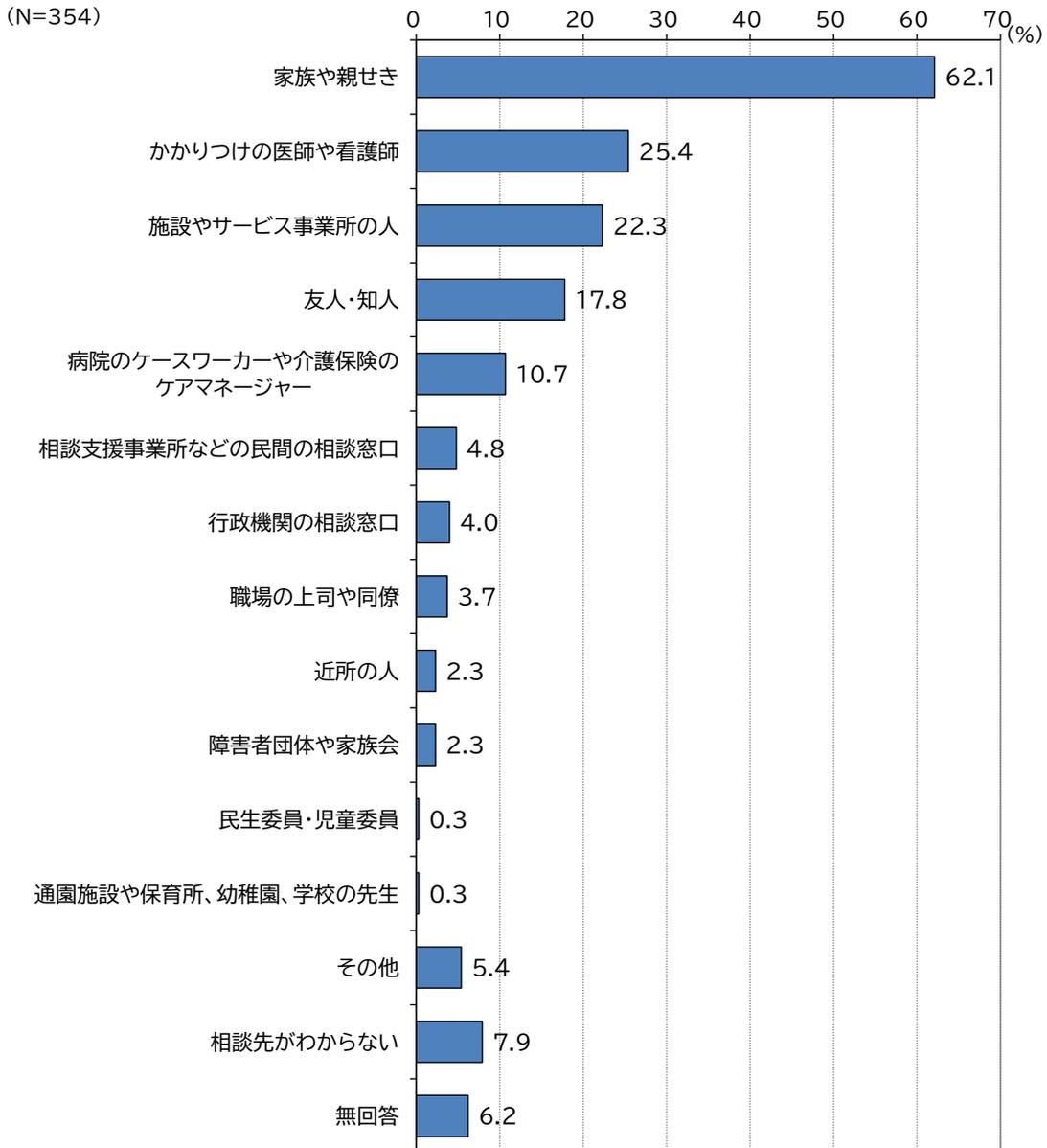
		(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	
【表の見方】 比率(%) 網掛け=												
	1位											
	2位											
全体	親など家族の介護のこと	住宅のこと	リハビリテーションのこと	地域の理解を得ること	子どものこと	社会参加のこと	結婚のこと	教育・学習のこと	その他	特に困ったことはない	無回答	
	13.0	11.6	9.9	7.9	7.3	7.3	5.4	5.1	2.3	13.0	7.9	
障害種別	身体障害	10.7	10.2	14.7	4.6	8.6	5.1	2.5	2.5	1.0	16.2	9.6
	知的障害	5.1	7.1	3.1	9.2	4.1	8.2	4.1	7.1	3.1	13.3	5.1
	精神障害	27.4	20.0	5.3	17.9	6.3	13.7	13.7	9.5	4.2	8.4	2.1
	難病	11.5	19.2	23.1	15.4	7.7	3.8	3.8	7.7	-	7.7	3.8
	発達障害	18.3	8.5	-	9.9	4.2	9.9	9.9	11.3	1.4	11.3	2.8
	高次脳機能障害	18.2	13.6	22.7	4.5	9.1	4.5	9.1	13.6	-	4.5	4.5

問30 悩みや困った時の相談先

あなたは普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

悩みや困った時の相談先は、「家族や親せき」(62.1%)が最も多く、次いで「かかりつけの医師や看護師」(25.4%)、「施設やサービス事業所の人」(22.3%)となっています。

図 悩みや困った時の相談先



障害種別にみると、すべての障害で「家族や親せき」が5割を超えて最も多く、次いで身体障害・精神障害・難病では「かかりつけの医師や看護師」、知的障害・発達障害・高次脳機能障害では「施設やサービス事業所の人」がそれぞれ多くなっています。

表 悩みや困った時の相談先

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	
		調査数	家族や親せき	かかりつけの医師や看護師	施設やサービス事業所の人	友人・知人	病院のケースワーカーや介護保険のケアマネージャー	相談支援事業所などの民間の相談窓口	行政機関の相談窓口
【表の見方】 比率(%) 網掛け=			1位	2位					
全体		354	62.1	25.4	22.3	17.8	10.7	4.8	4.0
障害種別	身体障害	197	64.0	21.3	16.2	16.2	13.7	2.0	3.6
	知的障害	98	64.3	19.4	43.9	13.3	5.1	10.2	5.1
	精神障害	95	54.7	44.2	20.0	27.4	10.5	7.4	4.2
	難病	26	69.2	23.1	11.5	11.5	3.8	7.7	3.8
	発達障害	71	76.1	21.1	42.3	22.5	4.2	7.0	5.6
	高次脳機能障害	22	59.1	22.7	27.3	18.2	18.2	-	-

		(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	
		職場の上司や同僚	近所の人	障害者団体や家族会	民生委員・児童委員	生通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生	その他	相談先がわからない	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=			1位	2位					
全体		3.7	2.3	2.3	0.3	0.3	5.4	7.9	6.2
障害種別	身体障害	1.5	2.5	2.0	-	0.5	5.1	8.1	6.6
	知的障害	5.1	1.0	4.1	1.0	1.0	4.1	2.0	4.1
	精神障害	8.4	3.2	2.1	-	-	5.3	10.5	3.2
	難病	11.5	-	-	-	-	3.8	7.7	7.7
	発達障害	8.5	-	4.2	-	1.4	1.4	7.0	-
	高次脳機能障害	-	-	4.5	-	-	-	-	18.2

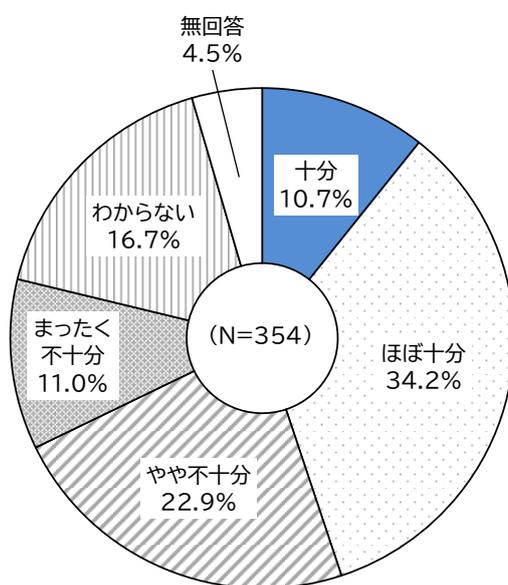
問3 1 困った時の相談体制に対する評価

困った時の相談体制について、現在の状態はあなたにとって十分ですか。(〇は1つだけ)

困った時の相談体制に対する評価は、「十分」と「ほぼ十分」を合わせた『十分』と感じている人が4割以上を占めているものの、「やや不十分」と「まったく不十分」を合わせた『不十分』と感じている人も3割以上となっています。

障害種別にみると、身体障害・知的障害・難病・発達障害・高次脳機能障害では「ほぼ十分」と感じている人が多いものの、精神障害では「やや不十分」と感じる人の方が多くなっています。

図表 困った時の相談体制に対する評価



【表の見方】 比率(%) 網掛け=	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	無回答	
		十分	ほぼ十分	やや不十分	まったく不十分	わからない		
1位								
2位								
全体	354	10.7	34.2	22.9	11.0	16.7	4.5	
障害種別	身体障害	197	10.7	37.1	19.8	12.2	15.2	5.1
	知的障害	98	12.2	37.8	20.4	6.1	19.4	4.1
	精神障害	95	11.6	30.5	33.7	9.5	13.7	1.1
	難病	26	7.7	50.0	19.2	7.7	15.4	-
	発達障害	71	12.7	32.4	26.8	4.2	22.5	1.4
高次脳機能障害	22	9.1	36.4	27.3	13.6	4.5	9.1	

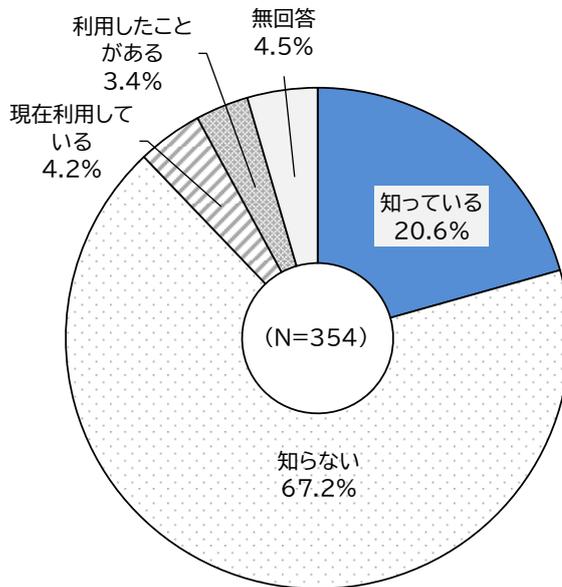
問3 2 相談事業所の認知度

身体障害者、知的障害者、精神障害者などの当事者団体による、障害者に対する日常生活・社会生活を支援するための相談事業所を知っていますか。(○は1つだけ)

相談事業所の認知度は、「知っている」(20.6%)、「現在利用している」(4.2%)、「利用したことがある」(3.4%)となっており、これらを合わせると約3割の認知度となっています。その反面、約7割(67.2%)が「知らない」という結果となっています。

障害種別にみると、すべての障害で「知らない」が最も多く、身体障害・精神障害・高次脳機能障害では7割を超えています。

図表 相談事業所の認知度



	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	無回答
		知っている	知らない	現在利用している	利用したことがある	
【表の見方】 比率(%) 網掛け=						
		1位	2位			
全体	354	20.6	67.2	4.2	3.4	4.5
障害種別	身体障害	17.8	73.1	1.5	1.5	6.1
	知的障害	29.6	50.0	9.2	8.2	3.1
	精神障害	22.1	70.5	4.2	3.2	-
	難病	30.8	69.2	-	-	-
	発達障害	31.0	57.7	5.6	4.2	1.4
	高次脳機能障害	18.2	77.3	-	-	4.5

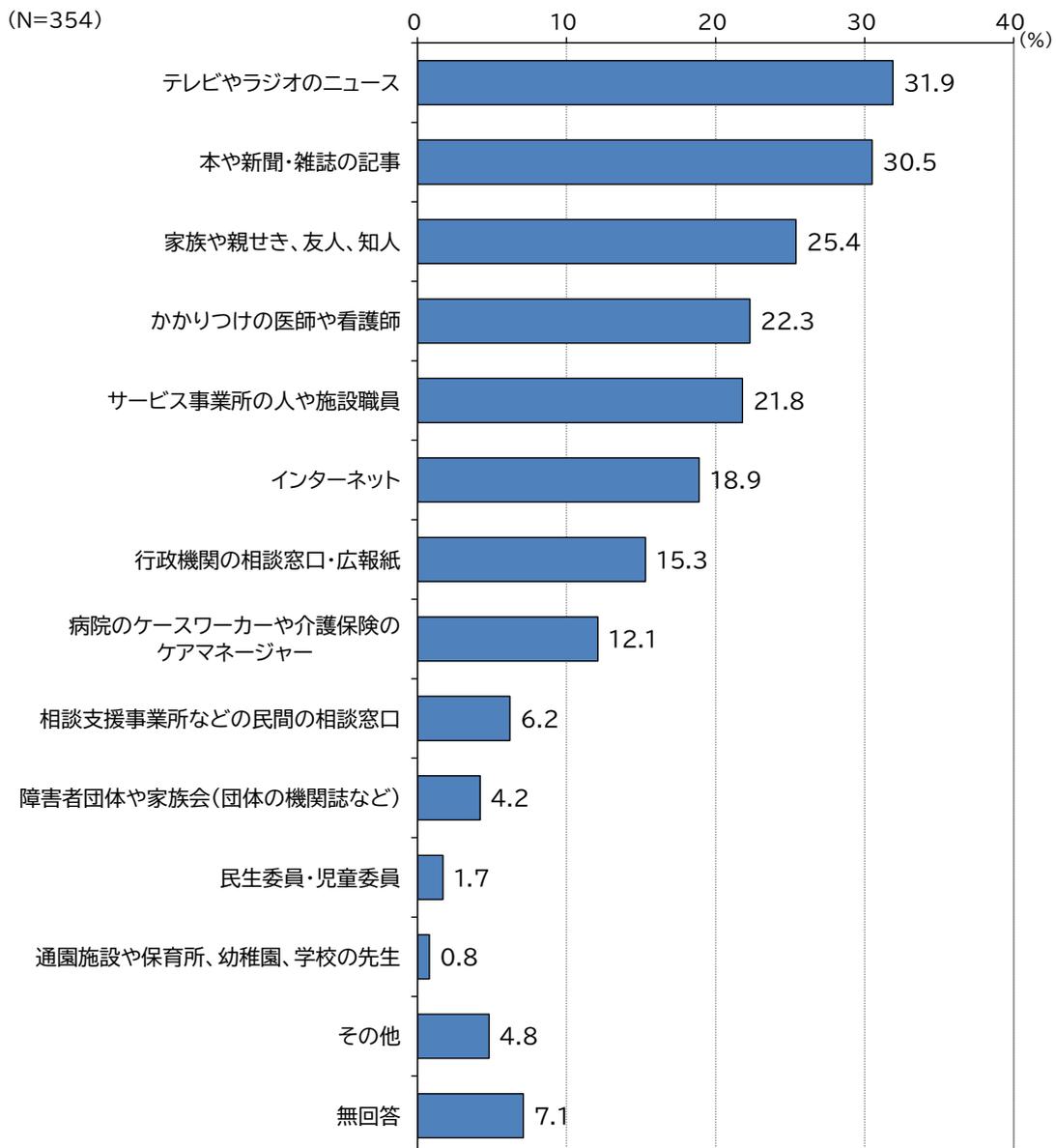
5. 情報の入手について

問33 障害や福祉サービスなどに関する情報入手先

あなたは、障害のことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

障害や福祉サービスなどに関する情報入手先は、「テレビやラジオのニュース」(31.9%)が最も多く、次いで「本や新聞・雑誌の記事」(30.5%)、「家族や親せき、友人、知人」(25.4%)、「かかりつけの医師や看護師」(22.3%)、「サービス事業所の人や施設職員」(21.8%)となっています。

図 障害や福祉サービスなどに関する情報入手先



障害種別にみると、身体障害では「テレビやラジオのニュース」、「本や新聞・雑誌の記事」（同率で39.6%）が最も多く、知的障害・高次脳機能障害では「サービス事業所の人や施設職員」、精神障害では「かかりつけの医師や看護師」（37.9%）、発達障害では「家族や親せき、友人、知人」（35.2%）がそれぞれ最も多くなっています。

表 障害や福祉サービスなどに関する情報入手先

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	
		テレビやラジオのニュース	本や新聞・雑誌の記事	家族や親せき、友人、知人	かかりつけの医師や看護師	サービス事業所の人や施設職員	インターネット	行政機関の相談窓口・広報紙	
【表の見方】 比率(%) 網掛け=		1位	2位						
全体	調査数	354	31.9	30.5	25.4	22.3	21.8	18.9	15.3
障害種別	身体障害	197	39.6	39.6	23.9	21.8	17.8	15.7	17.8
	知的障害	98	23.5	17.3	32.7	15.3	36.7	18.4	15.3
	精神障害	95	28.4	26.3	20.0	37.9	18.9	25.3	15.8
	難病	26	19.2	34.6	26.9	23.1	15.4	30.8	23.1
	発達障害	71	29.6	23.9	35.2	26.8	32.4	26.8	12.7
	高次脳機能障害	22	13.6	27.3	18.2	31.8	40.9	9.1	4.5

		(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	
		ア病 マ院 ネー ケ ー ジ ス ワ ー カ ー や 介 護 保 険 の ケ	相 談 支 援 事 業 所 な ど の 民 間 の 相 談 窓 口	ど 障 害 者 団 体 や 家 族 会 （ 団 体 の 機 関 誌 な	民 生 委 員 ・ 児 童 委 員	生 通 園 施 設 や 保 育 所 、 幼 稚 園 、 学 校 の 先	そ の 他	無 回 答
全体		12.1	6.2	4.2	1.7	0.8	4.8	7.1
障害種別	身体障害	12.7	3.0	3.0	2.5	-	4.6	6.1
	知的障害	8.2	13.3	6.1	-	3.1	1.0	9.2
	精神障害	11.6	7.4	4.2	2.1	-	6.3	7.4
	難病	15.4	7.7	7.7	-	3.8	11.5	-
	発達障害	4.2	11.3	7.0	-	-	2.8	2.8
	高次脳機能障害	18.2	4.5	4.5	4.5	-	18.2	4.5

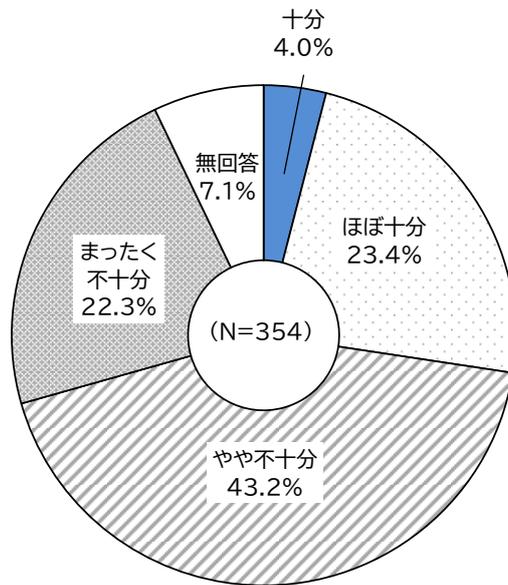
問34 障害や福祉サービスなどに関する情報の入手方法に対する評価

あなたは現在、福祉に関する情報を十分に得られていると思いますか（〇は1つだけ）

障害や福祉サービスなどに関する情報の入手方法に対する評価は、「やや不十分」と「まったく不十分」を合わせた『不十分』と感じている人が『十分』と感じている人を上回っており、6割近くを占めています。

障害種別にみると、すべての障害で「やや不十分」と感じている人が多く、難病では「ほぼ十分」、「やや十分」（同率で38.5%）となっています。

図表 障害や福祉サービスなどに関する情報の入手方法に対する評価



	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	無回答	
		十分	ほぼ十分	やや不十分	まったく不十分		
全体	354	4.0	23.4	43.2	22.3	7.1	
障害種別	身体障害	197	5.1	23.4	42.1	22.8	6.6
	知的障害	98	3.1	25.5	44.9	16.3	10.2
	精神障害	95	4.2	20.0	49.5	21.1	5.3
	難病	26	3.8	38.5	38.5	15.4	3.8
	発達障害	71	2.8	23.9	47.9	21.1	4.2
	高次脳機能障害	22	-	9.1	45.5	36.4	9.1

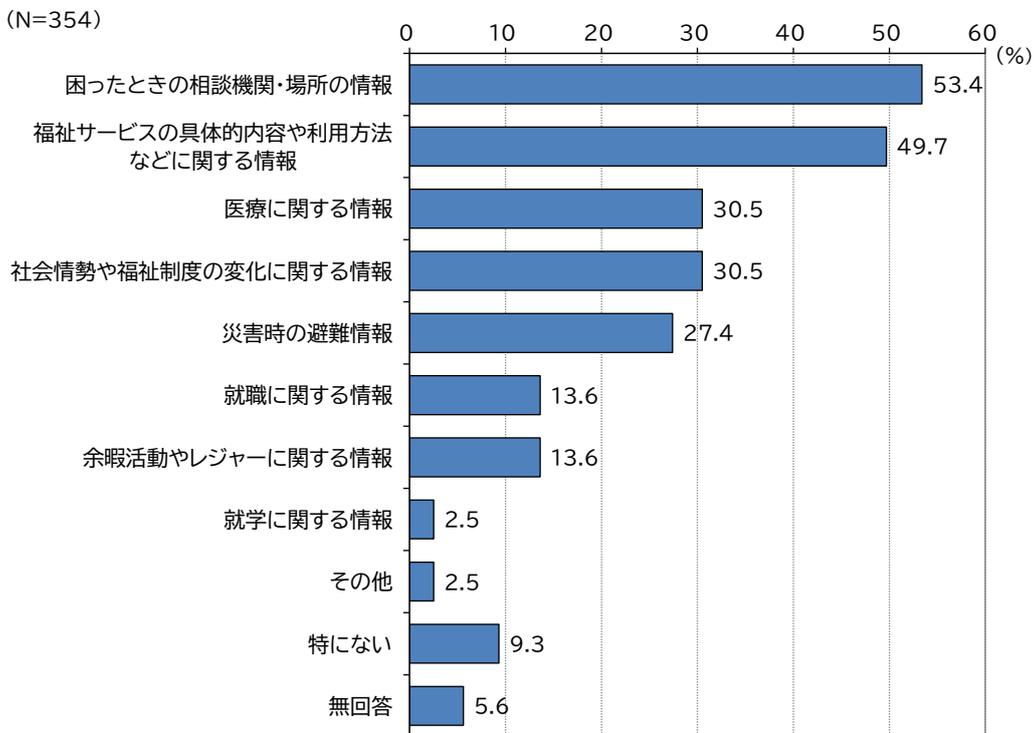
問35 今後充実してほしい情報

あなたは今後、どのような情報を充実してほしいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

今後充実してほしい情報は、「困ったときの相談機関・場所の情報」(53.4%)が最も多く、次いで「福祉サービスの具体的な内容や利用方法などに関する情報」(49.7%)となっています。

障害種別にみると、身体障害では「困ったときの相談機関・場所の情報」、「福祉サービスの具体的な内容や利用方法などに関する情報」(51.3%)が同率で最も多く、知的障害・精神障害・発達障害では「困ったときの相談機関・場所の情報」、難病では「医療に関する情報」(53.8%)、高次脳機能障害では「福祉サービスの具体的な内容や利用方法などに関する情報」(50.0%)がそれぞれ最も多くなっています。

図表 今後充実してほしい情報



【表の見方】 比率(%) 網掛け=	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	無回答
		困ったときの相談機関・場所の情報	福祉サービスの具体的な内容や利用方法	医療に関する情報	社会情勢や福祉制度の変化に関する情報	災害時の避難情報	就職に関する情報	余暇活動やレジャーに関する情報	就学に関する情報	その他	特にない	
全体	354	53.4	49.7	30.5	30.5	27.4	13.6	13.6	2.5	2.5	9.3	5.6
障害種別												
身体障害	197	51.3	51.3	34.5	29.4	28.9	2.5	10.2	1.0	2.0	10.7	3.6
知的障害	98	57.1	38.8	18.4	31.6	23.5	14.3	20.4	2.0	1.0	7.1	9.2
精神障害	95	60.0	51.6	36.8	35.8	28.4	33.7	17.9	6.3	5.3	9.5	3.2
難病	26	50.0	42.3	53.8	30.8	30.8	7.7	11.5	3.8	7.7	-	-
発達障害	71	69.0	60.6	28.2	35.2	22.5	29.6	22.5	2.8	-	2.8	4.2
高次脳機能障害	22	40.9	50.0	40.9	31.8	22.7	4.5	18.2	-	9.1	4.5	4.5

6. 障害福祉サービスの利用について

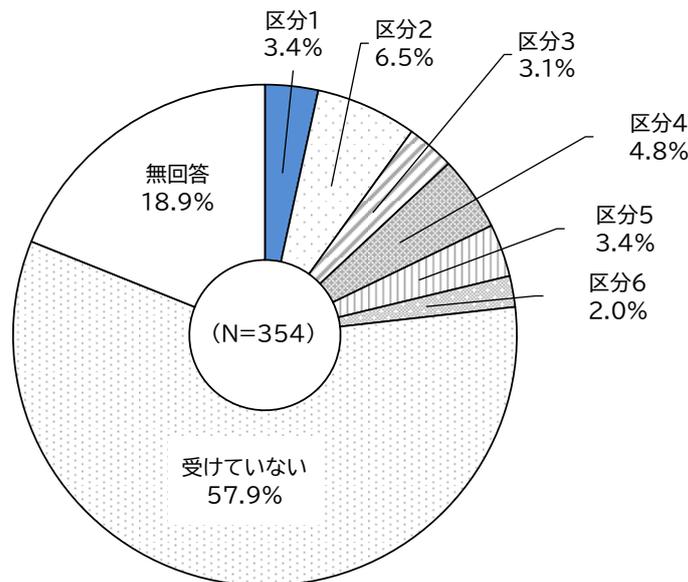
問36 障害支援区分の認定状況

あなたは、障害支援区分の認定を受けていますか。(〇は1つだけ)

障害支援区分の認定状況は、「受けていない」(57.9%)が最も多く、次いで「区分2」(6.5%)、「区分4」(4.8%)となっています。

障害種別にみると、すべての障害で「受けていない」が3割を超えて最も多くなっています。

図表 障害支援区分の認定状況



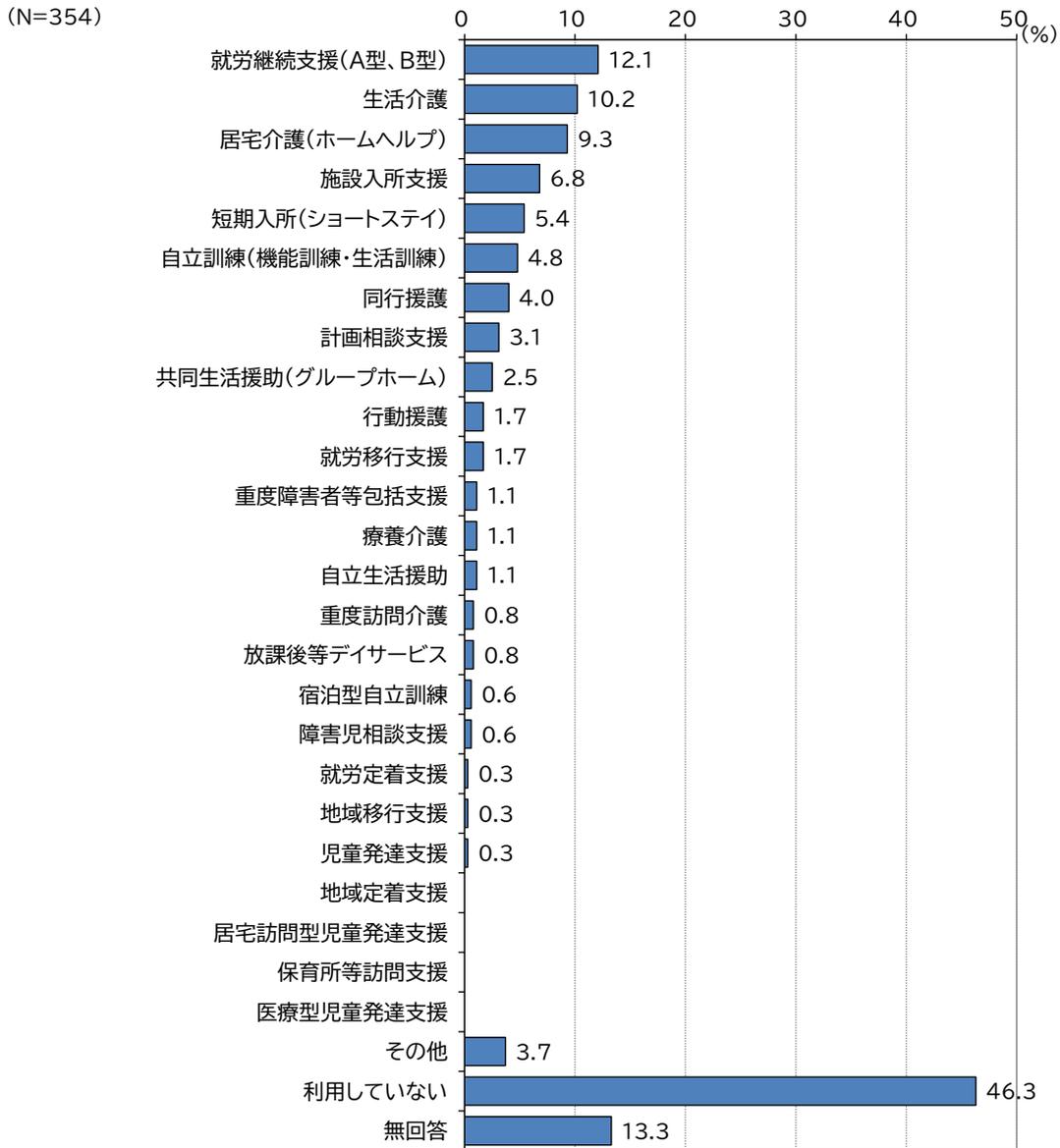
	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	無回答	
		区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	受けていない		
【表の見方】 比率(%) 網掛け=			1位							
			2位							
全体	354	3.4	6.5	3.1	4.8	3.4	2.0	57.9	18.9	
障害種別	身体障害	197	4.1	6.1	1.0	2.5	3.0	1.0	66.0	16.2
	知的障害	98	5.1	6.1	5.1	13.3	6.1	7.1	32.7	24.5
	精神障害	95	4.2	8.4	5.3	1.1	1.1	-	65.3	14.7
	難病	26	7.7	7.7	3.8	3.8	-	3.8	65.4	7.7
	発達障害	71	2.8	4.2	7.0	11.3	2.8	7.0	43.7	21.1
	高次脳機能障害	22	-	-	-	-	9.1	-	72.7	18.2

問37 現在利用している障害福祉サービス

あなたが現在利用している障害福祉サービス等を教えてください。あてはまるものすべてに○

現在利用している障害福祉サービスは、「就労継続支援（A型、B型）」（12.1%）と最も多く、次いで「生活介護」（10.2%）、「居宅介護（ホームヘルプ）」（9.3%）、「施設入所支援」（6.8%）、「短期入所（ショートステイ）」（5.4%）となっており、一方で、「利用していない」（46.3%）も約半数となっています。

図 現在利用している障害福祉サービス



障害種別にみると、知的障害では「就労継続支援（A型、B型）」（24.5%）が最も多く、身体障害・精神障害・難病・高次脳機能障害では「利用していない」が最も多くなっています。

表 現在利用している障害福祉サービス

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	
		調査数	就労継続支援（A型、B型）	生活介護	居宅介護（ホームヘルプ）	施設入所支援	短期入所（ショートステイ）	自立訓練（機能訓練・生活訓練）	同行支援	計画相談支援	共同生活援助（グループホーム）	行動支援
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝			1位	2位								
全体		354	12.1	10.2	9.3	6.8	5.4	4.8	4.0	3.1	2.5	1.7
障害種別	身体障害	197	3.0	5.6	9.6	5.6	3.6	5.6	3.6	1.5	-	-
	知的障害	98	24.5	23.5	12.2	13.3	14.3	6.1	5.1	6.1	5.1	6.1
	精神障害	95	17.9	6.3	8.4	1.1	1.1	2.1	3.2	3.2	3.2	-
	難病	26	7.7	-	11.5	-	3.8	3.8	11.5	7.7	-	-
	発達障害	71	26.8	19.7	5.6	5.6	12.7	8.5	4.2	7.0	5.6	5.6
	高次脳機能障害	22	-	13.6	-	-	9.1	4.5	9.1	-	-	-
		(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)
		就労移行支援	重度障害者等包括支援	療養介護	自立生活援助	重度訪問介護	放課後等デイサービス	宿泊型自立訓練	就労定着支援	地域移行支援	児童発達支援	地域定着支援
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝			1位	2位								
全体		1.7	1.1	1.1	1.1	0.8	0.8	0.6	0.3	0.3	0.3	-
障害種別	身体障害	-	1.0	1.0	0.5	1.5	1.0	1.0	-	-	-	-
	知的障害	4.1	2.0	2.0	3.1	-	1.0	-	-	1.0	1.0	-
	精神障害	2.1	-	-	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	-	-	-
	難病	-	-	-	-	-	3.8	-	-	-	3.8	-
	発達障害	4.2	1.4	1.4	4.2	-	1.4	-	-	1.4	1.4	-
	高次脳機能障害	-	4.5	-	-	4.5	9.1	9.1	-	-	-	-
		(22)	(23)	(24)	(25)	(26)	(27)					
		居宅訪問型児童発達支援	保育所等訪問支援	医療型児童発達支援	障害児相談支援	その他	利用していない	無回答				
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝			1位	2位								
全体		-	-	-	0.6	3.7	46.3	13.3				
障害種別	身体障害	-	-	-	0.5	3.6	58.4	13.2				
	知的障害	-	-	-	2.0	5.1	17.3	11.2				
	精神障害	-	-	-	-	3.2	49.5	13.7				
	難病	-	-	-	-	3.8	53.8	11.5				
	発達障害	-	-	-	2.8	4.2	29.6	9.9				
	高次脳機能障害	-	-	-	-	9.1	36.4	22.7				

問38 利用している障害福祉サービスの満足度

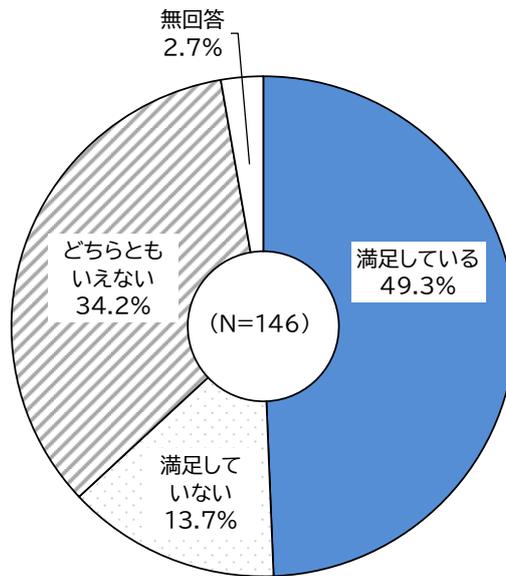
問37で「1」～「26」を選択した方のみお答えください。

あなたは利用している障害福祉サービスに満足していますか。(○は1つだけ)

利用している障害福祉サービスの満足度は、「満足している」(49.3%)が最も多く、次いで「どちらともいえない」(34.2%)、「満足していない」(13.7%)となっています。

障害種別にみると、身体障害・知的障害・精神障害・難病・発達障害では「満足している」が最も多く、高次脳機能障害では「どちらともいえない」(44.4%)が最も多くなっています。

図表 利用している障害福祉サービスの満足度



	調査数	(1)	(2)	(3)	無回答	
		満足している	満足していない	どちらともいえない		
【表の見方】 比率(%) 網掛け=						
		1位	2位			
全体	146	49.3	13.7	34.2	2.7	
障害種別	身体障害	57	43.9	19.3	35.1	1.8
	知的障害	70	52.9	11.4	31.4	4.3
	精神障害	37	48.6	8.1	40.5	2.7
	難病	9	55.6	22.2	22.2	-
	発達障害	44	56.8	4.5	31.8	6.8
	高次脳機能障害	9	22.2	33.3	44.4	-

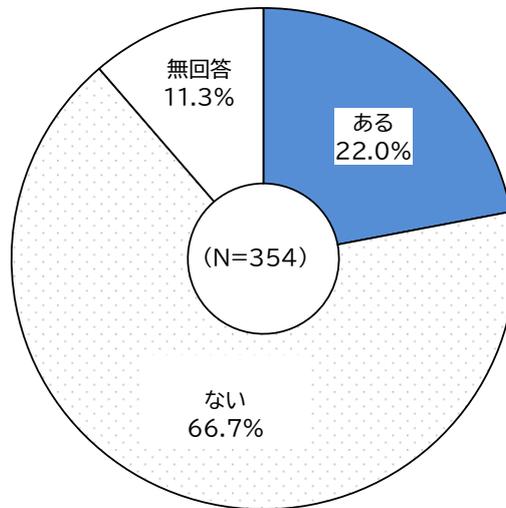
問39 障害福祉サービスの今後の利用意向

問37の障害福祉サービス等のうち、今後（3年程度の間で）利用の量を変更したい、または新たに利用したいサービスはありますか。（○は1つだけ）

障害福祉サービスの今後の利用意向は、「ある」（22.0%）、「ない」（66.7%）となっています。

障害種別に見ると、すべての障害で「ない」が4割を超えて多くなっていますが、高次脳機能障害では「ある」（36.4%）がその他の障害と比べて多くなっています。

図表 障害福祉サービスの今後の利用意向



	調査数	(1)	(2)	無回答
		ある	ない	
【表の見方】 比率(%) 網掛け=				
		1位	2位	
全体	354	22.0	66.7	11.3
障害種別	身体障害	25.4	63.5	11.2
	知的障害	19.4	67.3	13.3
	精神障害	20.0	72.6	7.4
	難病	19.2	65.4	15.4
	発達障害	21.1	71.8	7.0
	高次脳機能障害	22	36.4	40.9

問40 利用量の変更や新規で追加したいサービス

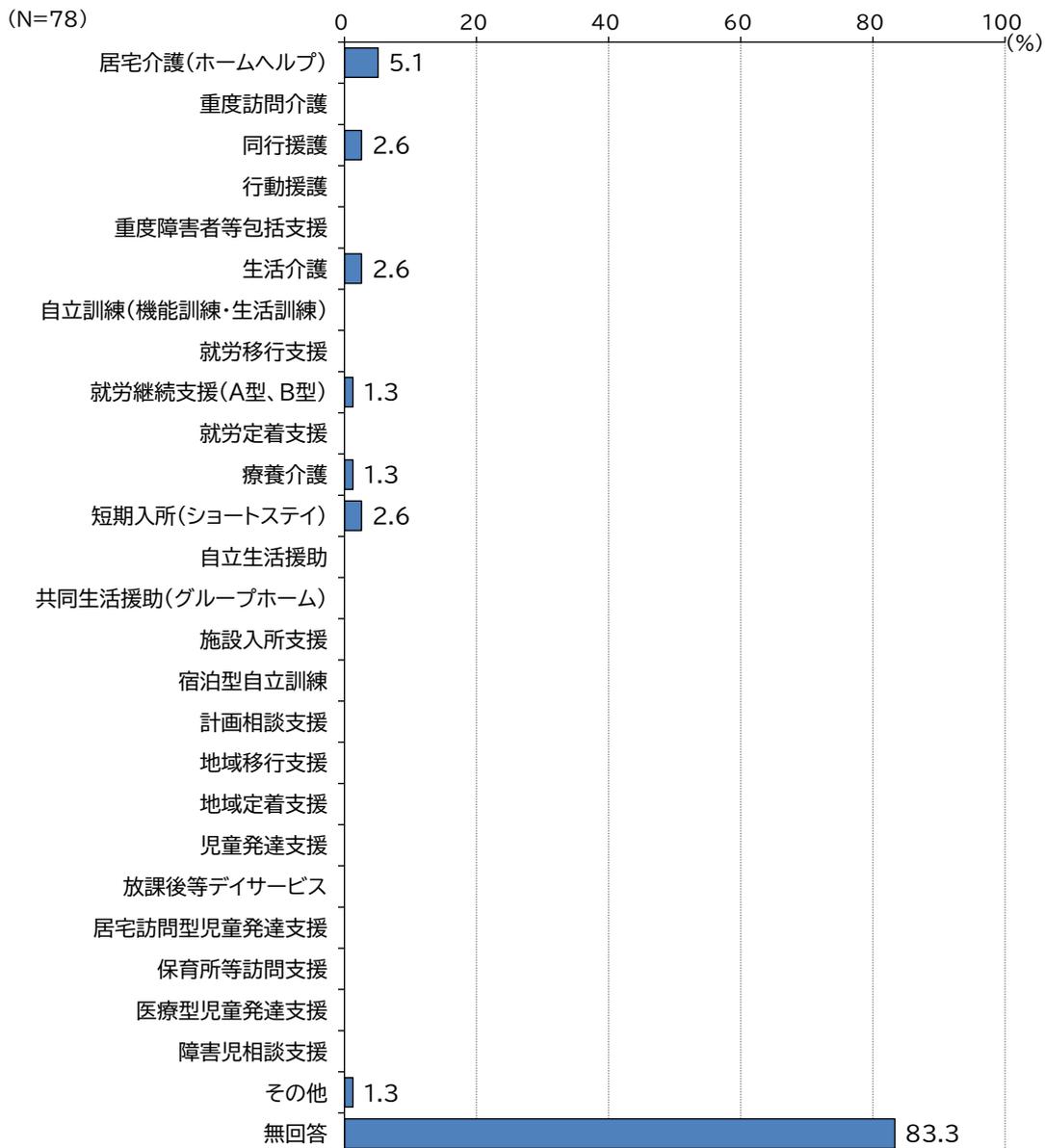
問39で「1 ある」を選択した方のみお答えください。

利用量の変更や新規で追加したいサービスがある場合は、問37の障害福祉サービス等の番号を、下記の①～④の回答欄にご記入ください。

①現在利用しているサービスのうち今後利用を増やす予定のサービス

現在利用しているサービスのうち今後利用を増やす予定のサービスは、「居宅介護（ホームヘルプ）」（5.1%）が最も多く、次いで「同行援護」、「生活介護」、「短期入所（ショートステイ）」（同率で2.6%）となっています。

図 ①現在利用しているサービスのうち今後利用を増やす予定のサービス



障害種別にみると、身体障害では「居宅介護（ホームヘルプ）」が最も多く、知的障害では「同行支援」、「その他」（同率で5.3%）、精神障害では「生活介護」（10.5%）、難病では「同行支援」（20.0%）、発達障害では「その他」（6.7%）、高次脳機能障害では「居宅介護（ホームヘルプ）」、「生活介護」（同率で12.5%）がそれぞれ最も多くなっています。

表 ①現在利用しているサービスのうち今後利用を増やす予定のサービス

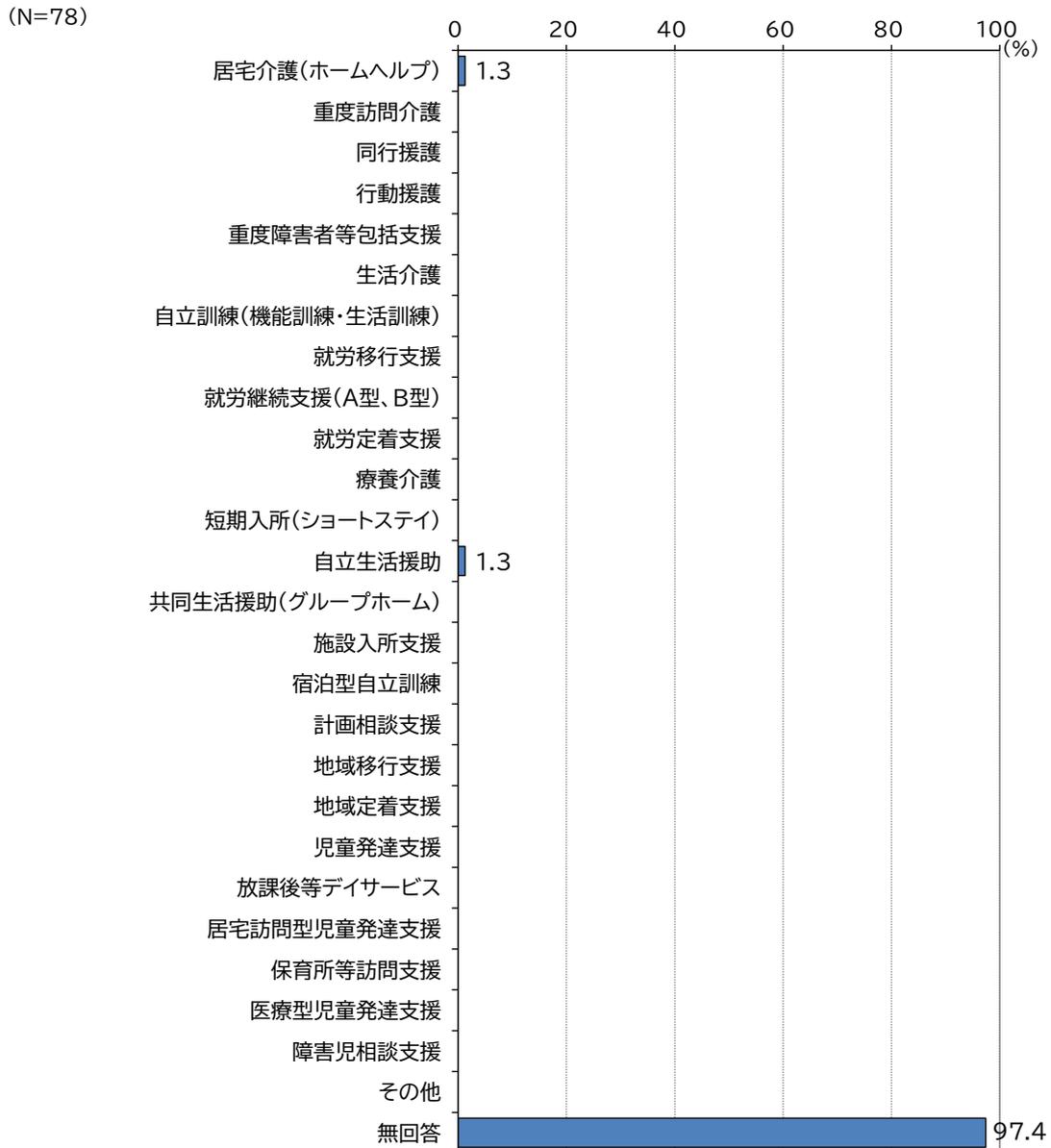
調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	
	居宅介護（ホームヘルプ）	重度訪問介護	同行支援	行動支援	重度障害者等包括支援	生活介護	自立訓練（機能訓練・生活訓練）	就労移行支援	就労継続支援（A型、B型）	就労定着支援	療養介護	短期入所（ショートステイ）	自立生活援助	
【表の見方】 比率(%) 網掛け=	1位	2位												
全体	78	5.1	-	2.6	-	-	2.6	-	-	1.3	-	1.3	2.6	-
障害種別	身体障害	50	8.0	-	2.0	-	2.0	-	-	-	-	2.0	4.0	-
	知的障害	19	-	-	5.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	精神障害	19	-	-	-	-	10.5	-	-	5.3	-	-	-	-
	難病	5	-	-	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	発達障害	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	高次脳機能障害	8	12.5	-	-	-	12.5	-	-	-	-	-	-	-

調査数	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)	(22)	(23)	(24)	(25)	(26)		
	共同生活援助（グループホーム）	施設入所支援	宿泊型自立訓練	計画相談支援	地域移行支援	地域定着支援	児童発達支援	放課後等デイサービス	居宅訪問型児童発達支援	保育所等訪問支援	医療型児童発達支援	障害児相談支援	その他	無回答	
【表の見方】 比率(%) 網掛け=	1位	2位													
全体	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.3	83.3	
障害種別	身体障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	82.0	
	知的障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.3	89.5	
	精神障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	84.2	
	難病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	80.0	
	発達障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.7	93.3
	高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	75.0

②現在利用しているサービスのうち今後利用を減らす予定のサービス

現在利用しているサービスのうち今後利用を減らす予定のサービスは、「居宅介護」、「自立生活援助」（同率で1.3%）となっています。

図 ②現在利用しているサービスのうち今後利用を減らす予定のサービス



障害種別にみると、身体障害では「居宅介護（ホームヘルプ）」、「自立生活援助」（同率で2.0%）、精神障害・高次脳機能障害では「居宅介護（ホームヘルプ）」がそれぞれ最も多くなっています。

表 ②現在利用しているサービスのうち今後利用を減らす予定のサービス

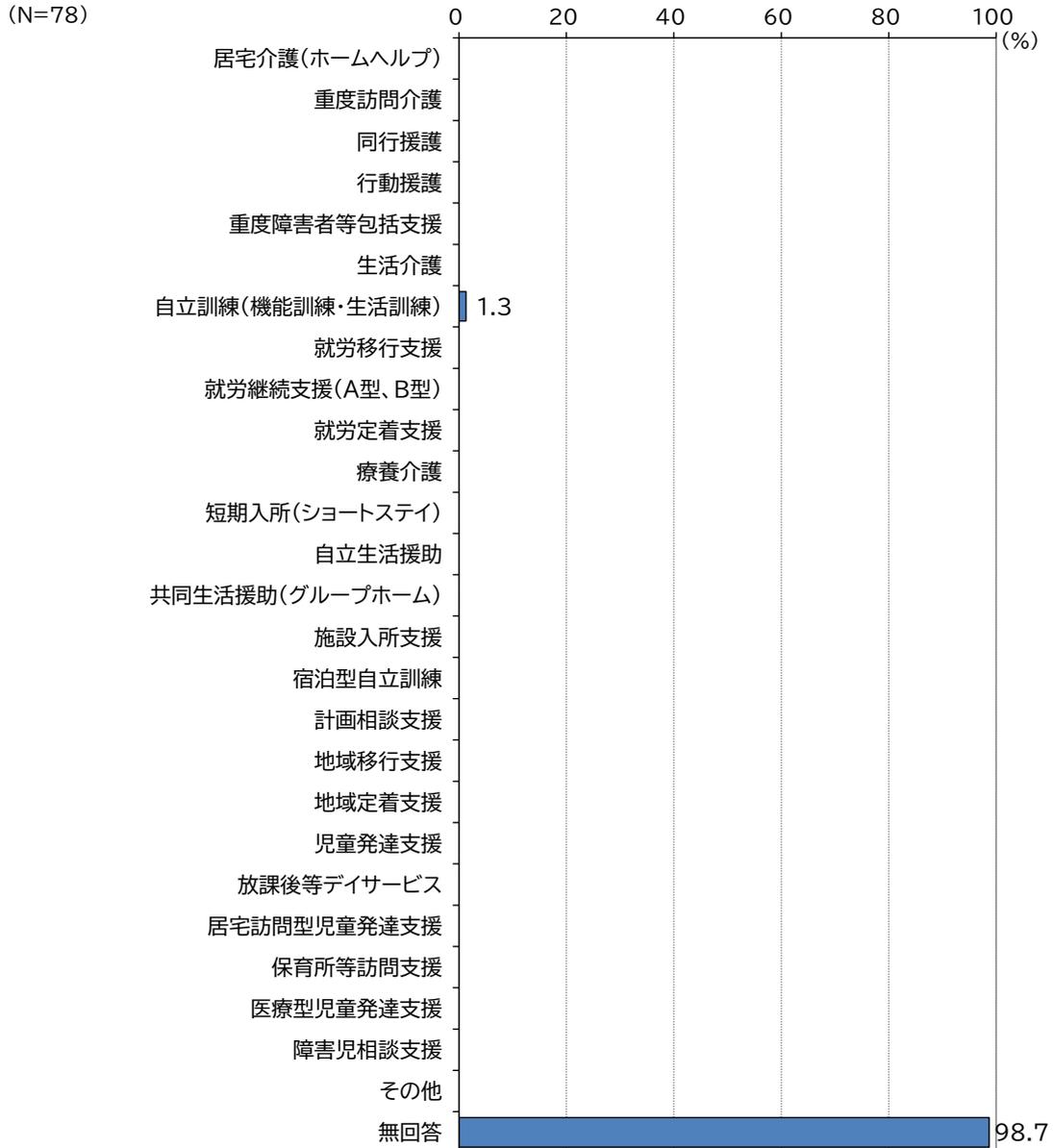
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)		
		調査数	居宅介護（ホームヘルプ）	重度訪問介護	同行援護	行動援護	重度障害者等包括支援	生活介護	自立訓練（機能訓練・生活訓練）	就労移行支援	就労継続支援（A型、B型）	就労定着支援	療養介護	短期入所（ショートステイ）	自立生活援助	
【表の見方】 比率(%) 網掛け=		1位	2位													
全体		78	1.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.3
障害種別	身体障害	50	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.0
	知的障害	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	精神障害	19	5.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	難病	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	発達障害	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	高次脳機能障害	8	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

		(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)	(22)	(23)	(24)	(25)	(26)	無回答	
		共同生活援助（グループホーム）	施設入所支援	宿泊型自立訓練	計画相談支援	地域移行支援	地域定着支援	児童発達支援	放課後等デイサービス	居宅訪問型児童発達支援	保育所等訪問支援	医療型児童発達支援	障害児相談支援	その他	無回答	
【表の見方】 比率(%) 網掛け=		1位	2位													
全体		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	97.4	
障害種別	身体障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	96.0	
	知的障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	
	精神障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	94.7	
	難病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	
	発達障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	
	高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	87.5	

③現在利用しているサービスのうち今後利用を止める予定のサービス

現在利用しているサービスのうち今後利用を止める予定のサービスは、「自立訓練（機能訓練・生活訓練）」（1.3%）となっています。

図 ③現在利用しているサービスのうち今後利用を止める予定のサービス



障害種別にみると、身体障害・精神障害・高次脳機能障害では「自立訓練（機能訓練・生活訓練）」が最も多くなっています。

表 ③現在利用しているサービスのうち今後利用を止める予定のサービス

【表の見方】 比率(%) 網掛け=	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)
		居宅介護（ホームヘルプ）	重度訪問介護	同行援護	行動援護	重度障害者等包括支援	生活介護	自立訓練（機能訓練・生活訓練）	就労移行支援	就労継続支援（A型、B型）	就労定着支援	療養介護	短期入所（ショートステイ）	自立生活援助
1位 2位	78	-	-	-	-	-	-	1.3	-	-	-	-	-	-
障害種別	身体障害	-	-	-	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-	-
	知的障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	精神障害	-	-	-	-	-	-	5.3	-	-	-	-	-	-
	難病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	発達障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-	12.5	-	-	-	-	-	-

【表の見方】 比率(%) 網掛け=	調査数	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)	(22)	(23)	(24)	(25)	(26)	
		共同生活援助（グループホーム）	施設入所支援	宿泊型自立訓練	計画相談支援	地域移行支援	地域定着支援	児童発達支援	放課後等デイサービス	居宅訪問型児童発達支援	保育所等訪問支援	医療型児童発達支援	障害児相談支援	その他	無回答
1位 2位	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	98.7
障害種別	身体障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	98.0
	知的障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	精神障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	94.7
	難病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	発達障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	87.5

④現在は利用していないが、今後新たに利用したいサービス

現在は利用していないが、今後新たに利用したいサービスは、「短期入所(ショートステイ)」、「共同生活援助(グループホーム)」(同率で7.7%)が最も多く、次いで「居宅介護(ホームヘルプ)」(5.1%)、「同行援護」、「自立訓練(機能訓練・生活訓練)」(同率で3.8%)となっています。

図 ④現在は利用していないが、今後新たに利用したいサービス



障害種別にみると、身体障害では「居宅介護（ホームヘルプ）」（8.0%）が最も多く、知的障害・高次脳機能障害では「短期入所（ショートステイ）」、精神障害では「共同生活援助（グループホーム）」（15.8%）、難病では「居宅介護（ホームヘルプ）」、「同行援護」（同率で20.0%）、発達障害では自立訓練（機能訓練・生活訓練）「就労移行支援」、「短期入所（ショートステイ）」（同率で13.3%）がそれぞれ最も多くなっています。

表 ④現在利用していないが、今後新たに利用したいサービス

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)			
		調査数	居宅介護（ホームヘルプ）	重度訪問介護	同行援護	行動援護	重度障害者等包括支援	生活介護	自立訓練（機能訓練・生活訓練）	就労移行支援	就労継続支援（A型、B型）	就労定着支援	療養介護	短期入所（ショートステイ）	自立生活援助		
【表の見方】 比率(%) 網掛け=			1位	2位													
全体		78	5.1	-	3.8	1.3	1.3	1.3	3.8	2.6	2.6	1.3	-	7.7	1.3		
障害種別	身体障害	50	8.0	-	4.0	-	2.0	2.0	4.0	-	-	-	-	6.0	2.0		
	知的障害	19	-	-	-	-	-	-	5.3	-	5.3	5.3	-	15.8	-		
	精神障害	19	-	-	10.5	5.3	-	-	10.5	5.3	5.3	-	-	-	-		
	難病	5	20.0	-	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	発達障害	15	-	-	-	-	-	-	13.3	13.3	-	6.7	-	13.3	-		
	高次脳機能障害	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0	-		

		(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)	(22)	(23)	(24)	(25)	(26)	
		共同生活援助（グループホーム）	施設入所支援	宿泊型自立訓練	計画相談支援	地域移行支援	地域定着支援	児童発達支援	放課後等デイサービス	居宅訪問型児童発達支援	保育所等訪問支援	医療型児童発達支援	障害児相談支援	その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=			1位	2位											
全体		7.7	1.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	59.0
障害種別	身体障害	4.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66.0
	知的障害	10.5	5.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52.6
	精神障害	15.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	47.4
	難病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60.0
	発達障害	6.7	6.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40.0
	高次脳機能障害	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	62.5

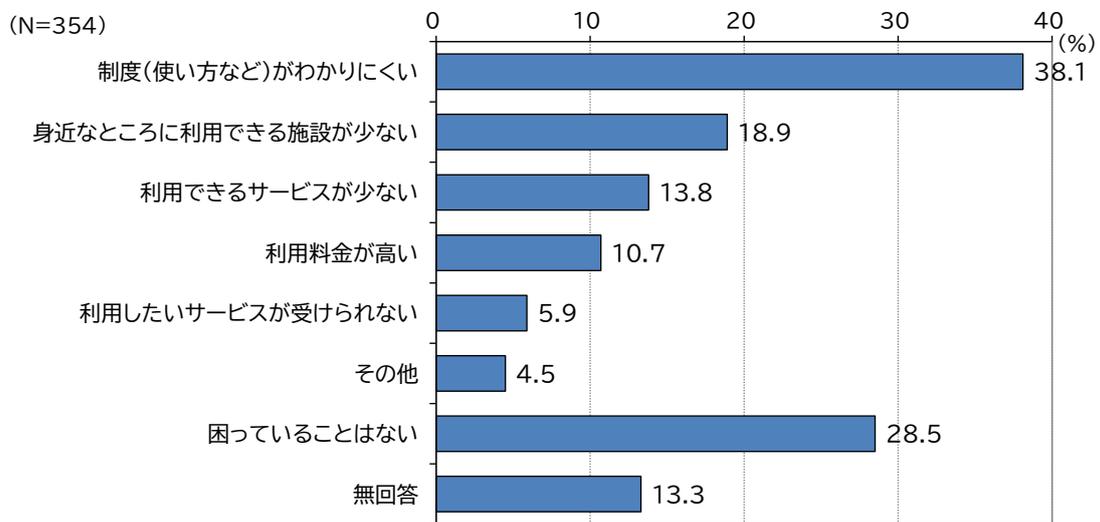
問4 1 障害福祉サービス利用時に困っていること

現在の利用の有無に関係なくお答えください。障害福祉サービスを受けるにあたり、困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

障害福祉サービス利用時に困っていることは、「制度（使い方など）がわかりにくい」（38.1%）が最も多く、次いで「身近なところに利用できる施設が少ない」（18.9%）、「利用できるサービスが少ない」（13.8%）となっており、一方で、「困っていることはない」（28.5%）も多くなっています。

障害種別にみると、身体障害・精神障害・難病・発達障害・高次脳機能障害では「制度（使い方など）がわかりにくい」が最も多く、知的障害では「困っていることはない」（32.7%）が最も多くなっています。

図表 障害福祉サービス利用時に困っていること



	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	無回答	
		制度（使い方など）がわかりにくい	身近なところに利用できる施設が少ない	利用できるサービスが少ない	利用料金が低い	利用したいサービスが受けられない	その他	困っていることはない		
全体	354	38.1	18.9	13.8	10.7	5.9	4.5	28.5	13.3	
障害種別	身体障害	197	39.1	17.8	13.2	10.7	6.1	2.5	28.4	14.7
	知的障害	98	26.5	20.4	12.2	6.1	5.1	6.1	32.7	14.3
	精神障害	95	47.4	24.2	16.8	12.6	6.3	6.3	29.5	5.3
	難病	26	38.5	26.9	15.4	7.7	3.8	7.7	30.8	3.8
	発達障害	71	42.3	21.1	12.7	8.5	7.0	2.8	32.4	5.6
	高次脳機能障害	22	40.9	13.6	13.6	22.7	4.5	4.5	18.2	22.7

【表の見方】
比率(%)
網掛け=

1位
2位

7. 介護保険サービス等の利用について

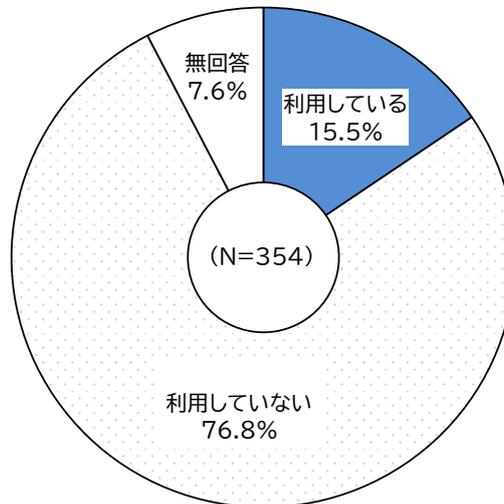
問4 2 介護保険サービスの利用状況

あなたは、介護保険によるサービスを利用していますか。(○は1つだけ)

介護保険サービスの利用状況は、「利用している」(15.5%)、「利用していない」(76.8%)となっています。

障害種別にみると、すべての障害で「利用していない」が5割を超えて多くなっている一方で、高次脳機能障害では「利用している」(31.8%)がその他の障害と比べて多くなっている。

図表 介護保険サービスの利用状況



【表の見方】 比率(%) 網掛け=	調査数	(1)	(2)	無回答	
		利用している	利用していない		
1位					
2位					
全体	354	15.5	76.8	7.6	
障害種別	身体障害	197	23.9	68.0	8.1
	知的障害	98	4.1	86.7	9.2
	精神障害	95	6.3	90.5	3.2
	難病	26	15.4	80.8	3.8
	発達障害	71	2.8	93.0	4.2
	高次脳機能障害	22	31.8	59.1	9.1

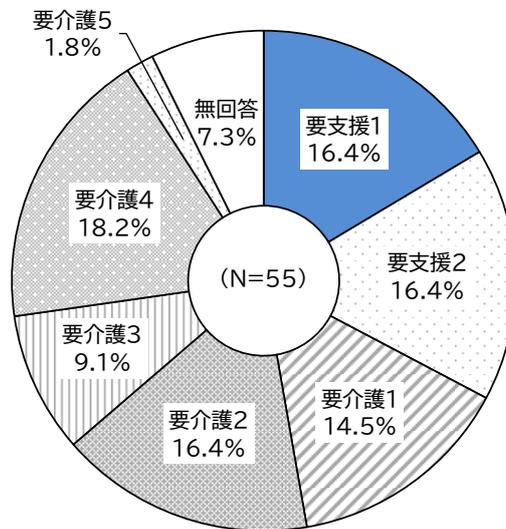
問4 3 要介護度

問4 2で「1 利用している」を選択した方のみお答えください。
該当する要介護度はどれですか。(○は1つだけ)

要介護度は、「要介護4」(18.2%)が最も多く、次いで「要支援1」、「要支援2」、「要介護2」(同率で16.4%)、「要介護3」(9.1%)、「要介護5」(1.8%)となっています。

障害種別にみると、身体障害では「要介護4」(19.1%)が最も多く、知的障害では「要支援1」、「要介護1」、「要介護5」(同率で16.4%)、精神障害では「要介護2」(50.0%)、難病では「要支援1」(50.0%)、発達障害・高次脳機能障害では「要介護1」がそれぞれ最も多くなっています。

図表 要介護度



	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	無回答	
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5		
全体	55	16.4	16.4	14.5	16.4	9.1	18.2	1.8	7.3	
障害種別	身体障害	47	14.9	17.0	17.0	17.0	10.6	19.1	-	4.3
	知的障害	4	25.0	-	25.0	-	-	-	25.0	25.0
	精神障害	6	16.7	-	-	50.0	16.7	-	-	16.7
	難病	4	50.0	-	-	-	25.0	25.0	-	-
	発達障害	2	-	-	50.0	-	-	-	-	50.0
	高次脳機能障害	7	14.3	-	42.9	-	14.3	14.3	-	14.3

8. 権利擁護について

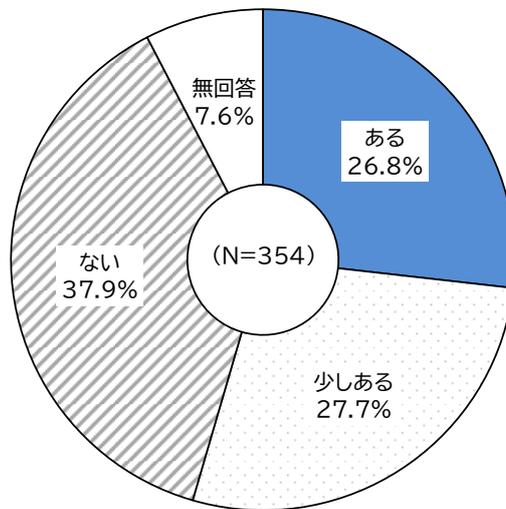
問44 障害があることで差別や嫌な思いをしたこと

あなたは、障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがありますか。（○は1つだけ）

障害があることで差別や嫌な思いをしたことは、「ない」（37.9%）が最も多く、次いで「少しある」（27.7%）、「ある」（26.8%）となっています。

障害種別にみると、身体障害では「ない」（47.2%）が最も多く、知的障害・精神障害・難病・発達障害・高次脳機能障害では「ある」が最も多くなっています。

図表 障害があることで差別や嫌な思いをしたこと



	調査数	(1)	(2)	(3)	無回答	
		ある	少しある	ない		
全体	354	26.8	27.7	37.9	7.6	
障害種別	身体障害	197	18.8	24.4	47.2	9.6
	知的障害	98	36.7	33.7	21.4	8.2
	精神障害	95	41.1	26.3	30.5	2.1
	難病	26	42.3	19.2	34.6	3.8
	発達障害	71	45.1	29.6	19.7	5.6
	高次脳機能障害	22	36.4	31.8	18.2	13.6

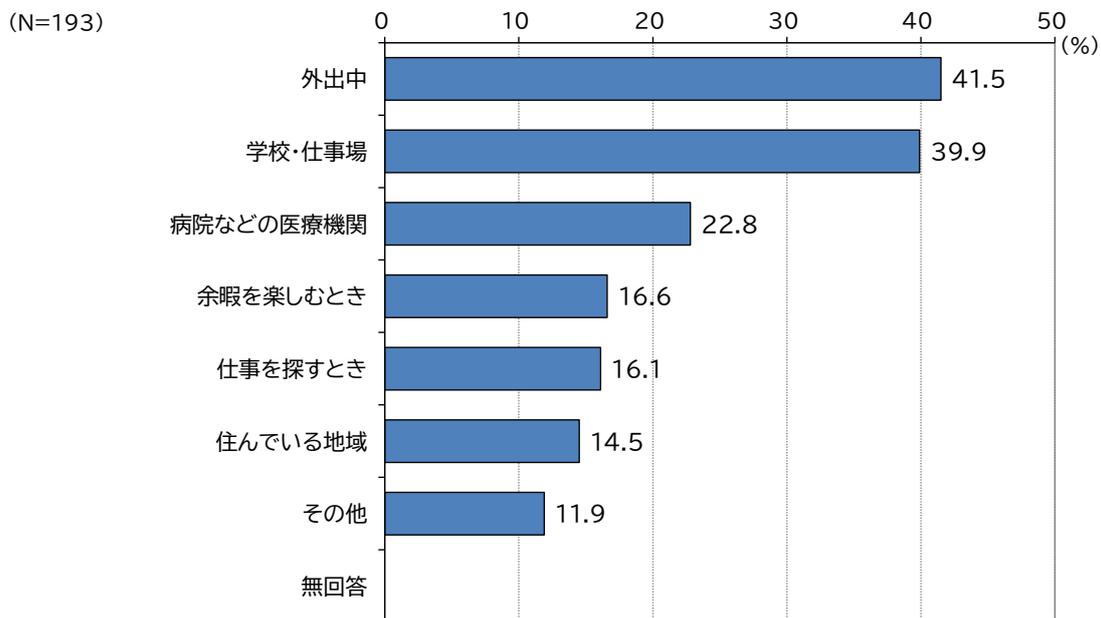
問4 5 差別や嫌な思いをした場所

問4 4で「1 ある」または「2 少しある」を選択した方のみお答えください。
 どのような場所で差別や嫌な思いをしましたか。(あてはまるものすべてに○)

差別や嫌な思いをした場所は、「外出中」(41.5%)が最も多く、次いで「学校・仕事場」(39.9%)、「病院などの医療機関」(22.8%)となっています。

障害種別にみると、身体障害・難病では「外出中」が最も多く、知的障害・精神障害・発達障害では「学校・仕事場」、高次脳機能障害では「外出中」、「学校・仕事場」(同率で46.7%)がそれぞれ最も多くなっています。

図表 差別や嫌な思いをした場所



【表の見方】 比率(%) 網掛け=	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	無回答	
		外出中	学校・仕事場	病院などの医療機関	余暇を楽しむとき	仕事を探すとき	住んでいる地域	その他		
全体	193	41.5	39.9	22.8	16.6	16.1	14.5	11.9	-	
障害種別	身体障害	85	49.4	30.6	30.6	22.4	9.4	14.1	4.7	-
	知的障害	69	47.8	52.2	10.1	11.6	8.7	14.5	1.4	-
	精神障害	64	28.1	35.9	25.0	14.1	28.1	15.6	26.6	-
	難病	16	43.8	31.3	18.8	12.5	-	37.5	6.3	-
	発達障害	53	39.6	62.3	13.2	13.2	13.2	9.4	3.8	-
	高次脳機能障害	15	46.7	46.7	20.0	13.3	6.7	33.3	-	-

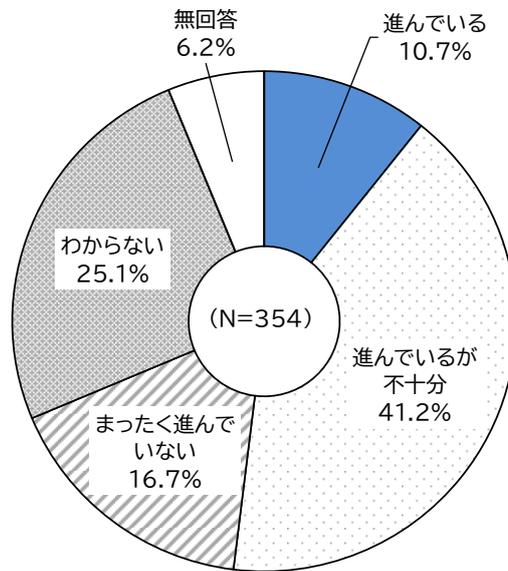
問4 6 障害や障害の方に対する周囲の理解度

障害や障害のある方に対する周りの人の理解は進んでいると思いますか。(○は1つだけ)

障害や障害の方に対する周囲の理解度は、「進んでいるが不十分」(41.2%)が最も多く、次いで「わからない」(25.1%)、「まったく進んでいない」(16.7%)、「進んでいる」(10.7%)となっています。

障害種別に見ると、身体障害・知的障害・精神障害・難病・発達障害では「進んでいるが不十分」が最も多く、高次脳機能障害では「わからない」(36.4%)が最も多くなっています。

図表 障害や障害の方に対する周囲の理解度



		(1)	(2)	(3)	(4)		
		進んでいる	進んでいるが不十分	まったく進んでいない	わからない	無回答	
【表の見方】	比率 (%)						
	網掛け =						
	1位						
	2位						
全体	調査数	354	10.7	41.2	16.7	25.1	6.2
障害種別	身体障害	197	11.2	39.6	15.2	27.4	6.6
	知的障害	98	11.2	40.8	14.3	27.6	6.1
	精神障害	95	13.7	40.0	23.2	22.1	1.1
	難病	26	23.1	42.3	19.2	11.5	3.8
	発達障害	71	16.9	45.1	14.1	19.7	4.2
	高次脳機能障害	22	18.2	22.7	18.2	36.4	4.5

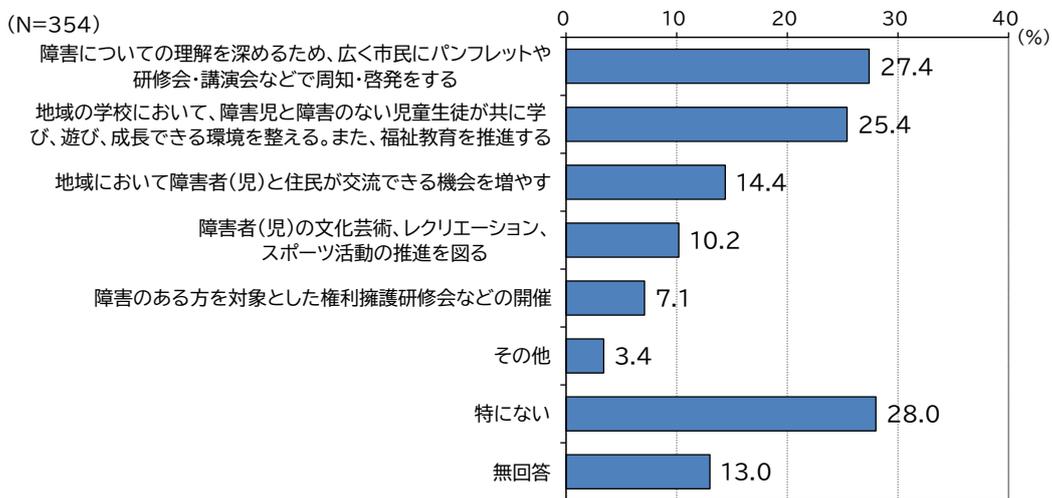
問47 障害のある方への偏見や差別を解消するために取り組んでほしいこと

障害のある方への偏見や差別を解消するため、取り組んで欲しいことは何ですか。(〇は2つまで)

障害のある方への偏見や差別を解消するために取り組んでほしいことは、「障害についての理解を深めるため、広く市民にパンフレットや研修会・講演会などで周知・啓発をする」(27.4%)が最も多く、次いで「地域の学校において、障害児と障害のない児童生徒が共に学び、遊び、成長できる環境を整える。また、福祉教育を推進する」(25.4%)、「地域において障害者(児)と住民が交流できる機会を増やす」(14.4%)となっています。一方で、「特にない」(28.0%)も多くなっています。

障害種別にみると、身体障害・精神障害・高次脳機能障害では「特にない」が最も多く、知的障害では「地域の学校において、障害児と障害のない児童生徒が共に学び、遊び、成長できる環境を整える。また、福祉教育を推進する」(35.7%)、難病・発達障害では「地域において障害者(児)と住民が交流できる機会を増やす」がそれぞれ最も多くなっています。

図表 障害のある方への偏見や差別を解消するために取り組んでほしいこと



調査数	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	無回答	
		知・啓発をする	地域の学校において、共に学び、遊び、成長できる環境を整える。また、福祉教育を推進する	地域において障害者(児)と住民が交流できる機会を増やす	障害者(児)の文化芸術、レクリエーション、スポーツ活動の推進を図る	障害者(児)を対象とした権利擁護研修会などの開催	その他	特にない		
【表の見方】 比率(%) 網掛け=										
1位										
2位										
全体	354	27.4	25.4	14.4	10.2	7.1	3.4	28.0	13.0	
障害種別	身体障害	197	24.9	23.9	10.7	10.2	6.6	2.5	29.4	16.8
	知的障害	98	31.6	35.7	18.4	15.3	5.1	1.0	18.4	8.2
	精神障害	95	32.6	15.8	12.6	9.5	11.6	6.3	37.9	4.2
	難病	26	46.2	19.2	11.5	7.7	7.7	11.5	23.1	7.7
	発達障害	71	33.8	29.6	16.9	18.3	7.0	-	19.7	7.0
高次脳機能障害	22	27.3	4.5	4.5	18.2	9.1	4.5	31.8	22.7	

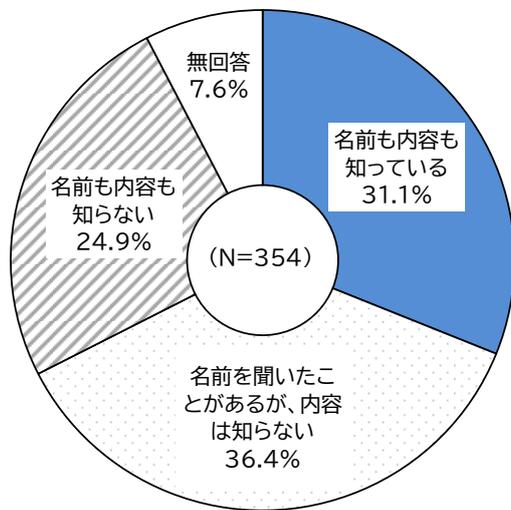
問48 成年後見制度の認知度

成年後見制度についてご存じですか。(○は1つだけ)

成年後見制度の認知度は、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」(36.4%)が最も多く、次いで「名前も内容も知っている」(31.1%)、「名前も内容も知らない」(24.9%)となっています。

障害種別に見ると、身体障害・精神障害・発達障害では「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が最も多く、知的障害・高次脳機能障害では「名前も内容も知っている」、難病では「名前も内容も知っている」、「名前も内容も知らない」(同率で 34.6%)がそれぞれ最も多くなっています。

図表 成年後見制度の認知度



	調査数	(1)	(2)	(3)	無回答	
		名前も内容も知っている	名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	名前も内容も知らない		
全体	354	31.1	36.4	24.9	7.6	
障害種別	身体障害	197	29.9	38.6	23.9	7.6
	知的障害	98	34.7	32.7	25.5	7.1
	精神障害	95	30.5	35.8	30.5	3.2
	難病	26	34.6	26.9	34.6	3.8
	発達障害	71	29.6	36.6	29.6	4.2
	高次脳機能障害	22	45.5	22.7	18.2	13.6

【表の見方】
比率(%)
網掛け=

1位
2位

9. 災害時の避難等について

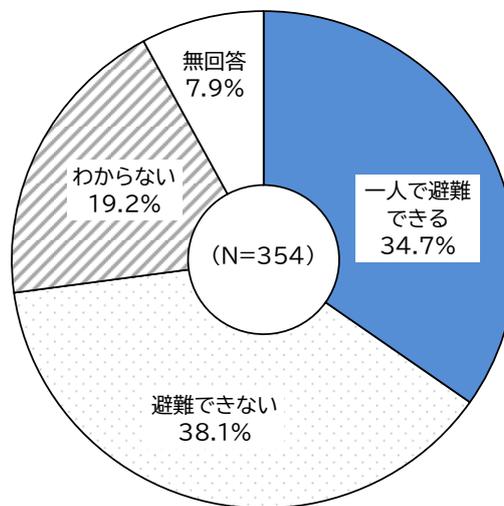
問49 災害などの緊急時の避難が一人で行えるか

あなたは、火事や地震等の災害時に一人で避難できますか。(○は1つだけ)

災害などの緊急時の避難が一人で行えるかは、「一人で避難できる」(34.7%)は3人に1人程度にとどまっており、4割近くの人が「避難できない」という結果となっています。

障害種別にみると、身体障害・知的障害・難病・高次脳機能障害では「避難できない」が多く、特に難病では5割を超えています。一方で、精神障害・発達障害では「一人で避難できる」が4割を超えて多くなっています。

図表 災害などの緊急時の避難が一人で行えるか



			(1)	(2)	(3)	
		調査数	一人で避難できる	避難できない	わからない	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=						
			1位	2位		
全体		354	34.7	38.1	19.2	7.9
障害種別	身体障害	197	31.5	41.6	18.8	8.1
	知的障害	98	33.7	43.9	14.3	8.2
	精神障害	95	45.3	25.3	23.2	6.3
	難病	26	15.4	53.8	15.4	15.4
	発達障害	71	40.8	36.6	18.3	4.2
	高次脳機能障害	22	31.8	45.5	9.1	13.6

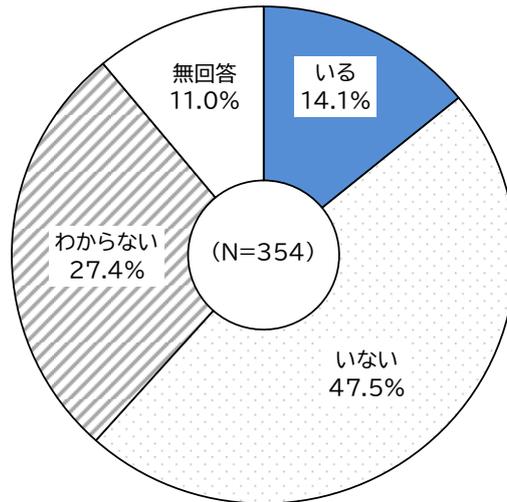
問50 災害時に周囲に助けてくれる人

家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。(〇は1つだけ)

災害等に周囲に助けてくれる人は、「いない」(47.5%)が最も多く、次いで「わからない」(27.4%)、「いる」(14.1%)となっています。

障害種別にみると、すべての障害で「いない」が4割を超えて多くなっています。

図表 災害時に周囲に助けてくれる人



		調査数	(1) いる	(2) いない	(3) わからない	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=						
				1位		
				2位		
全体		354	14.1	47.5	27.4	11.0
障害種別	身体障害	197	15.7	42.1	31.0	11.2
	知的障害	98	19.4	41.8	25.5	13.3
	精神障害	95	6.3	66.3	20.0	7.4
	難病	26	19.2	53.8	7.7	19.2
	発達障害	71	15.5	52.1	26.8	5.6
	高次脳機能障害	22	13.6	40.9	31.8	13.6

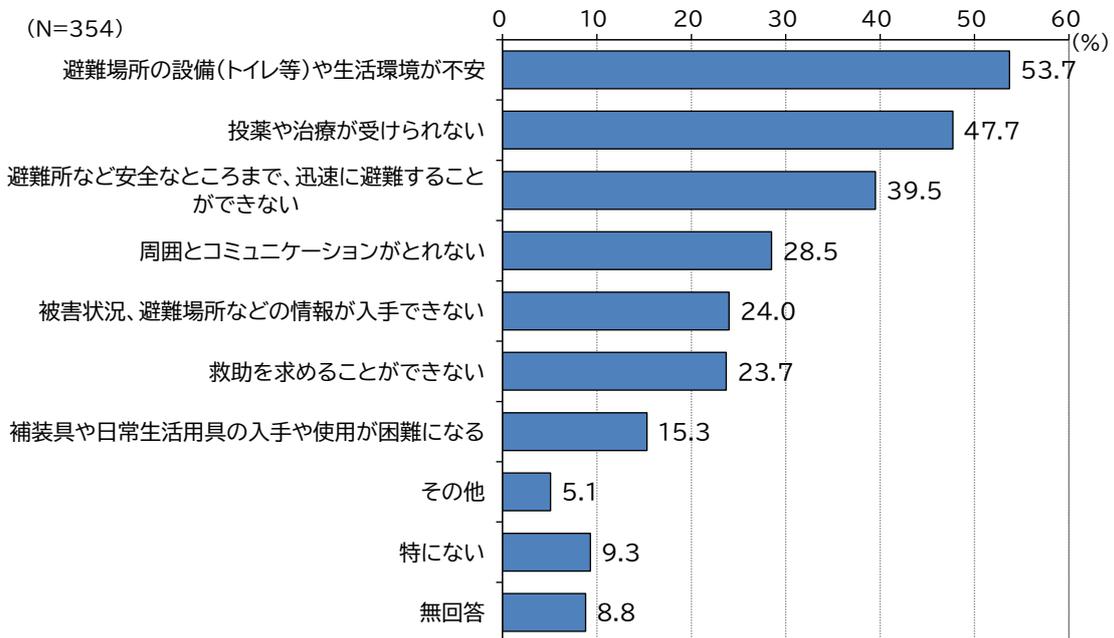
問5 1 火事や地震等の災害時に困ること

火事や地震等の災害時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

火事や地震等の災害時に困ることは、「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」（53.7%）が最も多く、次いで「投薬や治療が受けられない」（47.7%）、「避難所など安全なところまで、迅速に避難することができない」（39.5%）となっています。

障害種別に見ると、身体障害・知的障害・精神障害・高次脳機能障害では「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」が最も多く、精神障害では「投薬や治療が受けられない」（57.9%）、発達障害では「周囲とコミュニケーションがとれない」（57.7%）がそれぞれ最も多くなっています。

図表 火事や地震等の災害時に困ること



	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	無回答	
		避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安	投薬や治療が受けられない	避難所など安全なところまで、迅速に	周囲とコミュニケーションがとれない	被害状況、避難場所などの情報が入手できない	救助を求めることができない	補装具や日常生活用具の入手や使用が困難になる	その他	特になし		
全体	354	53.7	47.7	39.5	28.5	24.0	23.7	15.3	5.1	9.3	8.8	
障害種別	身体障害	197	55.8	48.2	45.2	19.3	22.3	25.9	18.3	4.6	7.6	9.1
	知的障害	98	49.0	36.7	38.8	43.9	28.6	25.5	14.3	4.1	12.2	9.2
	精神障害	95	53.7	57.9	27.4	35.8	27.4	22.1	13.7	8.4	10.5	6.3
	難病	26	53.8	42.3	38.5	30.8	23.1	34.6	11.5	15.4	-	15.4
	発達障害	71	54.9	47.9	32.4	57.7	31.0	22.5	12.7	4.2	9.9	5.6
	高次脳機能障害	22	59.1	40.9	45.5	36.4	36.4	27.3	18.2	13.6	-	13.6

【表の見方】
比率(%)
網掛け=

1位
2位

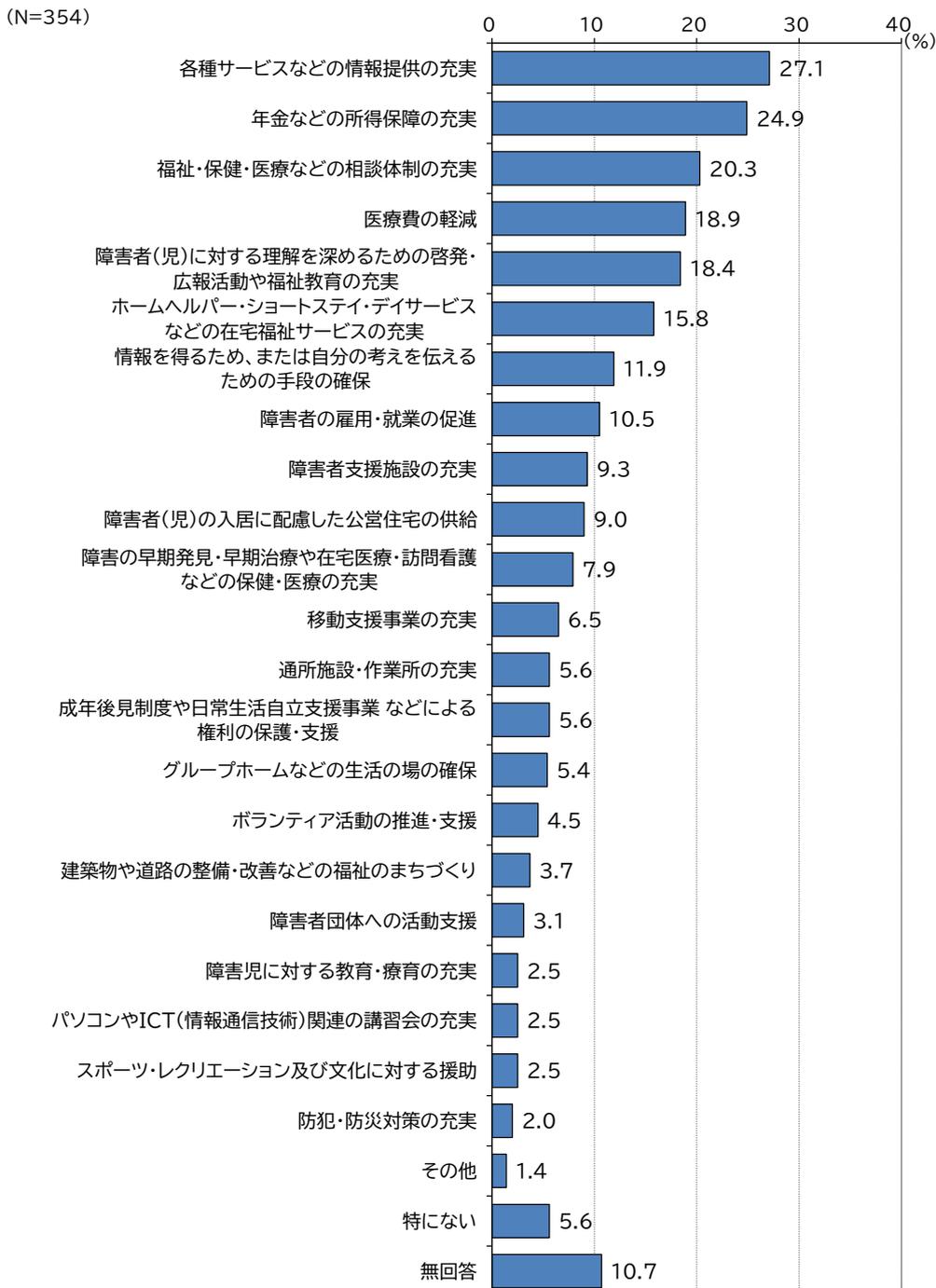
10. 障害福祉施策について

問52 今後の障害福祉分野においてもっとも充実してほしいこと

今後、障害者福祉分野においてあなたがもっとも充実してほしいのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

今後の障害福祉分野においてもっとも充実してほしいことは、「各種サービスなどの情報提供の充実」(27.1%)が最も多く、次いで「年金などの所得保障の充実」(24.9%)、「福祉・保健・医療などの相談体制の充実」(20.3%)、「医療費の削減」(18.9%)、「障害者(児)に対する理解を深めるための啓発・広報活動や福祉教育の充実」(18.4%)となっています。

図 今後の障害福祉分野においてもっとも充実してほしいこと



障害種別にみると、身体障害・難病では「各種サービスなどの情報提供の充実」が最も多く、知的障害では「福祉・保健・医療などの相談体制の充実」(24.5%)、精神障害では「年金などの所得保障の充実」(34.7%)、発達障害では「障害者(児)に対する理解を深めるための啓発・広報活動や福祉教育の充実」(25.4%)、高次脳機能障害では「ホームヘルパー・ショートステイ・デイサービスなどの在宅福祉サービスの充実」(27.3%)がそれぞれ最も多くなっています。

表 今後の障害福祉分野においてもっとも充実してほしいこと

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	
【表の見方】 比率(%) 網掛け=		1位												
		2位												
	調査数	各種サービスなどの情報提供の充実	年金などの所得保障の充実	福祉・保健・医療などの相談体制の充実	医療費の軽減	障害者(児)に対する理解を深めるための啓発・広報活動や福祉教育の充実	ホームヘルパー・ショートステイ・デイサービスなどの在宅福祉サービスの充実	情報を得るための手段の確保	障害者の雇用・就業の促進	障害者支援施設の充実	障害者(児)の入居に配慮した公営住宅の供給	障害の早期発見・早期治療や在宅医療・訪問看護などの保健・医療の充実	移動支援事業の充実	
全体	354	27.1	24.9	20.3	18.9	18.4	15.8	11.9	10.5	9.3	9.0	7.9	6.5	
障害種別	身体障害	197	33.5	24.4	17.8	20.8	17.8	19.3	8.6	6.6	8.1	6.6	8.1	6.1
	知的障害	98	23.5	17.3	24.5	13.3	18.4	15.3	9.2	8.2	20.4	9.2	5.1	8.2
	精神障害	95	24.2	34.7	20.0	18.9	18.9	7.4	16.8	21.1	5.3	15.8	11.6	5.3
	難病	26	26.9	19.2	23.1	19.2	19.2	11.5	19.2	3.8	7.7	11.5	7.7	11.5
	発達障害	71	21.1	16.9	22.5	16.9	25.4	14.1	15.5	12.7	19.7	11.3	7.0	8.5
	高次脳機能障害	22	13.6	18.2	18.2	22.7	22.7	27.3	9.1	22.7	4.5	4.5	18.2	-

		(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)	(22)	(23)	(24)	
【表の見方】 比率(%) 網掛け=		1位												
		2位												
	通所施設・作業所の充実	成年後見制度や日常生活自立支援事業などによる権利の保護・支援	グループホームなどの生活の場の確保	ボランティア活動の推進・支援	の建築物や道路の整備・改善などの福祉	障害者団体への活動支援	障害者に対する教育・療育の充実	障害者に対する教育・療育の充実	パソコンやICT(情報通信技術)関連の講習会の充実	スポーツ・レクリエーション及び文化に対する援助	防犯・防災対策の充実	その他	特になし	無回答
全体	5.6	5.6	5.4	4.5	3.7	3.1	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.4	5.6	10.7
障害種別	身体障害	3.0	4.1	3.0	6.1	5.6	3.6	2.0	3.6	2.5	1.5	1.5	5.6	11.7
	知的障害	13.3	10.2	10.2	2.0	1.0	4.1	4.1	2.0	4.1	4.1	-	6.1	10.2
	精神障害	7.4	5.3	5.3	5.3	1.1	-	1.1	-	3.2	1.1	2.1	5.3	7.4
	難病	11.5	-	-	3.8	7.7	11.5	3.8	-	-	3.8	-	-	19.2
	発達障害	16.9	8.5	12.7	2.8	1.4	2.8	4.2	4.2	1.4	1.4	-	4.2	5.6
	高次脳機能障害	-	18.2	4.5	4.5	-	4.5	-	-	9.1	-	4.5	-	13.6

第4章 『市民を対象とした調査』の結果

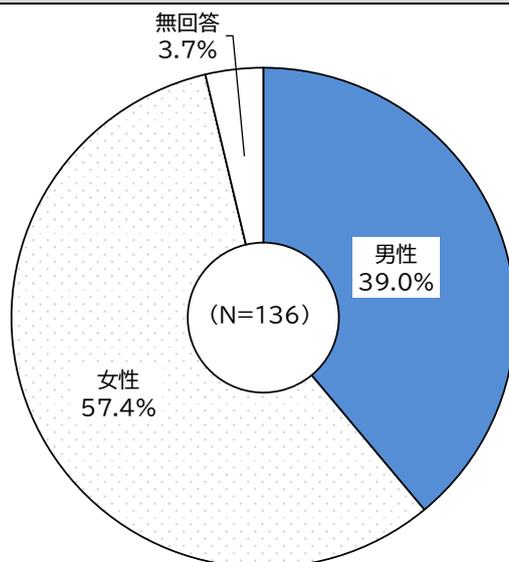
1. あなたご自身のことについて

問1 性別

あなたの性別をお答えください。(○は1つだけ)

対象者の性別は、「男性」(39.0%)、「女性」(57.4%)となっています。

図 性別

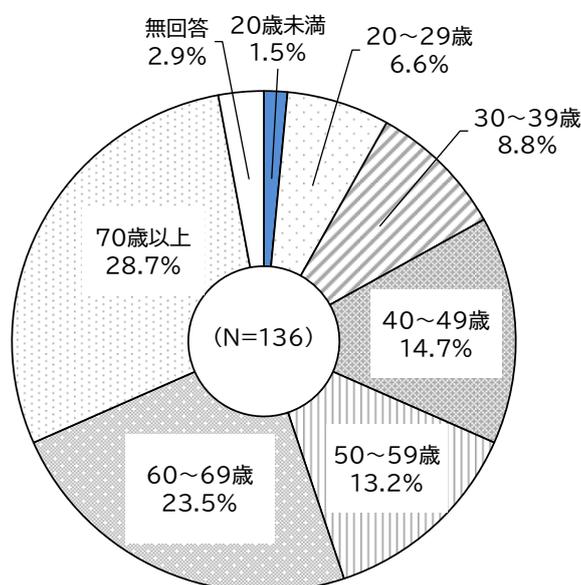


問2 年齢

あなたの年齢をお答えください。(○は1つだけ)

対象者の年齢は、「70歳以上」(28.7%)が最も多く、次いで「60～69歳」(23.5%)、「40～49歳」(14.7%)、「50～59歳」(13.2%)となっています。

図 年齢

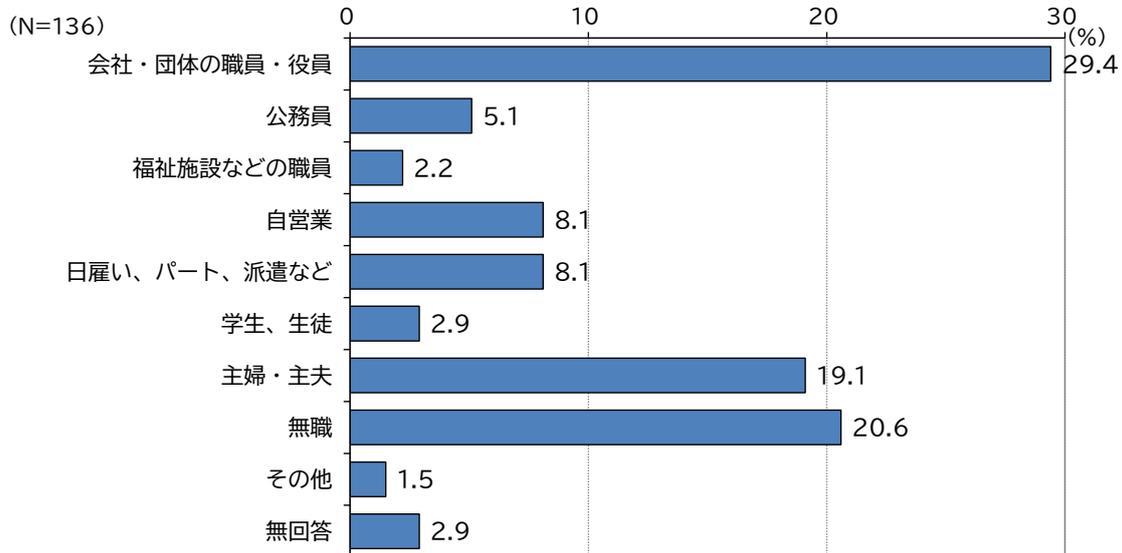


問3 職業

あなたの職業をお答えください。(○は1つだけ)

対象者の職業は、「会社・団体の職員・役員」(29.4%)が最も多く、次いで「無職」(20.6%)、「主婦・主夫」(19.1%)となっています。

図 職業

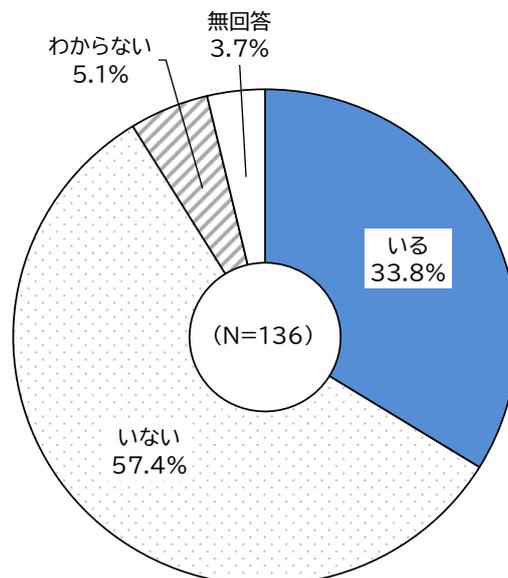


問4 身近な障害者の有無

あなたの身近に障害のある方はいますか。(○は1つだけ)

身近な障害者の有無は、「いない」(57.4%)が最も多く、次いで「いる」(33.8%)、「わからない」(5.1%)となっています。

図 身近な障害者の有無



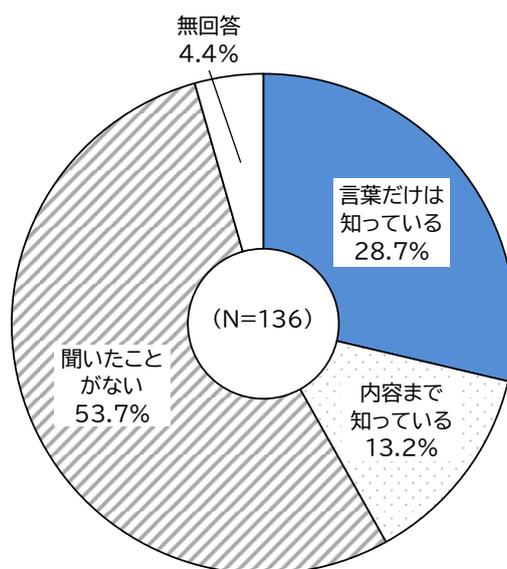
2. 障害者（児）に対する意識について

問5 ノーマライゼーションの認知度

あなたは、「ノーマライゼーション」という言葉を知っていますか。（○は1つだけ）

ノーマライゼーションの認知度は、「聞いたことがない」（53.7%）が半数以上を占め、「内容まで知っている」（13.2%）は1割未満となっています。

図 ノーマライゼーションの認知度

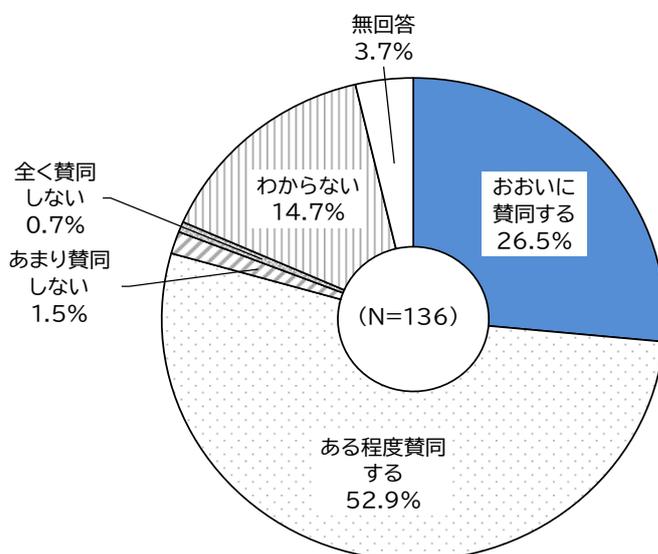


問6 ノーマライゼーションの考え方

あなたは、「ノーマライゼーション」という考え方について、どう思いますか。（○は1つだけ）

ノーマライゼーションの考え方は、「おおいに賛同する」と「ある程度賛同する」を合わせた『賛同する』という人が約8割を占めています。

図 ノーマライゼーションの考え方

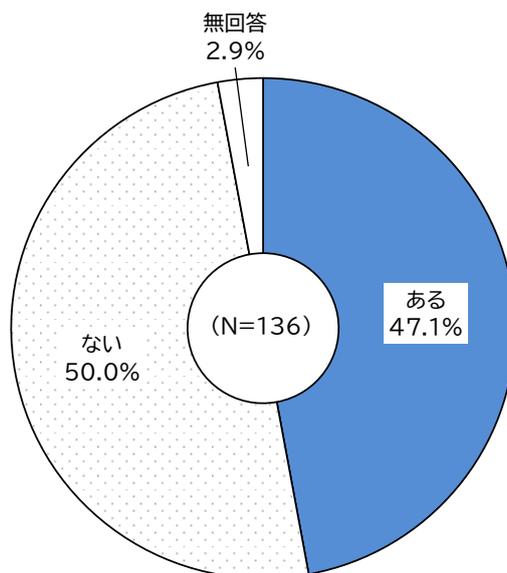


問7 障害者（児）へのコミュニケーションや手助の有無

これまでに障害者（児）と気軽に接したり、手助けをしたことがありますか。（○は1つだけ）

障害者（児）へのコミュニケーションや手助の有無は、「ある」（47.1%）、「ない」（50.0%）となっています。

図 障害者（児）へのコミュニケーションや手助の有無

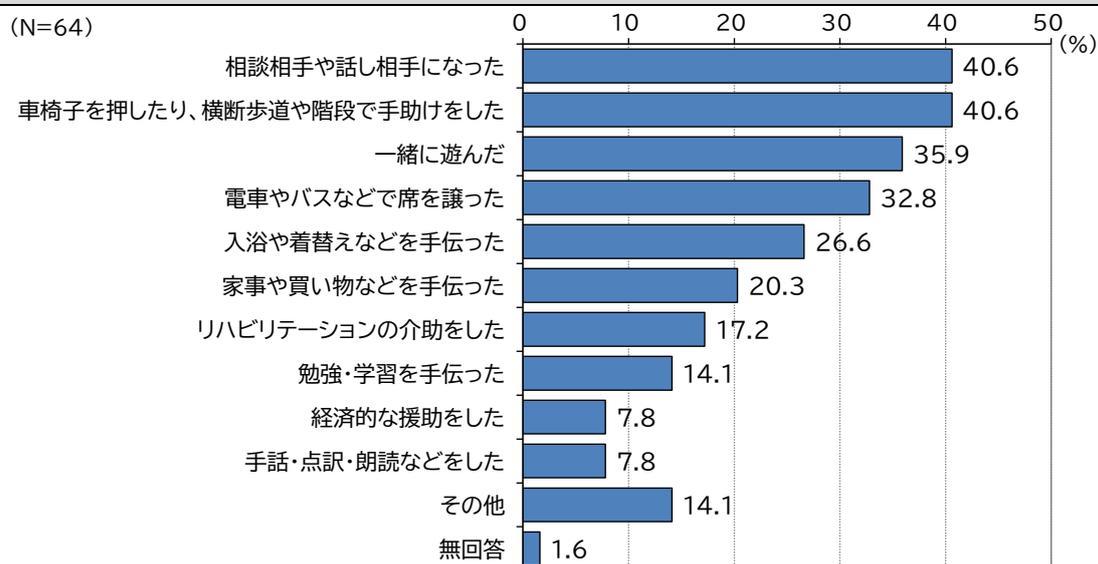


問7-1 障害者（児）へのコミュニケーションや手助した内容

問7で「1 ある」を選択した方のみお答えください。
それはどのようなことでしたか。（あてはまるものすべてに○）

障害者（児）へのコミュニケーションや手助した内容は、「相談相手や話し相手になった」、「車椅子を押したり、横断歩道や階段で手助けした」（同率で 40.6%）が最も多く、次いで「一緒に遊んだ」（35.9%）、「電車やバスなどで席を譲った」（32.8%）となっています。

図 障害者（児）へのコミュニケーションや手助した内容

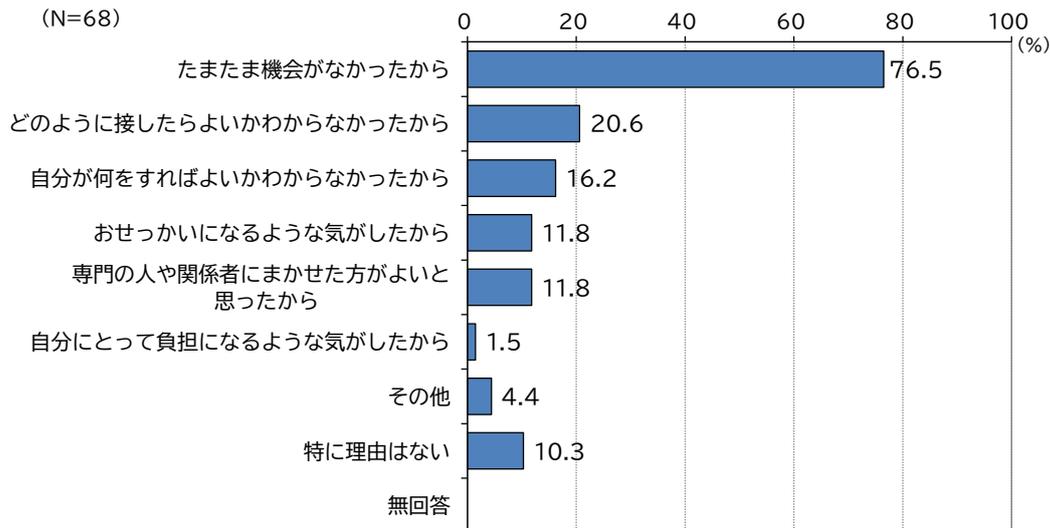


問7-2 障害者（児）へのコミュニケーションや手助をしたことがない理由

問7で「2 ない」を選択した方のみお答えください。
 話や手助けをしたことがない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

障害者（児）へのコミュニケーションや手助をしたことがない理由は、「たまたま機会がなかったから」（76.5%）が最も多く、次いで「どのように接したらよいかわからなかったから」（20.6%）、「自分が何をすればよいかわからなかったから」（16.2%）となっています。

図 障害者（児）へのコミュニケーションや手助をしたことがない理由

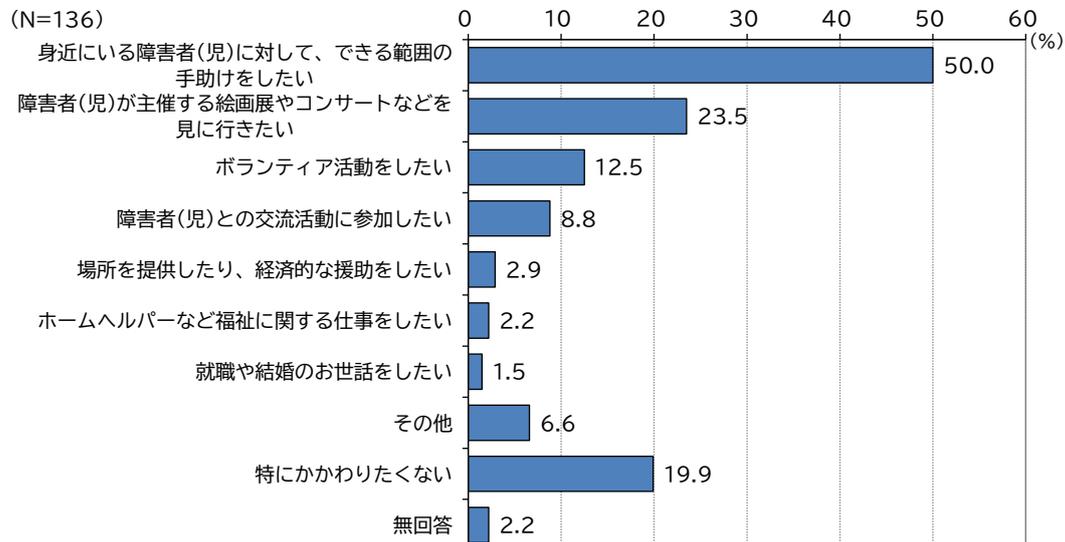


問8 今後の障害者（児）との関わり

今後、障害者（児）とかかわるとすれば、具体的にはどのような形でかかわりたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

今後の障害者（児）との関わりは、「身近にいる障害者（児）に対して、できる範囲の手助けをしたい」（50.0%）が最も多く、次いで「障害者（児）が主催する絵画展やコンサートなどを見に行きたい」（23.5%）となっており、一方で「特にかかわりたくない」（19.9%）も多くなっています。

図 今後の障害者（児）との関わり

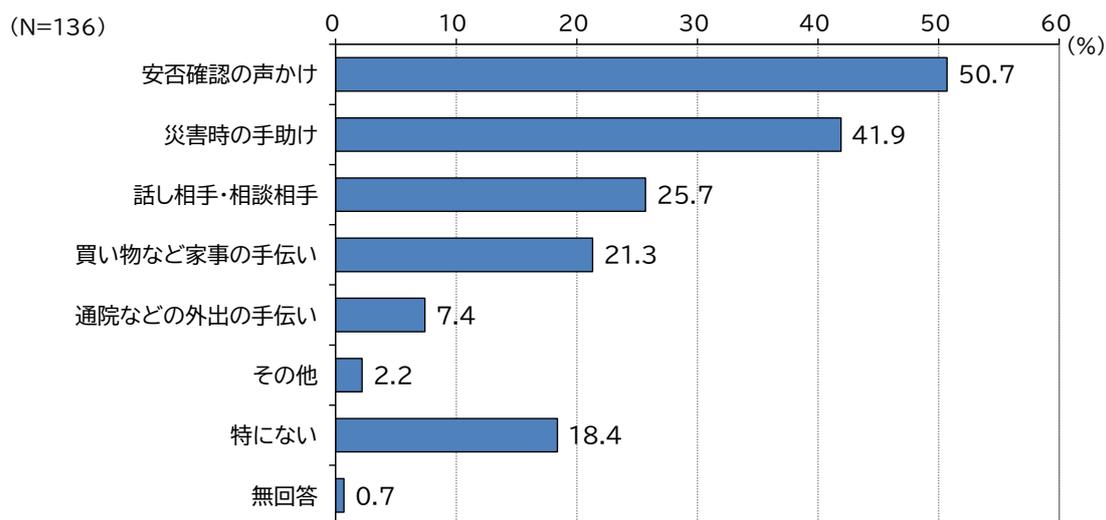


問9 障害者(児)の介助・介護などで困っている家庭にできる手助け

隣近所に、障害者(児)の介助・介護などで困っている家庭があった場合、あなたは、どのような手助けができますか。 (あてはまるものすべてに○)

障害者(児)の介助・介護などで困っている家庭にできる手助けは、「安否確認の声かけ」(50.7%)が最も多く、次いで「災害時の手助け」(41.9%)、「話し相手・相談相手」(25.7%)となっています。

図 障害者(児)の介助・介護などで困っている家庭にできる手助け

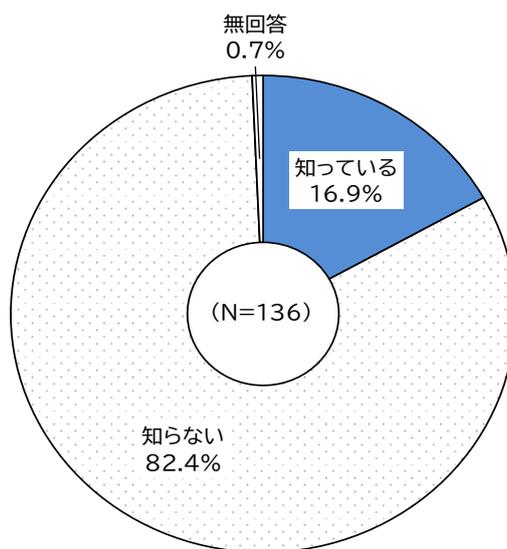


問10 障害者団体の認知度

地域には、障害のある本人やその家族の組織として障害種別ごとに、それぞれの目的にそった活動をしている障害者団体があります。あなたは、障害者団体について知っていますか。(〇は1つだけ)

障害者団体の認知度は、「知っている」(16.9%)、「知らない」(82.4%)となっており、認知度は低くなっています。

図 障害者団体の認知度

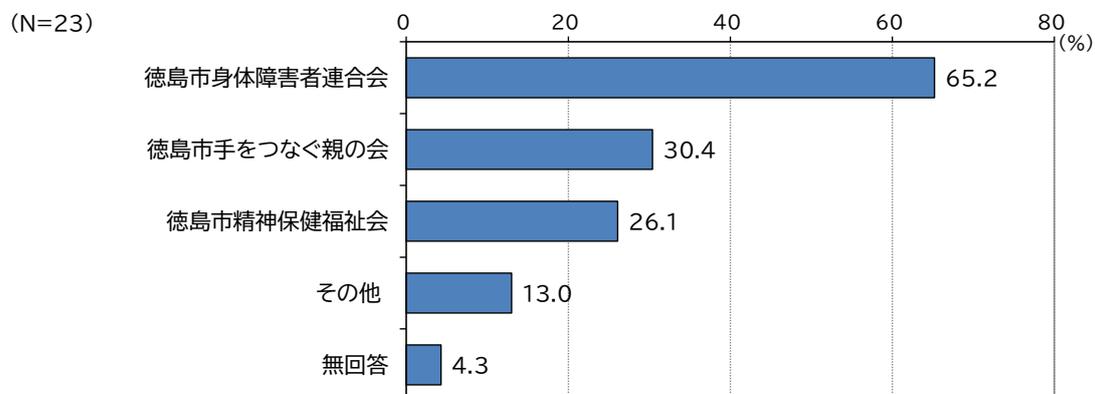


問10-1 知っている障害者団体名

問10で「1 知っている」を選択した方のみお答えください。
知っている障害者団体名をお答えください。(あてはまるものすべてに〇)

知っている障害者団体名は、「徳島市身体障害者連合会」(65.2%)が最も多く、次いで「徳島市手をつなぐ親の会」(30.4%)、「徳島市精神保健福祉会」(26.1%)となっています。

図 知っている障害者団体名



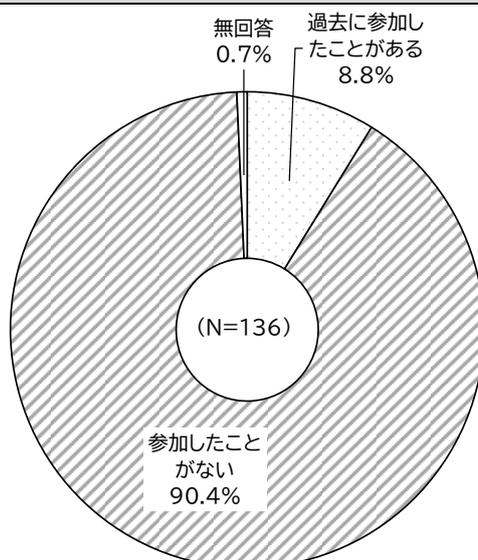
3. ボランティア活動について

問11 福祉関係のボランティア活動への参加状況

障害者(児)の福祉関係のボランティア活動に参加したことがありますか。(○は1つだけ)

福祉関係のボランティア活動への参加状況は、「過去に参加したことがある」人は1割未満となっており、9割以上の人々が「参加したことがない」となっています。

図 福祉関係のボランティア活動への参加状況

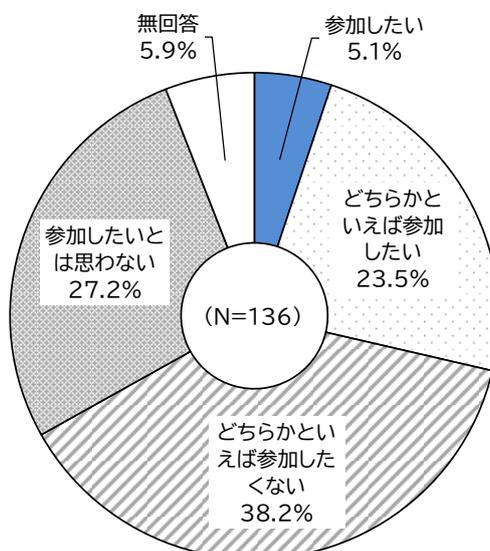


問12 福祉関係のボランティア活動への今後の参加意向

今後、障害者(児)の福祉関係のボランティア活動に参加したいと思えますか。(○は1つだけ)

福祉関係のボランティア活動への今後の参加意向は、「どちらかといえば参加したくない」と「参加したいとは思わない」を合わせた『参加したくない』という人が6割以上を占めています。

図 福祉関係のボランティア活動への今後の参加意向

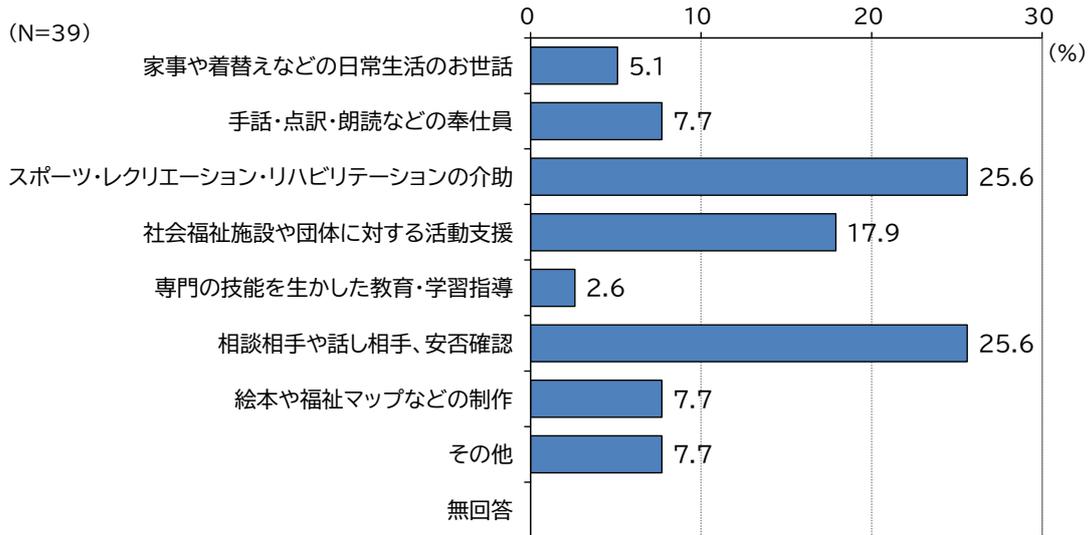


問12-1 参加したいと思う活動内容

問12で「1」～「2」を選択した方のみお答えください。
参加したいと思う活動はどのような活動ですか。(〇は1つだけ)

参加したいと思う活動内容は、「スポーツ・レクリエーション・リハビリテーションの介助」、「相談相手や話し相手、安否確認」(同率で 25.6%) が最も多く、次いで「社会福祉施設や団体に対する活動支援」(17.9%) となっています。

図 参加したいと思う活動内容

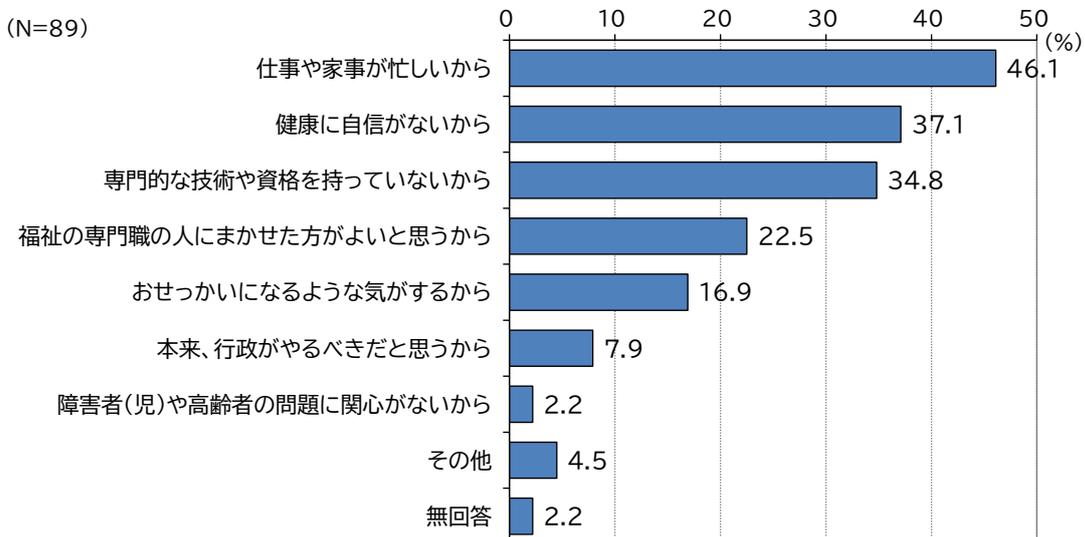


問12-2 ボランティア活動に参加したくない理由

問12で「3」～「4」を選択した方のみお答えください。
ボランティア活動に参加したくない理由は何ですか。(〇は3つまで)

ボランティア活動に参加したくない理由は、「仕事や家事が忙しいから」(46.1%) が最も多く、次いで「健康に自信がないから」(37.1%)、「専門的な技術や資格を持っていないから」(34.8%) となっています。

図 ボランティア活動に参加したくない理由



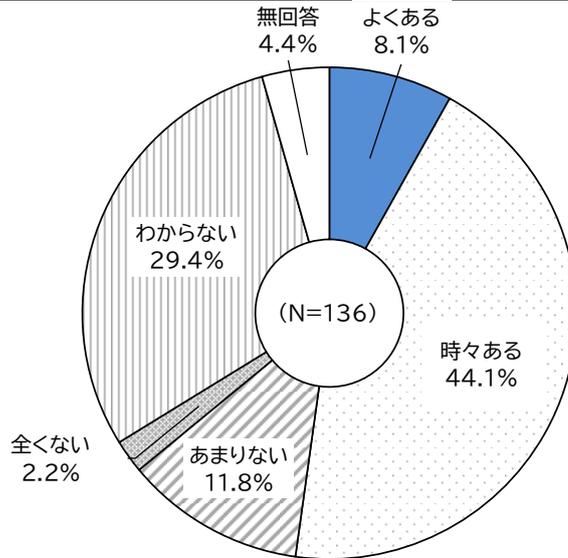
4. 障害者（児）への支援体制について

問13 障害者（児）の社会参加のために工夫すべきと思うこと

あなたは、日常生活の中で接するものや場所について、もう少し工夫すれば障害者（児）にも利用しやすくなるのに、と思うことはありますか。（〇は1つだけ）

障害者（児）の社会参加のために工夫すべきと思うことは、「時々ある」（44.1%）が最も多く、「よくある」（8.1%）と合わせると5割以上の方が『ある』と回答しています。

図 障害者（児）の社会参加のために工夫すべきと思うこと

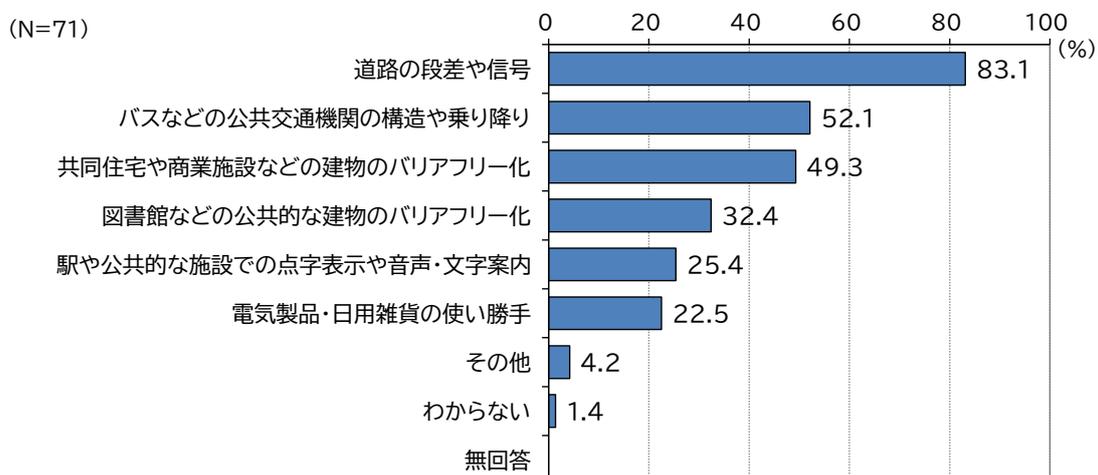


問13-1 障害者（児）の社会参加のために工夫すべき内容

問13で「1」～「2」を選択した方のみお答えください。
それはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに〇）

障害者（児）の社会参加のために工夫すべき内容は、「道路の段差や信号」（83.1%）が最も多く、次いで「バスなどの公共交通機関の構造や乗り降り」（52.1%）、「共同住宅や商業施設などの建物のバリアフリー化」（49.3%）となっています。

図 障害者（児）の社会参加のために工夫すべき内容

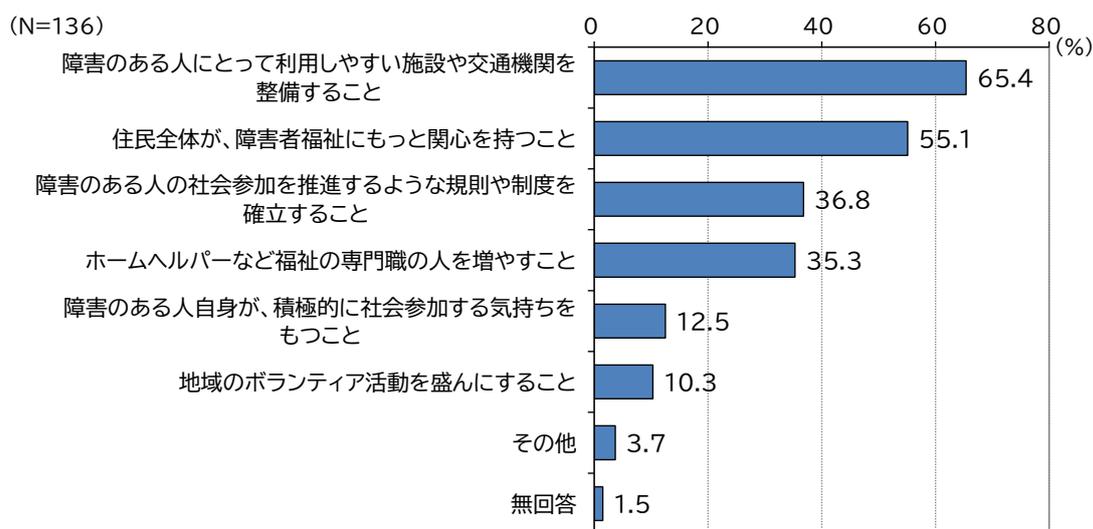


問14 障害者（児）が地域で自立して生活するために必要だと思うこと

今後、障害者（児）が地域で自立して生活するためにどのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

障害者（児）が地域で自立して生活するために必要だと思うことは、「障害のある人にとって利用しやすい施設や交通機関を整備すること」（65.4%）が最も多く、次いで「住民全体が、障害者福祉にもっと関心を持つこと」（55.1%）となっています。

図 障害者（児）が地域で自立して生活するために必要だと思うこと

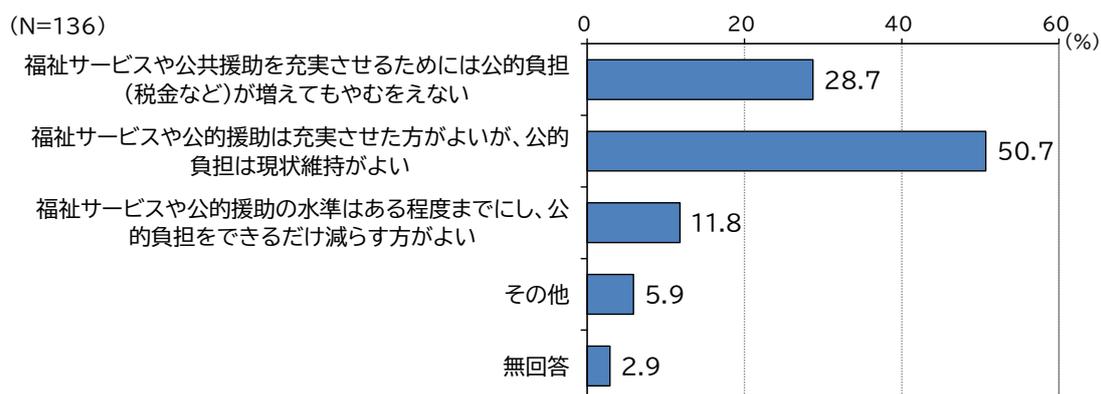


問15 福祉サービスや公共援助を充実させるための財源についての考え

障害者（児）が家庭や地域の中で安心して生活するためには、福祉サービスや公共援助を充実させる必要があると言われてしています。これにともなう財源について、どのようにお考えですか。（〇は1つだけ）

福祉サービスや公共援助を充実させるための財源についての考えは、「福祉サービスや公的援助は充実させた方がよいが、公的負担は現状維持がよい」（50.7%）が最も多く、次いで「福祉サービスや公共援助を充実させるためには公的負担（税金など）が増えてもやむをえない」（28.7%）となっています。

図 福祉サービスや公共援助を充実させるための財源についての考え

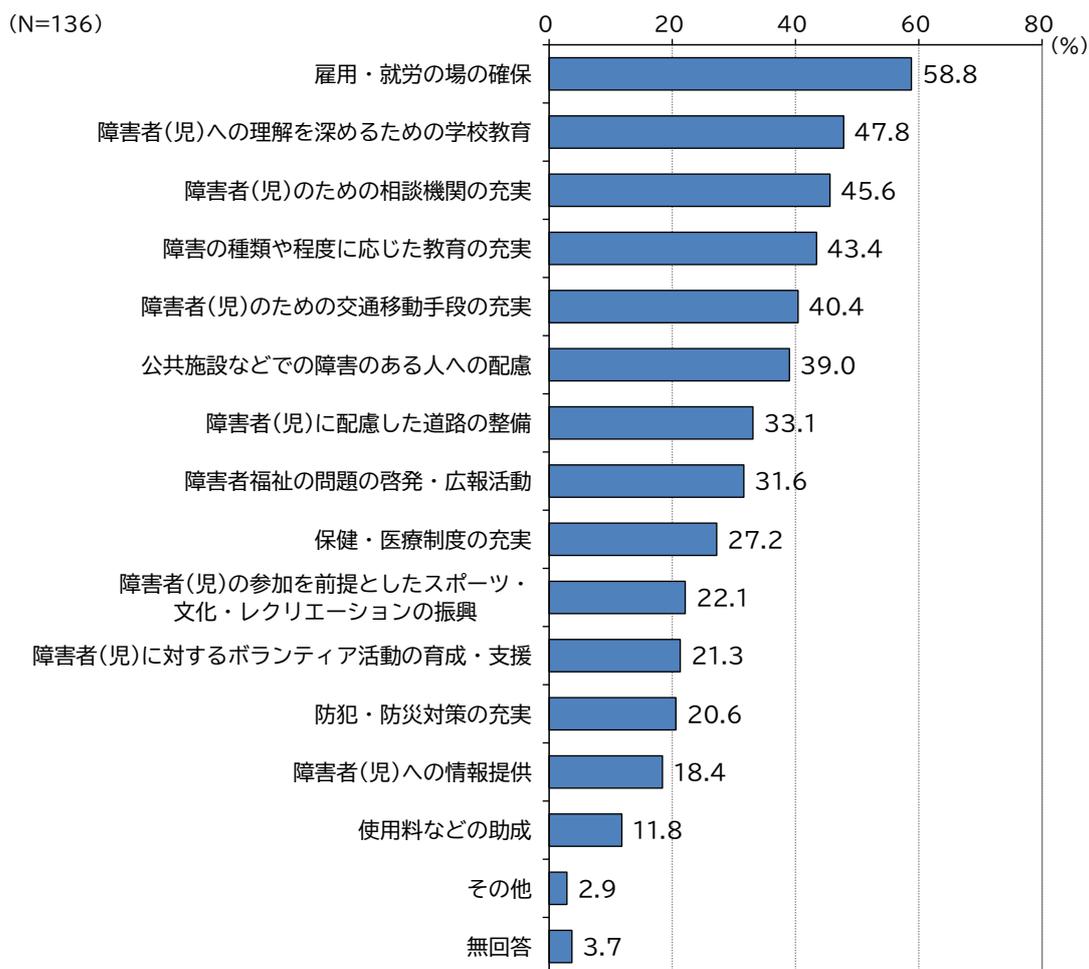


問16 障害者（児）が今後住みやすいまちづくりのために重要だと思うこと

障害者（児）にとって住みやすいまちをつくるために、今後どのようなことが重要だと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

障害者（児）が今後住みやすいまちづくりのために重要だと思うことは、「雇用・就労の場の確保」(58.8%)が最も多く、次いで「障害者（児）への理解を深めるための学校教育」(47.8%)、「障害者（児）のための相談機関の充実」(45.6%)、「障害の種類や程度に応じた教育の充実」(43.4%)、「障害者（児）のための交通移動手段の充実」(40.4%)となっています。

図 障害者（児）が今後住みやすいまちづくりのために重要だと思うこと



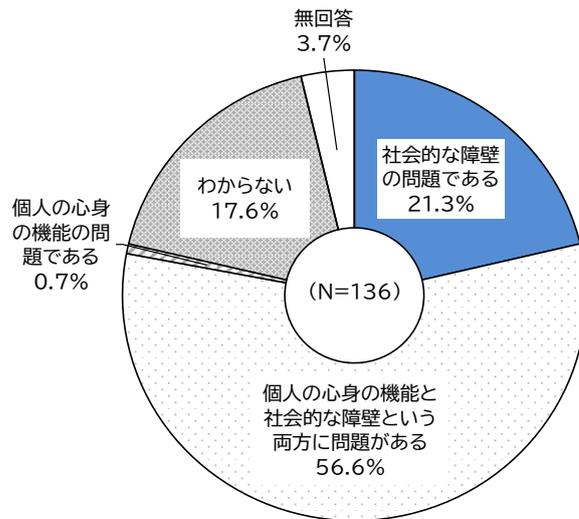
5. 社会モデルについて

問17 障害者（児）の生活状況についての考え

障害者（児）は、生活する上で、様々な困難を伴う場合があります。
あなたは、つぎのうちどの考えが最も近いですか。（○は1つだけ）

障害者（児）の生活状況についての考えは、「個人の心身の機能と社会的な障壁という両方の問題がある」（56.6%）と考える人が5割以上を占め、「社会的な障壁の問題である」（21.3%）と合わせると、『社会的な障壁の問題がある』と感じている人が約8割を占めています。

図 障害者（児）の生活状況についての考え

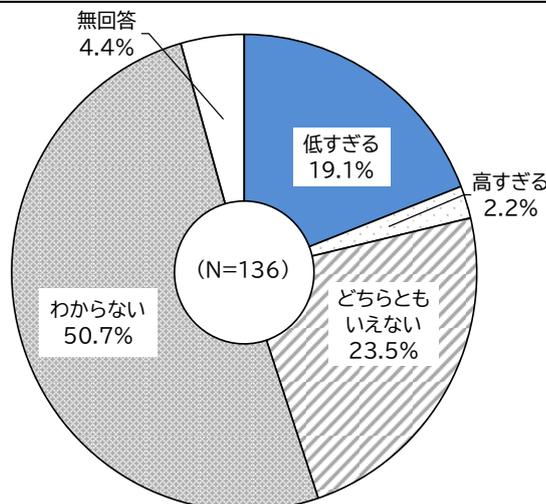


問18 現在の障害者福祉の水準に対する評価

障害者（児）に関する社会的な障壁を取り除こうとするもののひとつに、国、県や市の障害者の施策がありますが、現在の障害者福祉の水準について、どのように感じていますか。（○は1つだけ）

現在の障害者福祉の水準に対する評価は、「わからない」（50.7%）が最も多く、次いで「どちらともいえない」（23.5%）、「低すぎる」（19.1%）、「高すぎる」（2.2%）となっています。

図 現在の障害者福祉の水準に対する評価

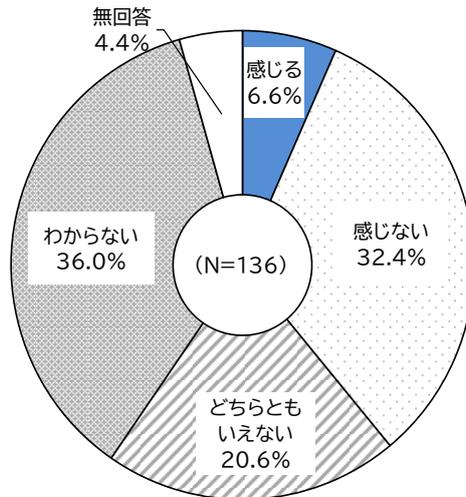


問19 地域や職場環境などでのアクセシビリティ向上の環境整備に対する評価

障害者（児）に関する社会的な障壁を取り除くためには、地域や職場環境などあらゆる社会の中でのバリアフリーの推進やホームページなどでアクセスして誰もが容易に情報を共有できるようにするなど、アクセシビリティ向上の環境整備を図ることが求められています。
あなたが、生活する上で、現在の地域や職場環境などでアクセシビリティ向上の環境整備がされていると感じますか。（○は1つだけ）

地域や職場環境などでのアクセシビリティ向上の環境整備に対する評価は、「わからない」（36.0%）が最も多く、次いで「感じない」（32.4%）、「どちらともいえない」（20.6%）、「感じる」（6.6%）となっています。

図 地域や職場環境などでのアクセシビリティ向上の環境整備に対する評価



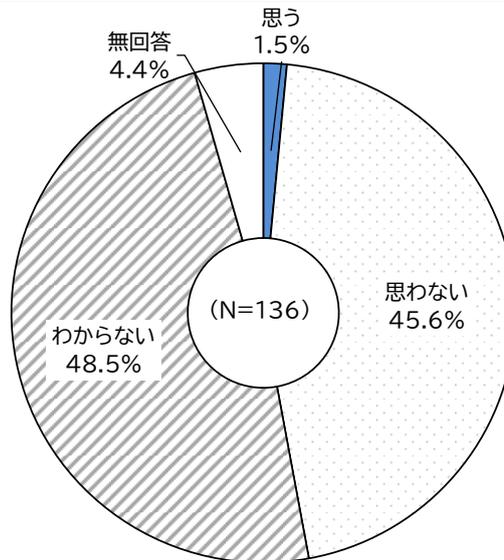
6. 障害がある人の雇用について

問20 障害がある人の職についている状態は十分足りているか

あなたは、障害がある人の職についている状態は十分足りていると思いますか。(○は1つだけ)

障害がある人の職についている状態は十分足りているかは、「わからない」(48.5%)が最も多く、次いで「思わない」(45.6%)、「思う」(1.5%)となっています。

図 障害がある人の職についている状態は十分足りているか

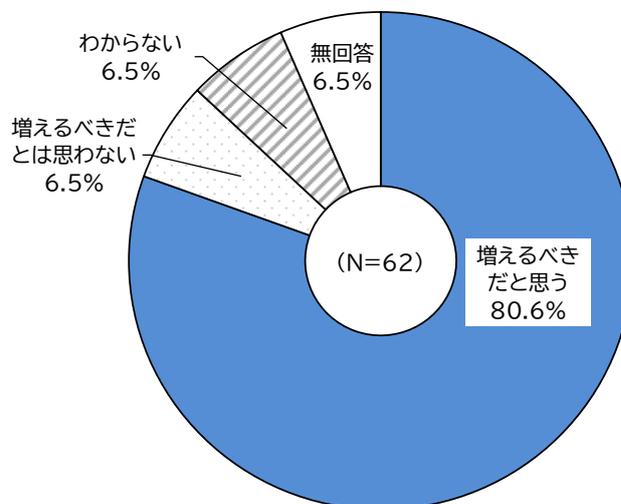


問20-1 障害がある人の就労機会は現状より増えるべきか

あなたは、障害がある人の就労機会は現状より増えるべきだと思いますか。(○は1つだけ)

障害がある人の就労機会は現状より増えるべきかは、「増えるべきだと思う」(80.6%)が8割以上を占めています。

図 障害がある人の就労機会は現状より増えるべきか

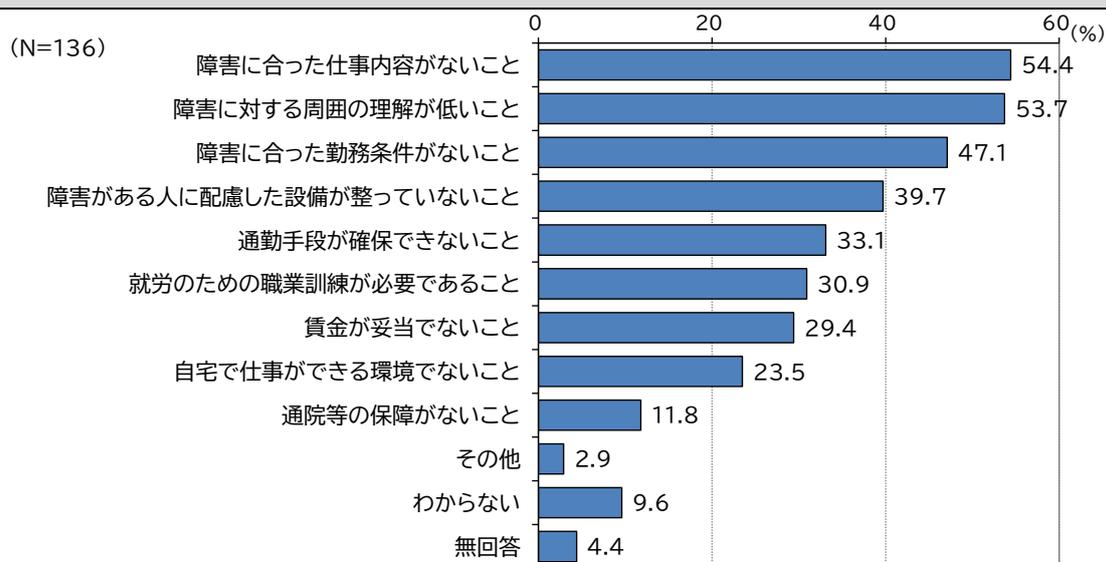


問21 障害がある人の就労時の課題

あなたは、障害がある人が就労する時にどのようなことが課題になっていると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

障害がある人の就労時の課題は、「障害に合った仕事内容がないこと」(54.4%)が最も多く、次いで「障害に対する周囲の理解が低いこと」(53.7%)、「障害に合った勤務条件がないこと」(47.1%)、「障害がある人に配慮した設備が整っていないこと」(39.7%)、「通勤手段が確保できないこと」(33.1%)となっています。

図 障害がある人の就労時の課題



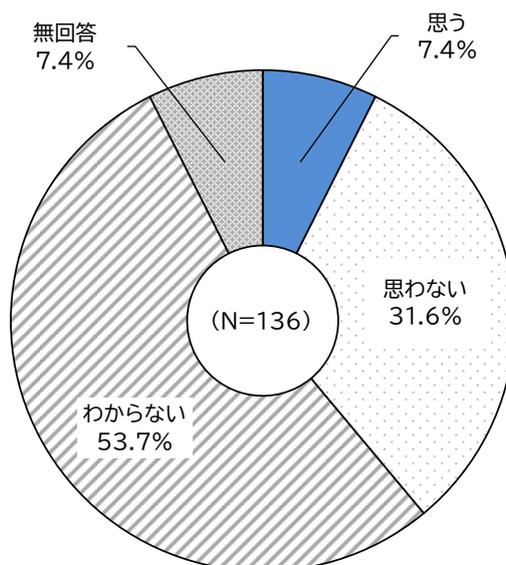
7. 障害がある子どもについて

問22 障害がある子どもの就学の機会は十分か

あなたは、障害がある子どもの就学の機会は十分だと思いますか。(○は1つだけ)

障害がある子どもの就学の機会は十分かは、「わからない」(53.7%)が最も多く、次いで「思わない」(31.6%)、「思う」(7.4%)となっています。

図 障害がある子どもの就学の機会は十分か

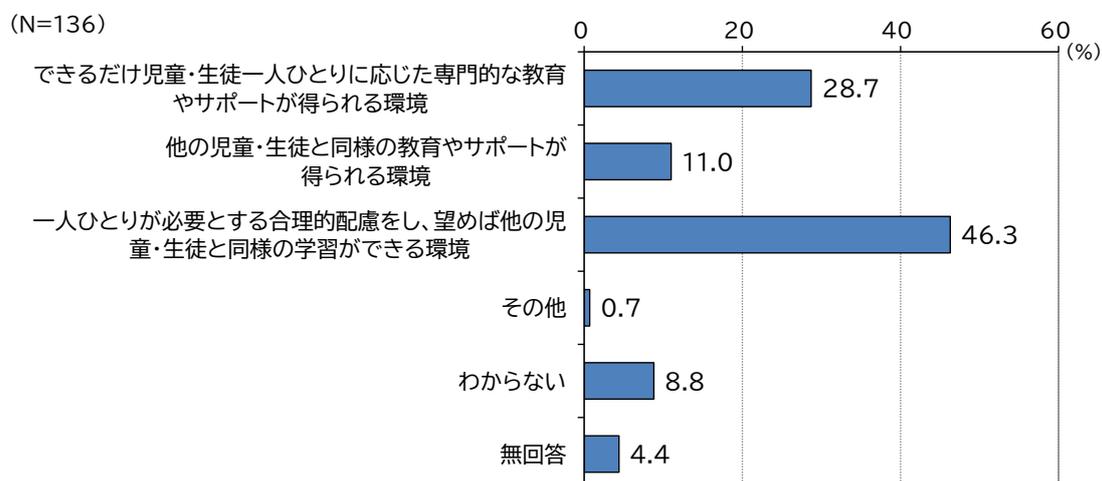


問23 障害がある子どもが教育を受ける時に望ましい環境

あなたは、障害がある子どもが教育を受ける時、望ましい環境とはどのようなものだと思いますか。(○は1つだけ)

障害がある子どもが教育を受ける時に望ましい環境は、「一人ひとりが必要とする合理的配慮をし、望めば他の児童・生徒と同様の学習ができる環境」(46.3%)が最も多く、次いで「できるだけ児童・生徒一人ひとりに応じた専門的な教育やサポートが得られる環境」(28.7%)、「他の児童・生徒と同様の教育やサポートが得られる環境」(11.0%)となっています。

図 障害がある子どもが教育を受ける時に望ましい環境

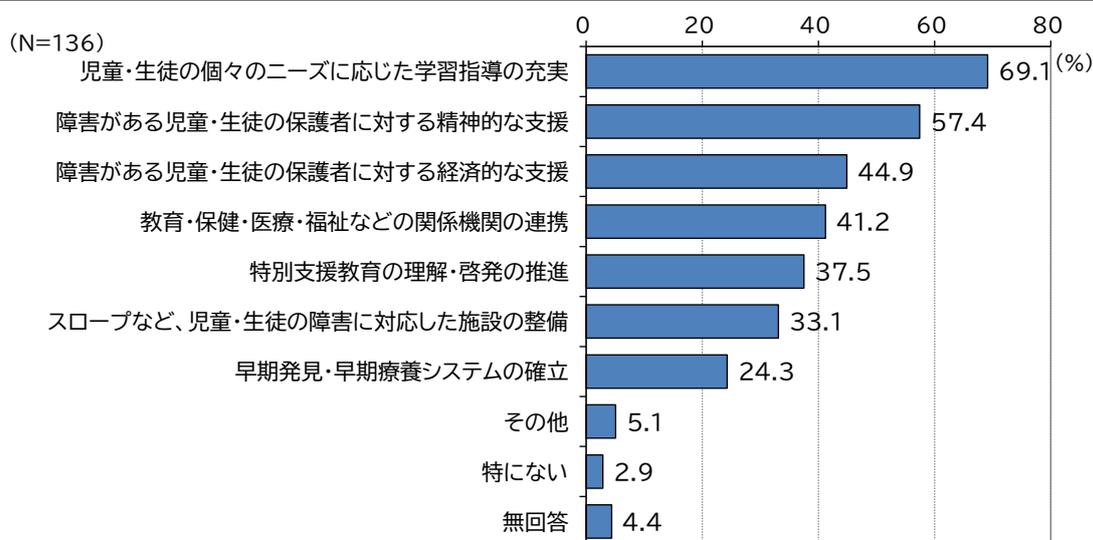


問24 障害がある子どもの教育に必要なこと

あなたが、障害がある子どもの教育に必要なと思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

障害がある子どもの教育に必要なことは、「児童・生徒の個々のニーズに応じた学習指導の充実」(69.1%)が最も多く、次いで「障害がある児童・生徒の保護者に対する精神的な支援」(57.4%)、「障害がある児童・生徒の保護者に対する経済的な支援」(44.9%)、「教育・保健・医療・福祉などの関係機関の連携」(41.2%)となっています。

図 障害がある子どもの教育に必要なこと



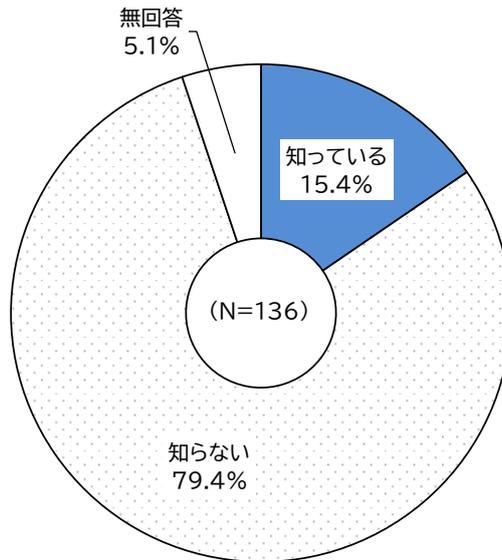
8. 権利擁護について

問25 障害者差別解消法の認知度

あなたは、障害者差別解消法を知っていますか。(〇は1つだけ)

障害者差別解消法の認知度は、「知らない」(79.4%)が約8割と認知度は低くなっています。

図 障害者差別解消法の認知度

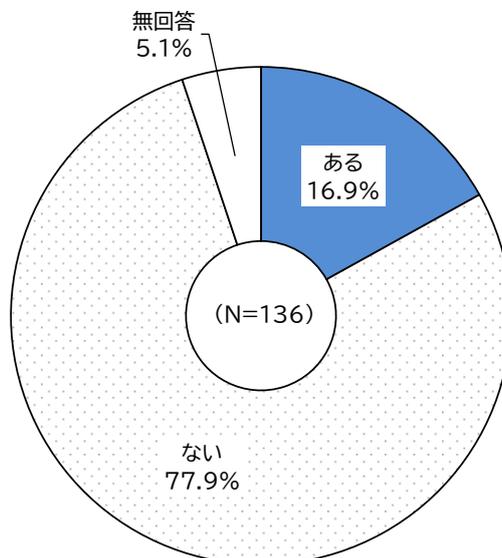


問26 障害者が差別を受けているのを見聞きした経験

この法律では、障害を理由として、正当な理由なくサービスを拒否したり、制限したり、条件を付けたりするような「不当な差別的取扱い」を禁止していますが、これまでに障害者が差別を受けているのを見たり聞いたりしたことはありますか。(〇は1つだけ)

障害者が差別を受けているのを見聞きした経験は、「ない」(77.9%)が約8割となっています。

図 障害者が差別を受けているのを見聞きした経験

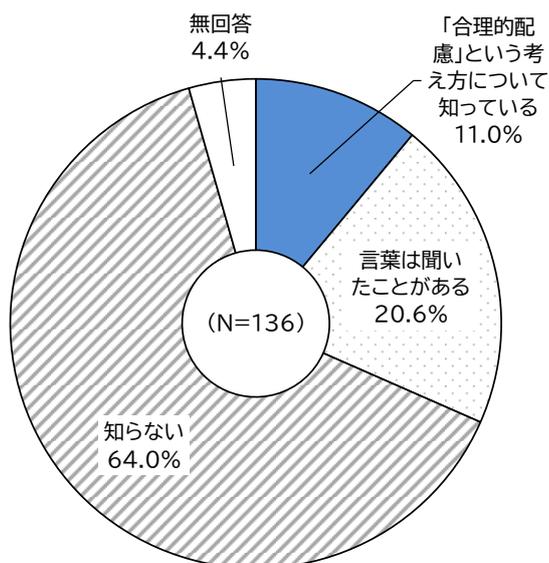


問27 合理的配慮の認知度

あなたは、合理的配慮（障害者から何らかの配慮を求める意思表示があった場合に、負担になりすぎない範囲で、社会的な障壁を取り除くために必要な配慮）について知っていますか。（○は1つだけ）

合理的配慮の認知度は、「知らない」（64.0%）が6割を超えて認知度は低くなっており、次いで「言葉は聞いたことがある」（20.6%）、「合理的配慮」という考え方について知っている」（11.0%）となっています。

図 合理的配慮の認知度

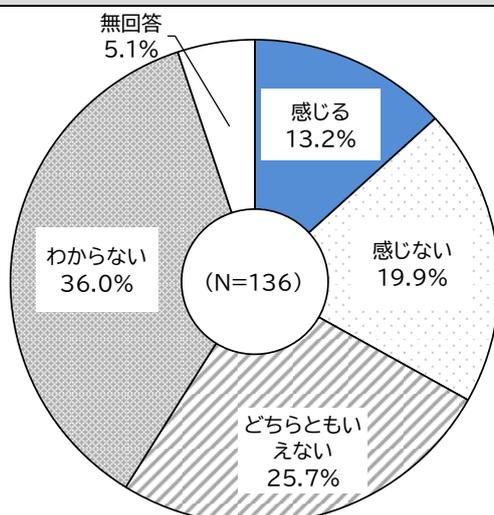


問28 国・地方公共団体などでの合理的配慮に対する評価

国・地方公共団体の行政機関などは下記のような合理的配慮を求められております。あなたは、国・地方公共団体の行政機関などで合理的配慮がされてきていると感じますか。（○は1つだけ）

国・地方公共団体などでの合理的配慮に対する評価は、「わからない」（36.0%）が最も多く、次いで「どちらともいえない」（25.7%）、「感じない」（19.9%）、「感じる」（13.2%）となっています。

図 国・地方公共団体などでの合理的配慮に対する評価

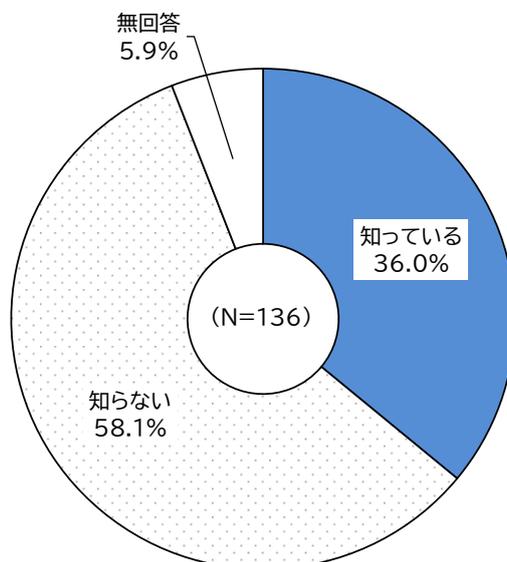


問29 障害者虐待防止法の認知度

あなたは、障害者虐待防止法を知っていますか。(○は1つだけ)

障害者虐待防止法の認知度は、「知っている」(36.0%)、「知らない」(58.1%)となっており、約6割の人が知らないという結果となっています。

図 障害者虐待防止法の認知度

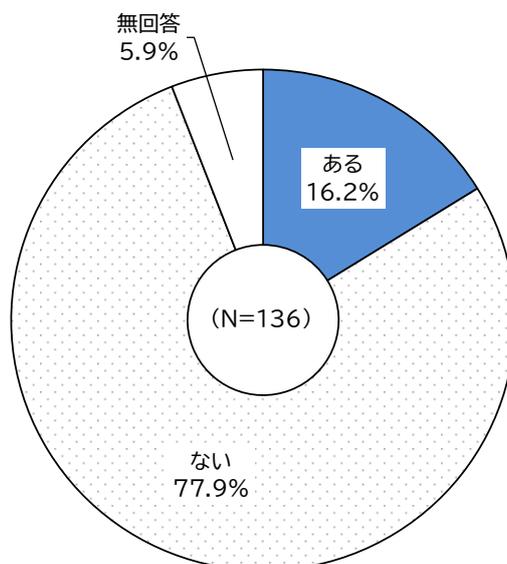


問30 障害者への虐待を見聞きした経験

障害者への虐待を見たり聞いたりしたことがありますか。(○は1つだけ)

障害者への虐待を見聞きした経験は、「ある」(16.2%)、「ない」(77.9%)となっています。

図 障害者への虐待を見聞きした経験

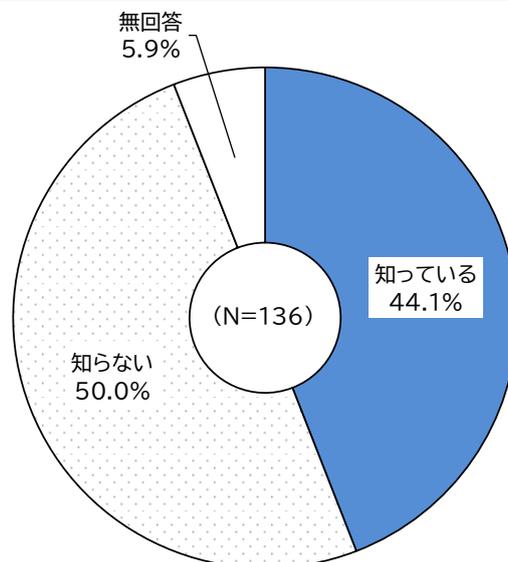


問3 1 障害者への虐待の通報義務の認知度

障害者への虐待を発見したとき、通報する義務があるのを知っていますか。(○は1つだけ)

障害者への虐待の通報義務の認知度は、「知っている」(44.1%)、「知らない」(50.0%)となっており、4割程度の人が知っているという結果となっています。

図 障害者への虐待の通報義務の認知度

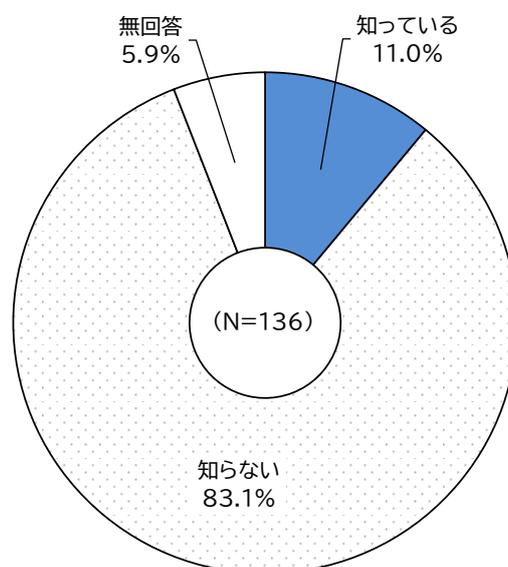


問3 2 虐待の通報先の認知度

障害者への虐待を発見したとき、通報先「徳島市障害者虐待防止センター」があるのを知っていますか。(○は1つだけ)

虐待の通報先の認知度は、「知っている」(11.0%)、「知らない」(83.1%)となっており、8割以上の方が知らないという結果となっています。

図 虐待の通報先の認知度

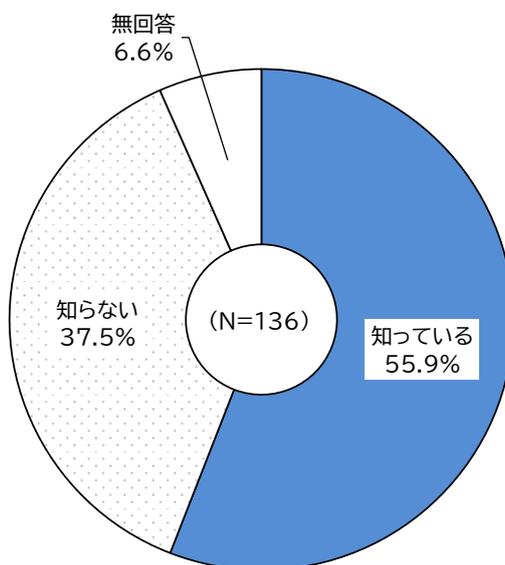


問33 成年後見制度の認知度

あなたは、成年後見制度を知っていますか。(〇は1つだけ)

成年後見制度の認知度は、「知っている」(55.9%)、「知らない」(37.5%)となっており、5割以上の人を知っているという結果となっています。

図 成年後見制度の認知度

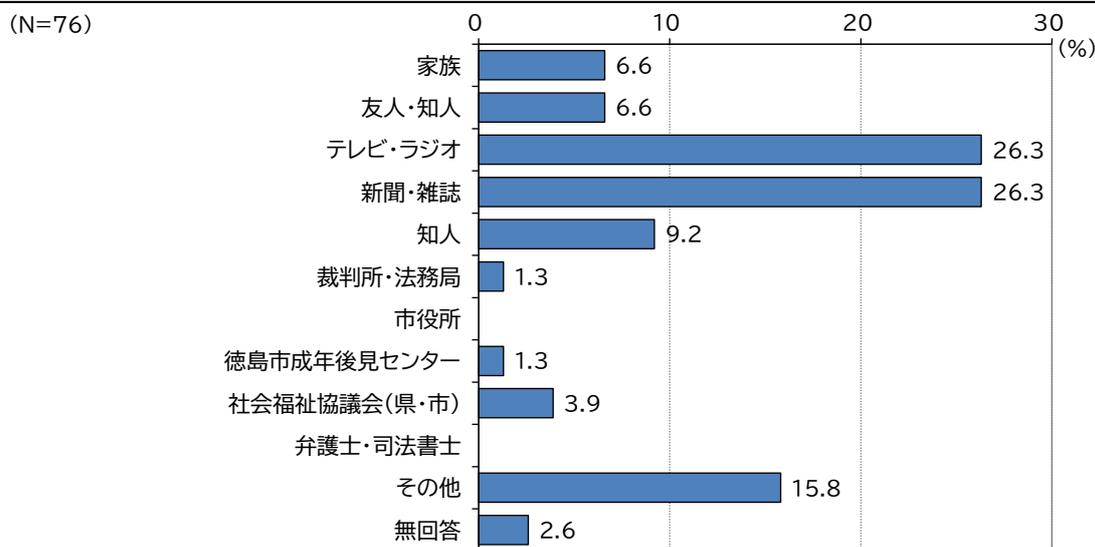


問33-1 成年後見制度をどこで知ったか

問32で「1 知っている」を選択した方のみお答えください。
成年後見制度をどこで知りましたか。(〇は1つだけ)

成年後見制度をどこで知ったかは、「テレビ・ラジオ」「新聞・雑誌」(同率で26.3%)が最も多く、メディアを通して知った人が5割以上となっています。

図 成年後見制度をどこで知ったか



第5章 『障害児を対象とした調査』の結果

1. お子さんについて

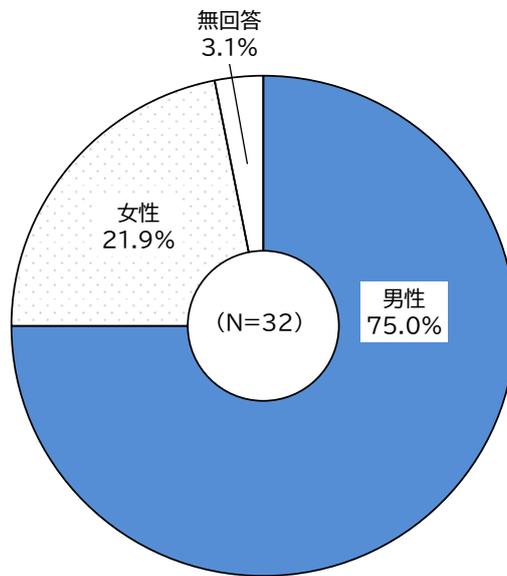
問1 性別

お子さんの性別を教えてください。（○は1つだけ）

お子さんの性別は、「男性」（75.0%）、「女性」（21.9%）となっています。

障害種別にみると、身体障害・精神障害では「男性」が100.0%となっています。

図表 性別



	調査数	(1)	(2)	無回答
		男性	女性	
【表の見方】 比率(%) 網掛け=				
		1位	2位	
全体	32	75.0	21.9	3.1
障害種別				
身体障害	4	100.0	-	-
知的障害	8	62.5	37.5	-
精神障害	1	100.0	-	-

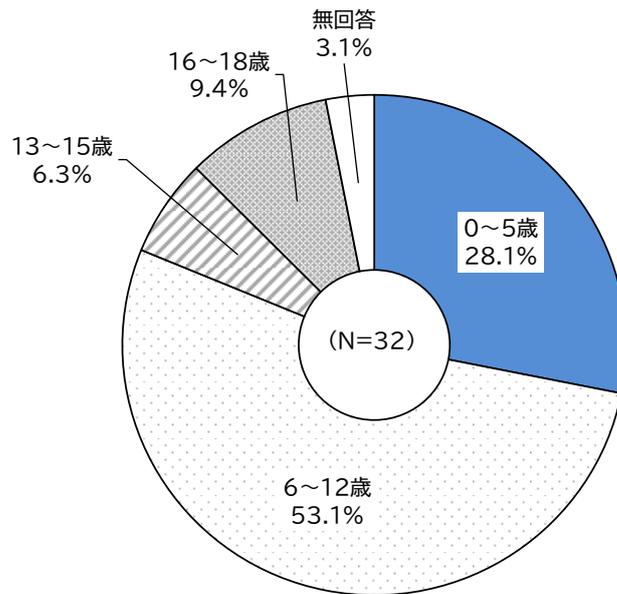
問2 年齢

お子さんの年齢を教えてください。(平成29年4月1日)

お子さんの年齢は、「6～12歳」(53.1%)が最も多く、次いで「0～5歳」(28.1%)、「13～15歳」(6.3%)、「16～18歳」(9.4%)となっています。

障害種別にみると、身体障害・知的障害ともに「6～12歳」、「16～18歳」が同率で最も多く、精神障害では「13～15歳」が100.0%となっています。

図表 年齢



		(1)	(2)	(3)	(4)	無回答	
		0 ～ 5 歳	6 ～ 1 2 歳	1 3 ～ 1 5 歳	1 6 ～ 1 8 歳		
【表の見方】 比率(%) 網掛け=							
		1位					
		2位					
全体		32	28.1	53.1	6.3	9.4	3.1
障害種別	身体障害	4	-	50.0	-	50.0	-
	知的障害	8	12.5	37.5	12.5	37.5	-
	精神障害	1	-	100.0	-	-	-

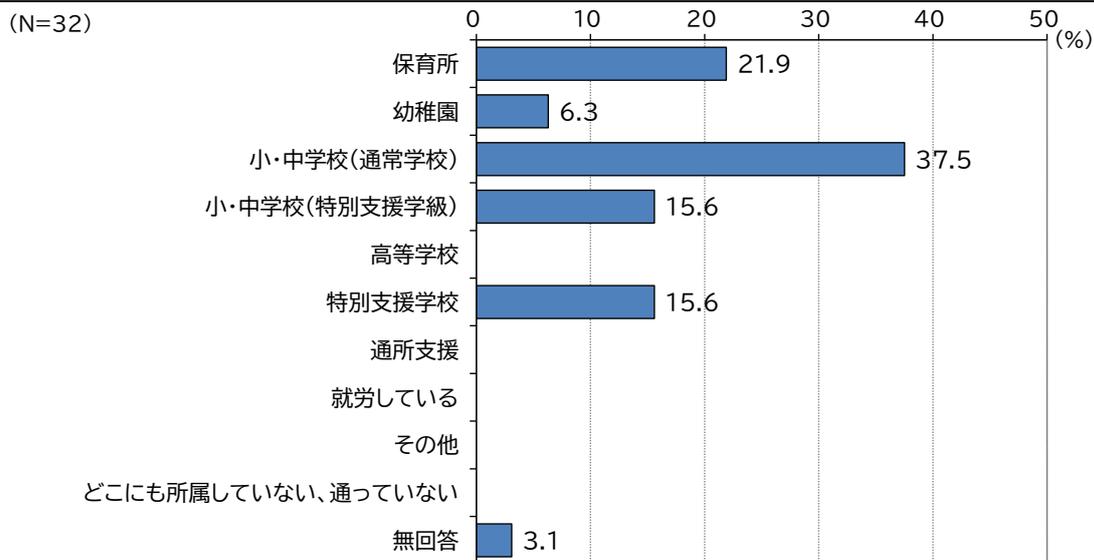
問3 所属先・通所先

お子さんが現在所属している所、通っている所を教えてください。(〇は1つだけ)

お子さんの所属先・通所先は、「小・中学校(通常学校)」(37.5%)が最も多く、次いで「保育所」(21.9%)、「小・中学校(特別支援学級)」、「特別支援学校」(同率で15.6%)となっています。

障害種別に見ると、身体障害では「小・中学校(特別支援学級)」「特別支援学校」(同率で50.0%)が最も多く、知的障害では「特別支援学校」(62.5%)、精神障害では「小・中学校(特別支援学級)」(100.0%)がそれぞれ最も多くなっています。

図表 所属先・通所先



【表の見方】 比率(%) 網掛け=	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	無回答
		保育所	幼稚園	小・中学校(通常学校)	小・中学校(特別支援学級)	高等学校	特別支援学校	通所支援	就労している	その他	どこにも所属していない、通っていない	
全体	32	21.9	6.3	37.5	15.6	-	15.6	-	-	-	-	3.1
障害種別												
身体障害	4	-	-	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-
知的障害	8	12.5	-	-	25.0	-	62.5	-	-	-	-	-
精神障害	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-

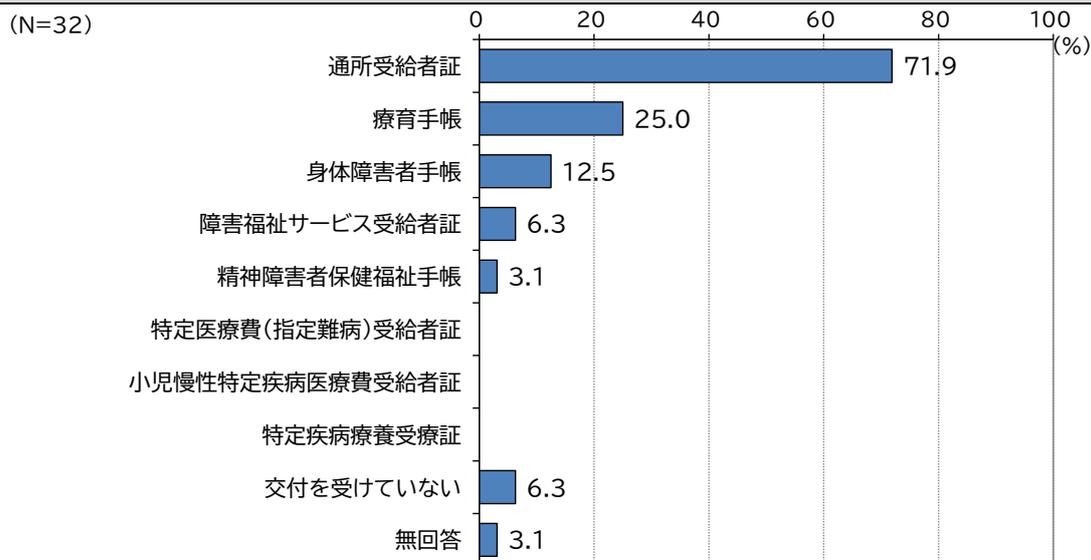
問4 交付を受けている手帳・受給者証の種類

お子さんが交付を受けている手帳や受給者証の種類を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

交付を受けている手帳・受給者証の種類は、「通所受給者証」(71.9%)が最も多く、次いで「療育手帳」(25.0%)、「身体障害者手帳」(12.5%)となっています。

障害種別にみると、身体障害では「身体障害者手帳」、知的障害では「療育手帳」、精神障害では「精神障害者保健福祉手帳」の交付を受けている人が100%となっています。

図表 交付を受けている手帳・受給者証の種類



		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	無回答
		通所受給者証	療育手帳	身体障害者手帳	障害福祉サービス受給者証	精神障害者保健福祉手帳	特定医療費(指定難病)受給者証	小児慢性特定疾病医療費受給者証	特定疾病療養受療証	交付を受けていない	
【表の見方】 比率(%) 網掛け=	1位										
	2位										
全体	32	71.9	25.0	12.5	6.3	3.1	-	-	-	6.3	3.1
障害種別	身体障害	50.0	50.0	100.0	25.0	-	-	-	-	-	-
	知的障害	50.0	100.0	25.0	25.0	-	-	-	-	-	-
	精神障害	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-

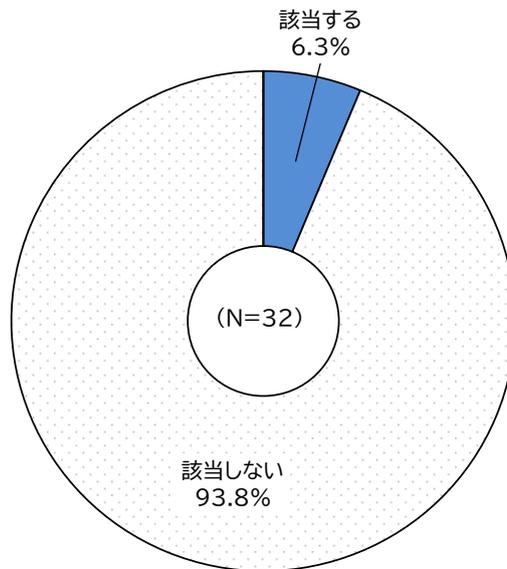
問5 重症心身障害の有無

お子さんは重症心身障害に該当しますか。(○は1つだけ)

お子さんは重症心身障害に該当するかについては、「該当しない」(93.8%)が9割以上を占めており、「該当する」(6.3%)は1割未満となっています。

障害種別にみると、すべての障害で「該当しない」が7割以上となっています。

図表 重症心身障害の有無



	調査数	(1)	(2)	無回答
		該当する	該当しない	
【表の見方】 比率(%) 網掛け=				
		1位		
		2位		
全体	32	6.3	93.8	-
障害種別				
身体障害	4	25.0	75.0	-
知的障害	8	12.5	87.5	-
精神障害	1	-	100.0	-

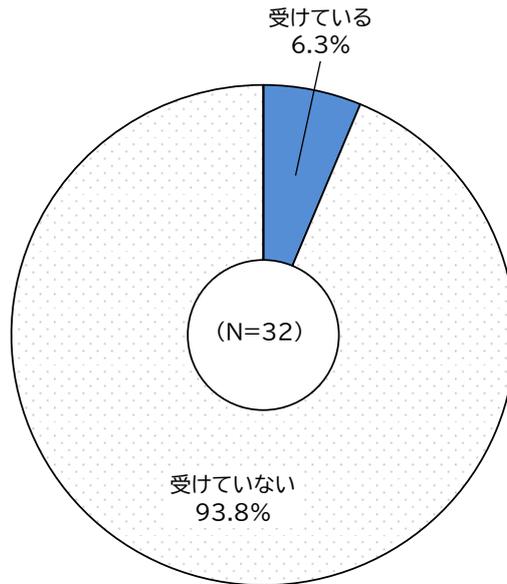
問6 現在医療的ケアを受けているか

お子さんは現在医療的ケアを受けていますか。(○は1つだけ)

お子さんは現在医療的ケアを受けているかは、「受けていない」(93.8%)が9割以上を占めており、「受けている」(6.3%)は1割未満となっています。

障害種別にみると、すべての障害で「受けていない」が8割以上となっています。

図表 現在医療的ケアを受けているか



【表の見方】 比率(%) 網掛け=	調査数	(1)	(2)	無回答
		受けている	受けていない	
1位				
2位				
全体	32	6.3	93.8	-
障害種別				
身体障害	4	-	100.0	-
知的障害	8	12.5	87.5	-
精神障害	1	-	100.0	-

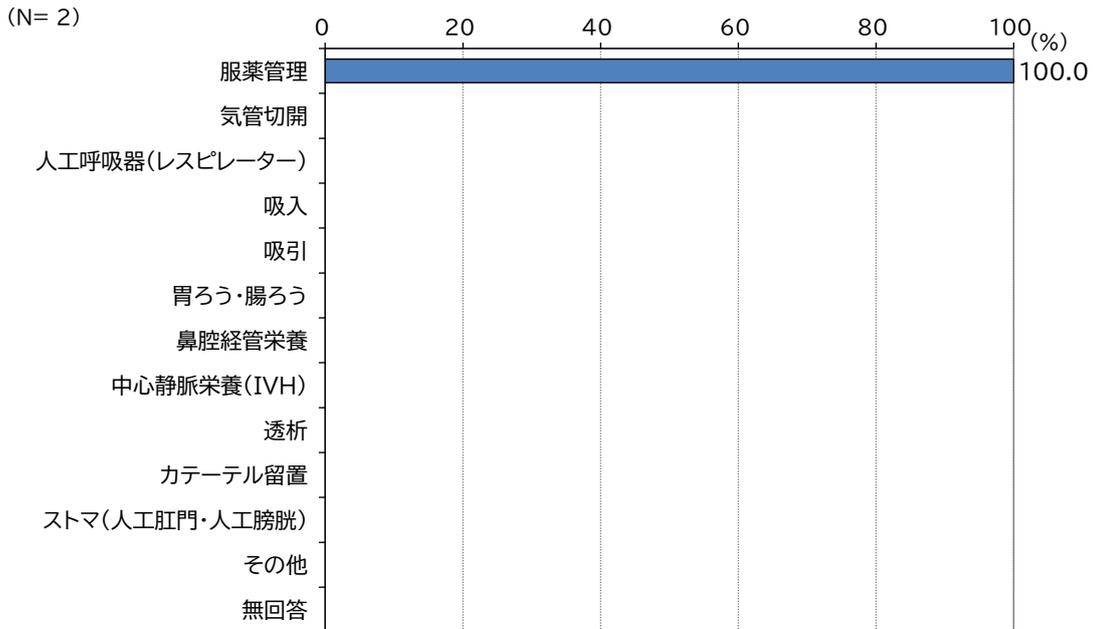
問7 現在受けている医療的ケアの種類

問6で「1 受けている」を選択した方がお答えください。

お子さんが現在受けている医療的ケアをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

お子さんが現在受けている医療的ケアの種類は、「服薬管理」(100.0%)となっています。
障害種別にみると、知的障害では「服薬管理」が100.0%となっています。

図表 現在受けている医療的ケアの種類



【表の見方】 比率(%) 網掛け=	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	無回答
		服薬管理	気管切開	人工呼吸器(レスピレーター)	吸入	吸引	胃ろう・腸ろう	鼻腔経管栄養	中心静脈栄養(IVH)	透析	カテーテル留置	ストマ(人工肛門・人工膀胱)	その他	
1位 2位	2	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全体	2	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
障害種別														
身体障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
知的障害	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
精神障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

2. 気づきについて

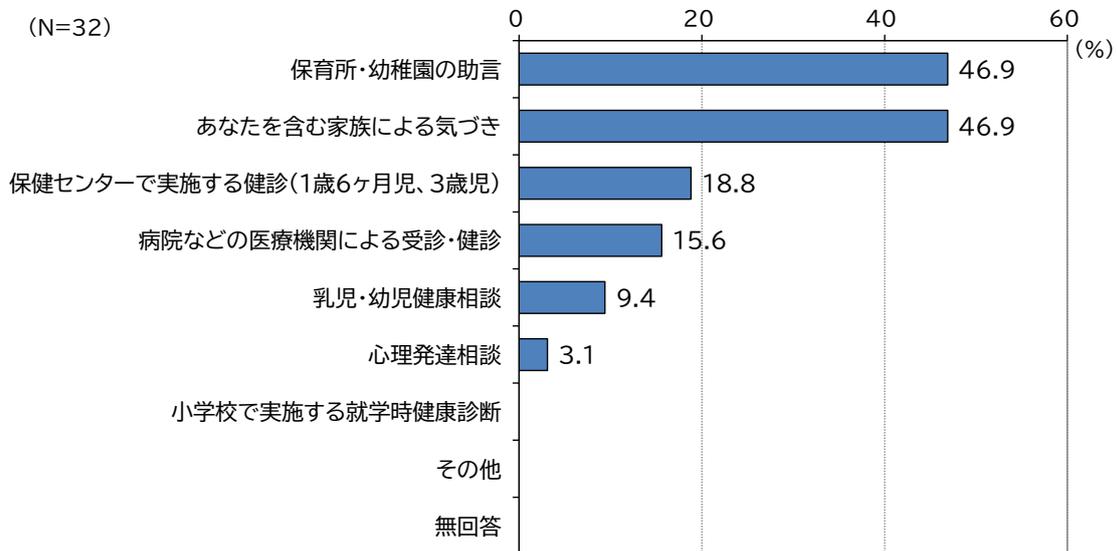
問8 障害や発達課題に気づいたきっかけ

お子さんの障害や発達課題などに気づいたきっかけは何ですか。(〇は2つまで)

お子さんの障害や発達課題に気づいたきっかけは、「保育所・幼稚園の助言」、「あなたを含む家族による気づき」(同率で 46.9%) が最も多く、次いで「保健センターで実施する健診(1歳6ヶ月児、3歳児)」(18.8%) となっており、最も身近にいる家族の気づきが多いことが分かります。

障害種別にみると、すべての障害で「あなたを含む家族による気づき」が5割以上と最も多く、身体障害では「乳児・幼児健康相談」も同率となっています。

図表 障害や発達課題に気づいたきっかけ



【表の見方】 比率(%) 網掛け=	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	無回答
		保育所・幼稚園の助言	あなたを含む家族による気づき	6歳保健センター、3歳児で実施する健診(1)	病院などの医療機関による受診・健診	乳児・幼児健康相談	小学校で実施する就学時健康診断	心理発達相談	その他	
全体	32	46.9	46.9	18.8	15.6	9.4	-	3.1	-	-
障害種別										
身体障害	4	25.0	50.0	25.0	25.0	50.0	-	-	-	-
知的障害	8	12.5	62.5	25.0	37.5	25.0	-	-	-	-
精神障害	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-

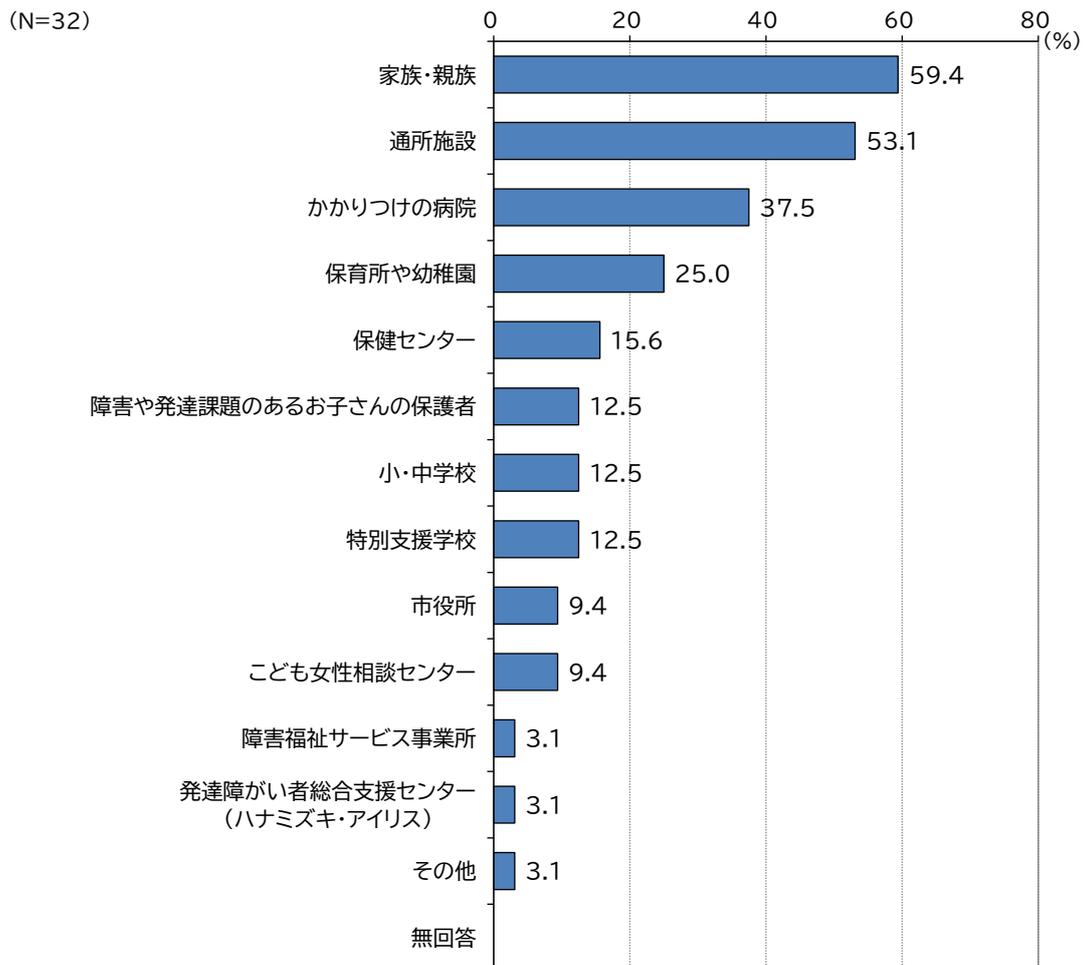
3. 相談について

問9 障害や発達課題などに困った時に相談した相手・機関

あなたやお子さんが、障害や発達課題などに困ったとき、誰に（どこに）相談しましたか。
(あてはまるものすべてに○)

障害や発達課題などに困った時に相談した相手・機関は、「家族・親族」(59.4%)が最も多く、次いで「通所支援」(53.1%)、「かかりつけの病院」(37.5%)、「保育所や幼稚園」(25.0%)となっています。

図 障害者発達課題などに困った時に相談した相手・機関



障害種別にみると、すべての障害で「家族・親族」が5割以上と最も多く、知的障害では「かかりつけの病院」、精神障害では「障害福祉サービス事業所」も同率となっています。

表 障害者発達課題などに困った時に相談した相手・機関

			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
		調査数	家族・親族	通所施設	かかりつけの病院	保育所や幼稚園	保健センター	障害者や発達課題のあるお子さんの保護者	小・中学校
【表の見方】 比率(%) 網掛け=									
			1位						
			2位						
全体		32	59.4	53.1	37.5	25.0	15.6	12.5	12.5
障害種別	身体障害	4	75.0	25.0	50.0	-	-	-	-
	知的障害	8	50.0	25.0	50.0	25.0	25.0	25.0	25.0
	精神障害	1	100.0	-	-	-	-	-	-

		(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	
		特別支援学校	市役所	こども女性相談センター	障害福祉サービス事業所	発達障がい者総合支援センター (ハナミズキ・アイリス)	その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=								
全体		12.5	9.4	9.4	3.1	3.1	3.1	-
障害種別	身体障害	50.0	-	-	-	-	-	-
	知的障害	37.5	25.0	12.5	-	12.5	-	-
	精神障害	-	-	-	100.0	-	-	-

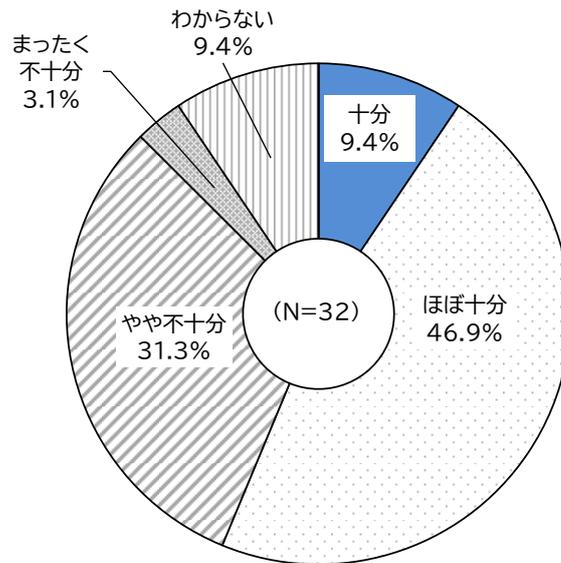
問10 困った時の相談体制は十分か

困った時の相談体制について、現在の状態はあなたにとって十分ですか。(〇は1つだけ)

困った時の相談体制は十分かは、「十分」と「ほぼ十分」を合わせた『十分』という人が5割以上を占める結果となっています。

障害種別にみると、身体障害・知的障害では「ほぼ十分」(50.0%)が最も多く、精神障害では「やや不十分」が100.0%となっています。

図表 困った時の相談体制は十分か



			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	
		調査数	十分	ほぼ十分	やや不十分	まったく不十分	わからない	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=								
				1位				
				2位				
全体		32	9.4	46.9	31.3	3.1	9.4	-
障害種別	身体障害	4	25.0	50.0	-	25.0	-	-
	知的障害	8	-	50.0	37.5	12.5	-	-
	精神障害	1	-	-	100.0	-	-	-

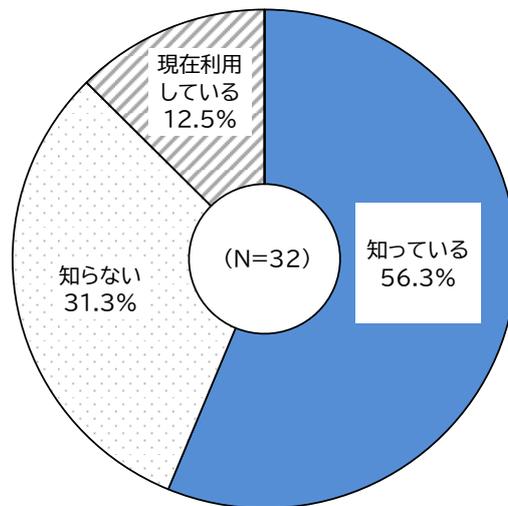
問11 相談事業所の認知度

身体障害者、知的障害者、精神障害者などによる障害者に対する日常生活・社会生活を支援するための相談事業所を知っていますか。(○は1つだけ)

相談事業所の認知度は、「知っている」(56.3%)が最も多く、次いで「知らない」(31.3%)、「現在利用している」(12.5%)となっています。

障害種別にみると、身体障害では「知らない」(50.0%)が最も多く、知的障害・精神障害では「知っている」が最も多くなっています。

図表 相談事業所の認知度



		(1)	(2)	(3)	(4)	
		知っている	知らない	現在利用している	利用したことがある	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=						
		1位				
		2位				
全体		32	56.3	31.3	12.5	-
障害種別	身体障害	4	25.0	50.0	25.0	-
	知的障害	8	50.0	25.0	25.0	-
	精神障害	1	100.0	-	-	-

4. 幼児期・学齢期について

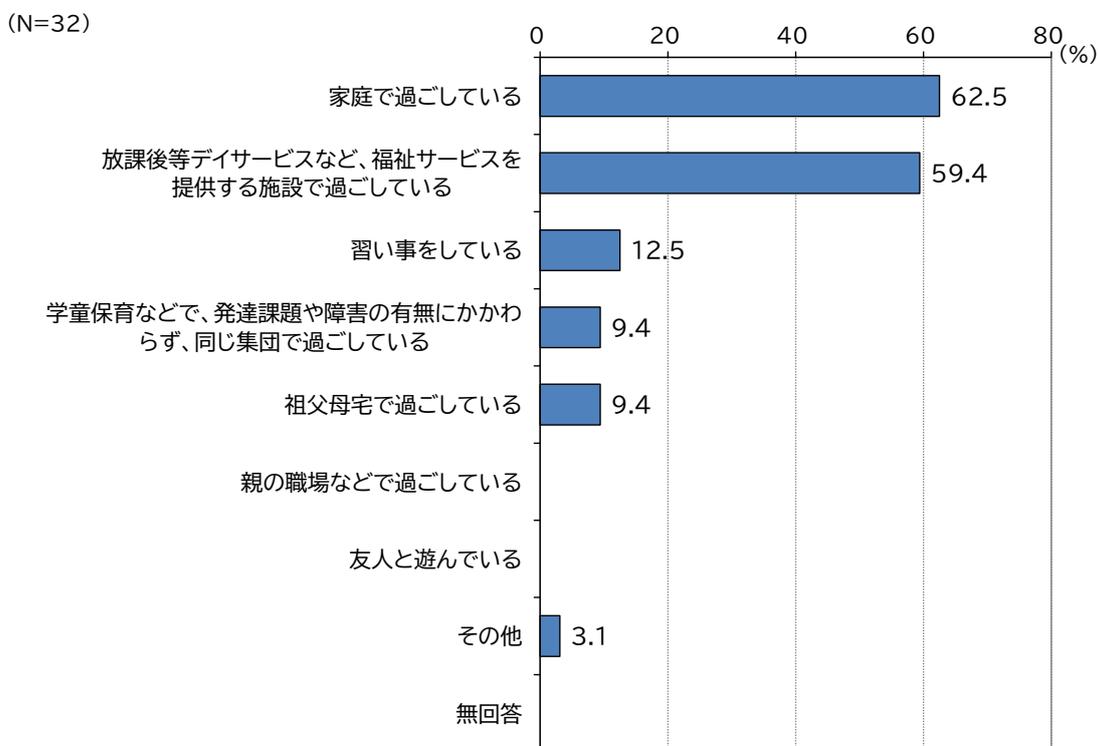
問12 下校後や長期休暇などの過ごし方

お子さんは、下校後や長期休暇などはどのように過ごされていますか。(〇は2つまで)

下校後や長期休暇などの過ごし方は、「家庭で過ごしている」(62.5%)と「放課後等デイサービスなど、福祉サービスを提供する施設で過ごしている」(59.4%)が約6割を占めており、その他の項目と比べて突出した結果となっています。

障害種別にみると、身体障害・知的障害では「家庭で過ごしている」が最も多く、精神障害では「放課後等デイサービスなど、福祉サービスを提供する施設で過ごしている」が100.0%となっています。

図表 下校後や長期休暇などの過ごし方



		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)		
		調査数	家庭で過ごしている	放課後等デイサービスを提供する施設で過ごしている	習い事をしている	学童保育などで、発達課題や障害の有無にかかわらず、同じ集団で過ごしている	祖父母宅で過ごしている	親の職場などで過ごしている	友人と遊んでいる	その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=											
		1位									
		2位									
全体		32	62.5	59.4	12.5	9.4	9.4	-	-	3.1	-
障害種別	身体障害	4	75.0	50.0	-	-	-	-	-	25.0	-
	知的障害	8	87.5	62.5	-	-	12.5	-	-	12.5	-
	精神障害	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-

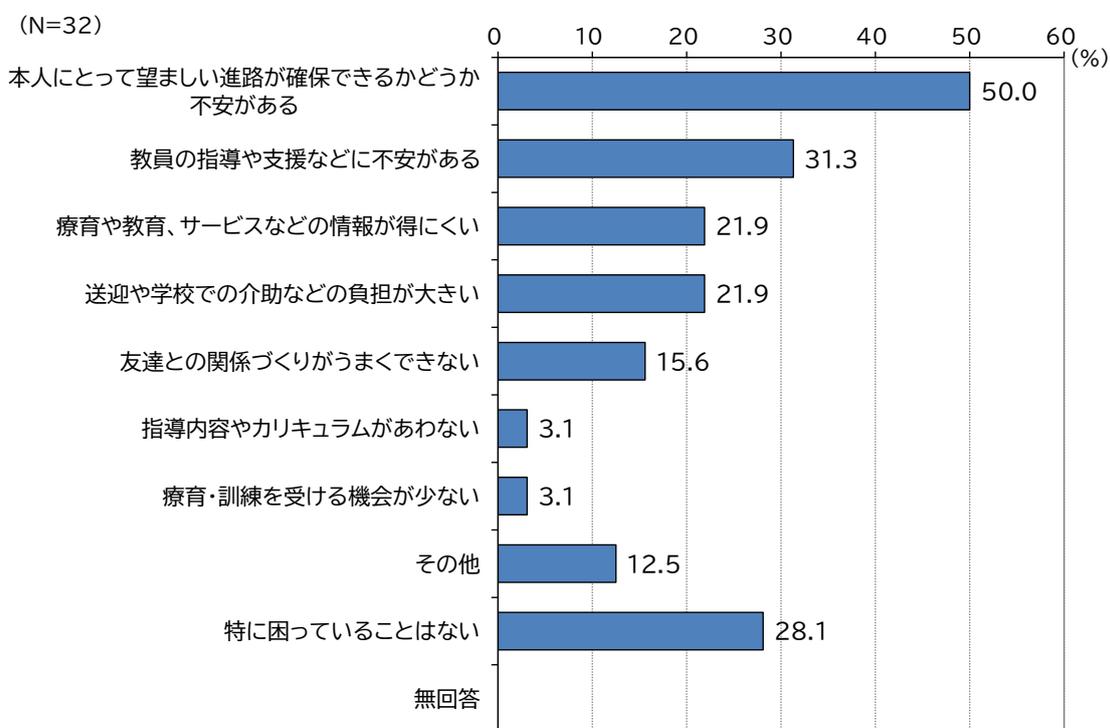
問13 療育や保育、学校教育について困っていること

療育や保育、学校教育について困っている（または以前に困った）ことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

療育や保育、学校教育について困っていることは、「本人にとって望ましい進路が確保できるかどうか不安がある」（50.0%）が最も多く、次いで「教員の指導や支援などに不安がある」（31.3%）、「療育や教育、サービスなどの情報が得にくい」、「送迎や学校での介助などの負担が大きい」（同率で21.9%）となっています。

障害種別にみると、身体障害・知的障害では「本人にとって望ましい進路が確保できるかどうか不安がある」（同率で75.0%）が最も多く、精神障害では「教員の指導や支援などに不安がある」、「療育や教育、サービスなどの情報が得にくい」（同率で100.0%）が最も多くなっています。

図表 療育や保育、学校教育について困っていること



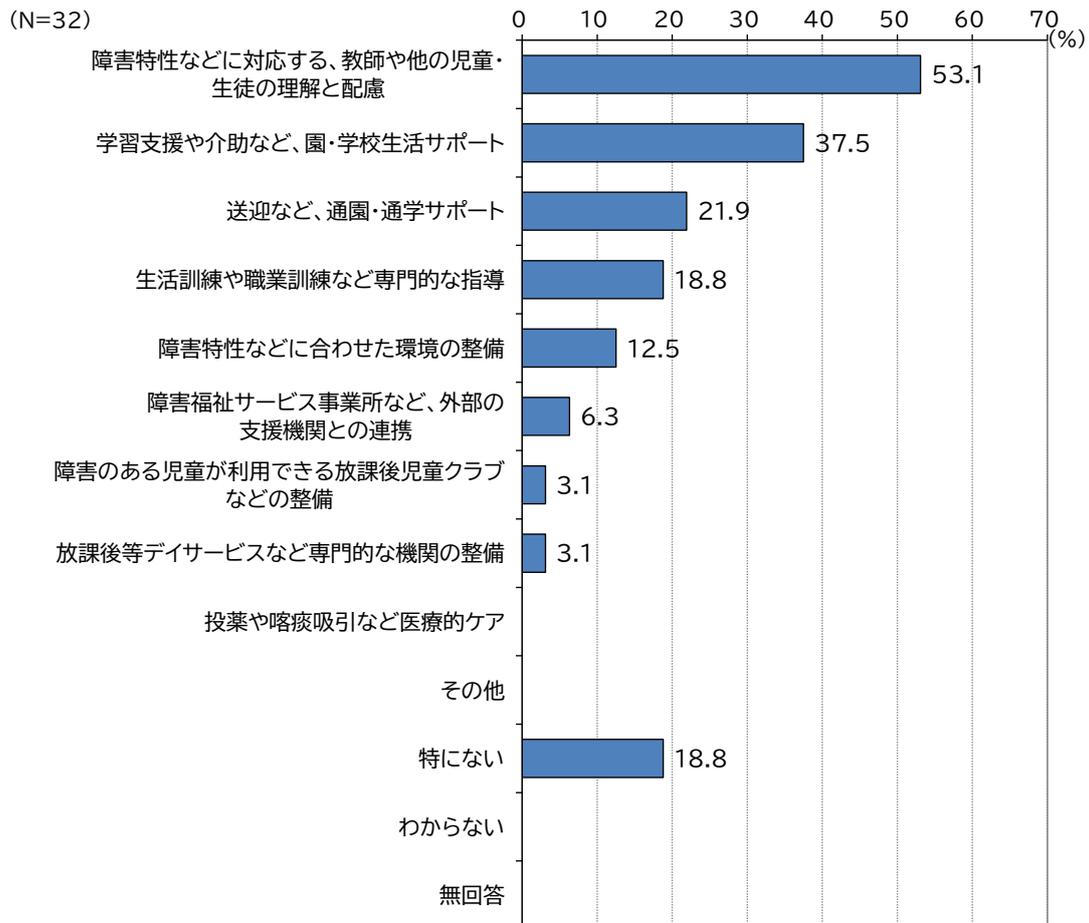
【表の見方】 比率(%) 網掛け=	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	無回答
		で本人にと どつてか 望ましい 進路が 確保	る教員 の指導 や支援 などに 不安が あ	が療育 や教育 、サー ビスな どの情 報	大送 迎や 学校 での 介助 など の負 担が	な友 達の 関係 づく りが うま くで き	い指 導内 容や カリ キュ ラム があ わな	療育 ・訓 練を 受け る機 会が 少な い	そ の 他	特 に 困 っ て い る こ と は な い	
全体	32	50.0	31.3	21.9	21.9	15.6	3.1	3.1	12.5	28.1	-
障害種別											
身体障害	4	75.0	25.0	50.0	25.0	25.0	-	-	25.0	25.0	-
知的障害	8	75.0	37.5	37.5	50.0	50.0	-	-	-	-	-
精神障害	1	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-

問14 保育所や幼稚園、学校に通う上で求めること

保育所や幼稚園、学校に通う上であなたが求めることを教えてください。(〇は2つまで)

保育園や幼稚園、学校に通う上で求めることは、「障害特性などに対応する、教師や他の児童・生徒の理解と配慮」(53.1%)が最も多く、次いで「学習支援や介助など、園・学校生活サポート」(37.5%)、「送迎など、通所・通学サポート」(21.9%)となっています。

図 保育所や幼稚園、学校に通う上で求めること



障害種別にみると、すべての障害で「障害特性などに対応する、教師や他の児童・生徒の理解と配慮」が最も多く、知的障害では「送迎など、通園・通学サポート」、「生活訓練や職業訓練など専門的な指導」（同率で50.0%）、精神障害では「学習支援や介助など、園・学校生活サポート」（同率で100.0%）もそれぞれ多くなっています。

表 保育所や幼稚園、学校に通う上で求めること

			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
		調査数	他障害特性など児童・生徒に対応する、教師や	活学習サポートや介助など、園・学校生	送迎など、通園・通学サポート	指生活訓練や職業訓練など専門的な	備障害特性などに合わせた環境の整	部障害福祉サービス事業所など、外
【表の見方】 比率(%) 網掛け=								
			1位	2位				
全体		32	53.1	37.5	21.9	18.8	12.5	6.3
障害種別	身体障害	4	75.0	50.0	25.0	-	-	-
	知的障害	8	50.0	12.5	50.0	50.0	-	12.5
	精神障害	1	100.0	100.0	-	-	-	-

		(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	
		後障害のある児童のクラブなどの利用できる放課	な放課後等デイサービスなど専門的	投薬や喀痰吸引など医療的ケア	その他	特にな	わからない	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=								
		1位	2位					
全体		3.1	3.1	-	-	18.8	-	-
障害種別	身体障害	-	-	-	-	25.0	-	-
	知的障害	-	-	-	-	12.5	-	-
	精神障害	-	-	-	-	-	-	-

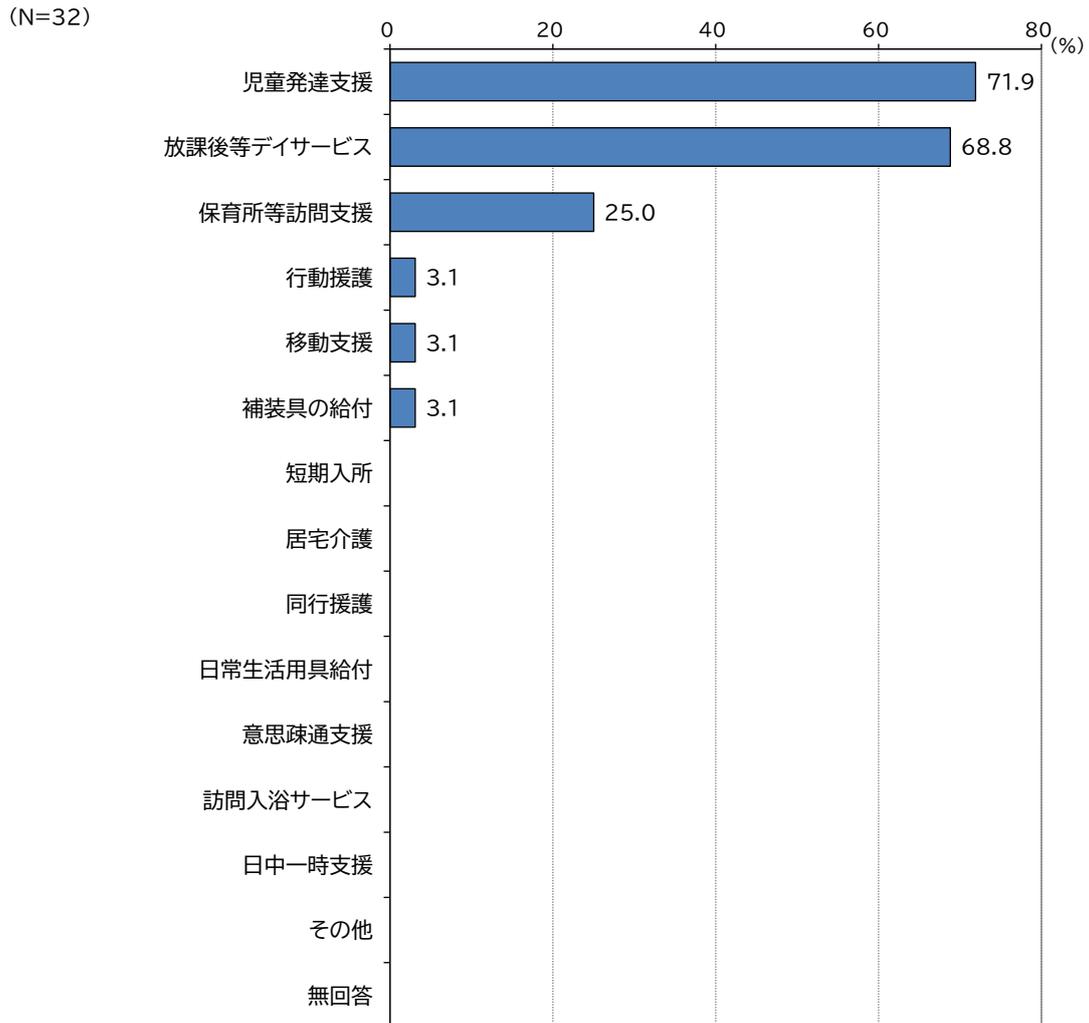
5. 障害福祉サービスについて

問15 利用している（していた）障害福祉サービス

以下の障害福祉サービスを利用していますか（していたことはありますか）。（あてはまるものすべてに○）

利用している（していた）障害福祉サービスは、「児童発達支援」（71.9%）、「放課後等デイサービス」（68.8%）が約7割を占めており、その他の項目と比べて突出した結果となっています。

図 利用している（していた）障害福祉サービス



障害種別にみると、すべての障害で「放課後等デイサービス」が最も多く、精神障害では「児童発達支援」（同率で100.0%）も多くなっています。

表 利用している（していた）障害福祉サービス

			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
		調査数	児童発達支援	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援	行動援護	移動支援	補装具の給付	短期入所
【表の見方】 比率(%) 網掛け=									
			1位	2位					
全体		32	71.9	68.8	25.0	3.1	3.1	3.1	-
障害種別	身体障害	4	25.0	100.0	25.0	25.0	-	25.0	-
	知的障害	8	50.0	87.5	37.5	12.5	12.5	-	-
	精神障害	1	100.0	100.0	-	-	-	-	-

			(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	
		居宅介護	同行援護	日常生活用具給付	意思疎通支援	訪問入浴サービス	日中一時支援	その他	無回答	
【表の見方】 比率(%) 網掛け=										
			1位	2位						
全体		-	-	-	-	-	-	-	-	-
障害種別	身体障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	知的障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	精神障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-

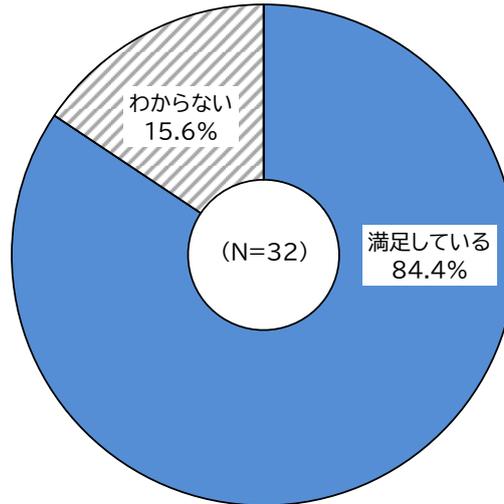
問16 利用している（していた）障害福祉サービスの満足度

障害福祉サービスを利用してみたいと思いましたか。（○は1つだけ）

利用している（していた）障害福祉サービスの満足度は、「満足している」（84.4%）が8割以上となっています。

障害種別にみると、すべての障害で「満足している」が7割以上となっています。

図表 利用している（していた）障害福祉サービスの満足度



		調査数	(1) 満足している	(2) 満足していない	(3) わからない	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=						
			1位			
			2位			
全体		32	84.4	-	15.6	-
障害種別	身体障害	4	100.0	-	-	-
	知的障害	8	75.0	-	25.0	-
	精神障害	1	100.0	-	-	-

問17 障害福祉サービスに満足していない理由

問16で「2 満足していない」を選択した方のみお答えください。
それはなぜですか。(〇は1つだけ)

障害福祉サービスに満足していない理由は、「満足していない」の回答がなかったため、該当者はいませんでした。

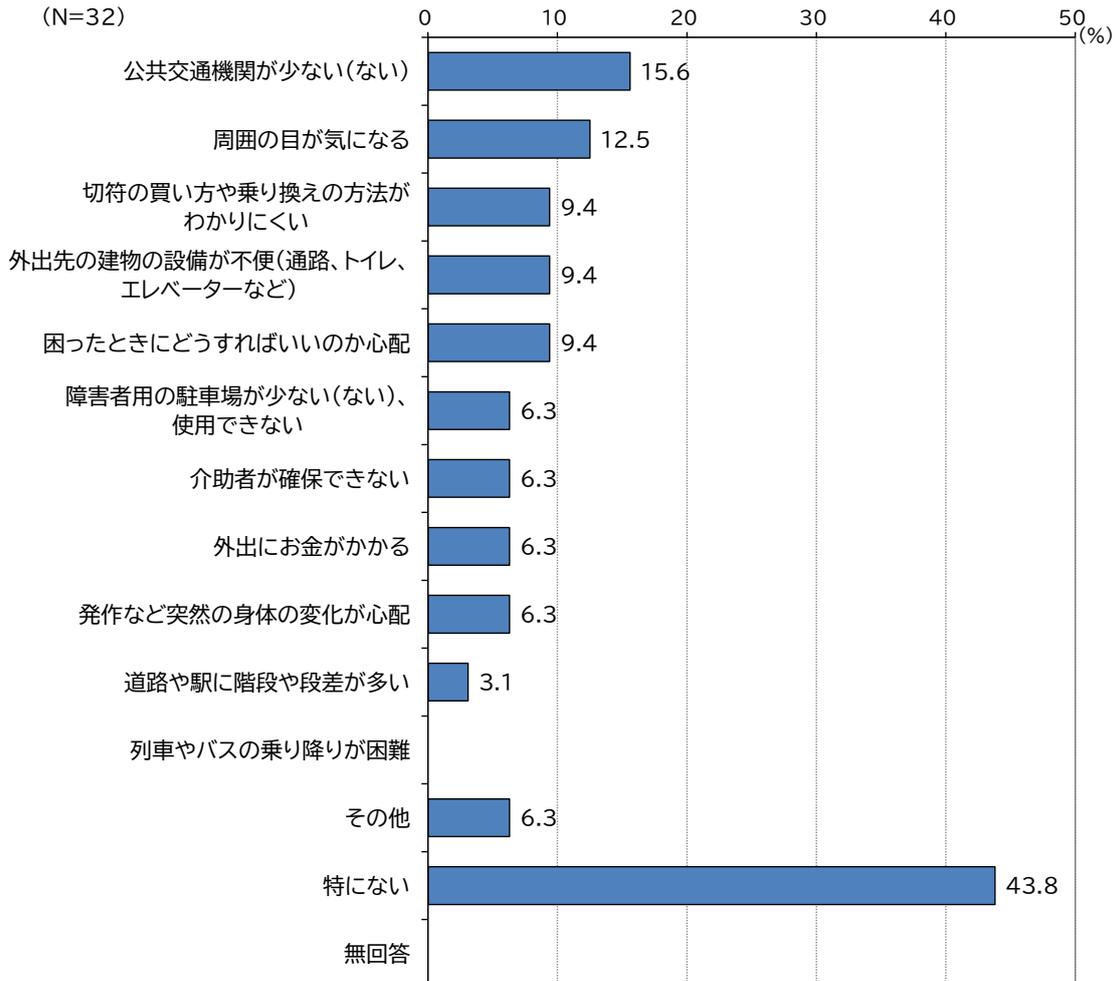
6. 外出について

問18 外出の際に困ったり不便に感じること

外出の際に市内で困ったり不便に感じることは何ですか。(○はあてはまるものすべて)

外出の際に困ったり不便に感じることは、「公共交通機関が少ない(ない)」(15.6%)が最も多く、次いで「周囲の目が気になる」(12.5%)となっています。一方で、「特にない」(43.8%)も4割以上と多くなっています。

図 外出の際に困ったり不便に感じること



障害種別にみると、身体障害では「切符の買い方や乗り換えの方法がわかりにくい」、「外出先の建物の設備が不便（通路、トイレ、エレベーターなど）」、「困ったときにどうすればいいのか心配」、「その他」、「特にない」（同率で 25.0%）が最も多く、知的障害では「切符の買い方や乗り換えの方法がわかりにくい」、「困ったときにどうすればいいのか心配」（同率で 37.5%）、精神障害では「特にない」（100.0%）がそれぞれ最も多くなっています。

図 外出の際に困ったり不便に感じること

			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
		調査数	公共交通機関が少ない（ない）	列車やバスの乗り降りが困難	道路や駅に階段や段差が多い	切符の買い方や乗り換えの方法がわかりにくい	障害者用の駐車場が少ない（ない）	外出先の建物の設備が不便（通路、トイレ、エレベーターなど）	介助者が確保できない
【表の見方】 比率(%) 網掛け=		1位							
		2位							
全体		32	15.6	-	3.1	9.4	6.3	9.4	6.3
障害種別	身体障害	4	-	-	-	25.0	-	25.0	-
	知的障害	8	12.5	-	-	37.5	12.5	25.0	12.5
	精神障害	1	-	-	-	-	-	-	-

			(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	
		外出にお金がかかる	周囲の目が気になる	発作など突然の身体の変化が心配	心配	困ったときにどうすればいいのか	その他	特にない	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=		1位							
		2位							
全体		6.3	12.5	6.3	9.4	6.3	43.8	-	-
障害種別	身体障害	-	-	-	25.0	25.0	25.0	-	-
	知的障害	-	-	12.5	37.5	12.5	25.0	-	-
	精神障害	-	-	-	-	-	100.0	-	-

7. 就労・地域生活について

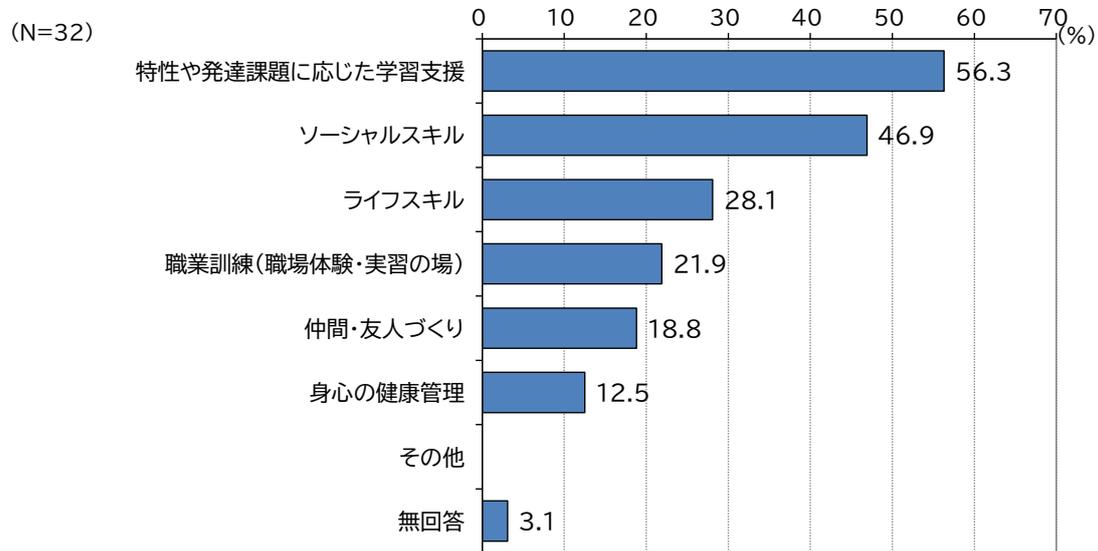
問19 卒業後、円滑な日常生活・社会生活を送るために学齢期に必要なと思う支援

卒業後、円滑な日常生活又は社会生活を送るために、学齢期に必要なと思う支援を教えてください。
(〇は2つまで)

卒業後、円滑な日常生活・社会生活を送るために学齢期に必要なと思う支援は、「特性や発達課題に応じた学習支援」(56.3%)が最も多く、次いで「ソーシャルスキル」(46.9%)、「ライフスキル」(28.1%)、「職業訓練(職場体験・実習の場)」(21.9%)となっています。

障害種別にみると、身体障害・知的障害では「特性や発達課題に応じた学習支援」、「ライフスキル」が同率で最も多く、精神障害では「ソーシャルスキル」、「ライフスキル」が同率(100.0%)で最も多くなっています。

図表 卒業後、円滑な日常生活・社会生活を送るために学齢期に必要なと思う支援



		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	無回答	
		調査数	特性や発達課題に応じた学習支援	ソーシャルスキル	ライフスキル	職業訓練(職場体験・実習の場)	仲間・友人づくり	身心の健康管理	その他	
【表の見方】 比率(%) 網掛け=										
		1位								
		2位								
全体		32	56.3	46.9	28.1	21.9	18.8	12.5	-	3.1
障害種別	身体障害	4	50.0	25.0	50.0	25.0	25.0	25.0	-	-
	知的障害	8	62.5	25.0	62.5	25.0	12.5	12.5	-	-
	精神障害	1	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-

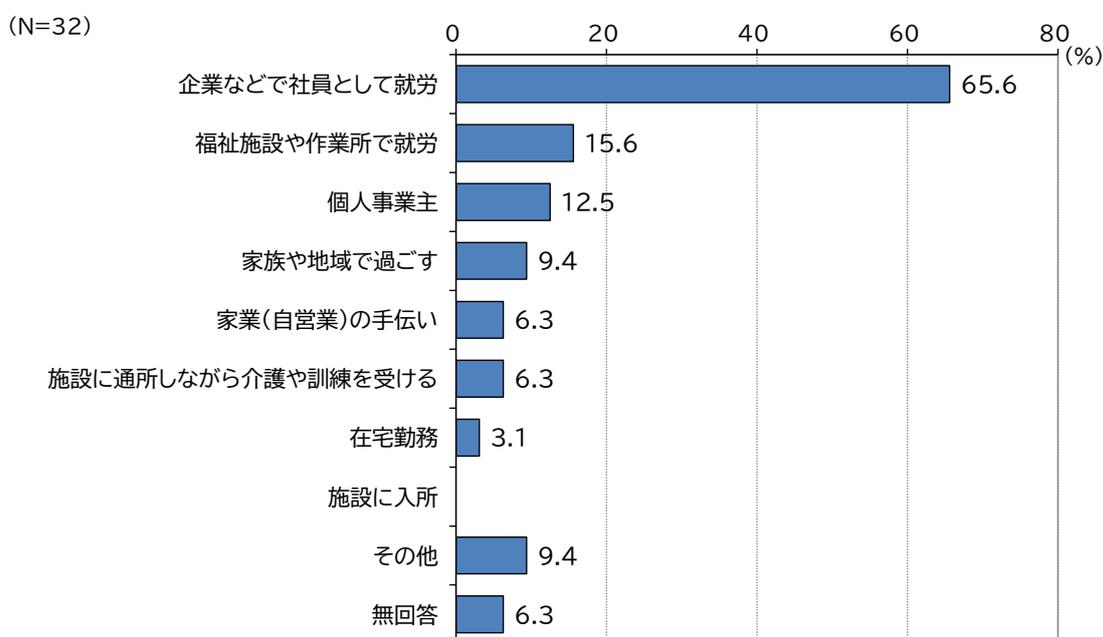
問20 学校を卒業した後の過ごし方

お子さんが学校を卒業した後の過ごし方についてお聞きします。すでに卒業されている場合は現在どう過ごされているか、まだ卒業されていない場合は、どう過ごしてほしいか教えてください。(〇は2つまで)

学校を卒業した後の過ごし方は、「企業などで社員として就労」(65.6%)が6割以上と突出しており、「福祉施設や作業所で就労」(15.6%)、「個人事業主」(12.5%)と就労や就労の希望が多い結果となっています。

障害種別に見ると、身体障害では「企業などで社員として就労」、「施設に通所しながら介護や訓練を受ける」(同率で50.0%)が最も多く、知的障害では「福祉施設や作業所で就労」(50.0%)、精神障害では「企業などで社員として就労」、「個人事業主」(同率で100.0%)がそれぞれ最も多くなっています。

図表 学校を卒業した後の過ごし方



【表の見方】 比率(%) 網掛け=	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	無回答
		企業などで社員として就労	福祉施設や作業所で就労	個人事業主	家族や地域で過ごす	家業(自営業)の手伝い	施設に通所しながら介護や訓練を受ける	在宅勤務	施設に入所	その他	
全体	32	65.6	15.6	12.5	9.4	6.3	6.3	3.1	-	9.4	6.3
障害種別											
身体障害	4	50.0	50.0	25.0	25.0	-	25.0	-	-	-	-
知的障害	8	25.0	50.0	-	25.0	-	25.0	-	-	12.5	12.5
精神障害	1	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-

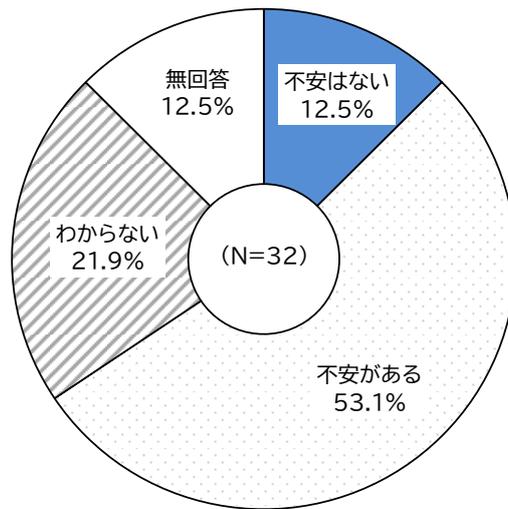
問21 現状についての不安の有無

問20で選んでいただいた現状について、どのように感じていますか。(○は1つだけ)

現状についての不安の有無は、「不安がある」(53.1%)が半数以上を占め、「わからない」(21.9%)や「不安はない」(12.5%)と比べても突出しており、現状について不安を持つ人が多いことがわかります。

障害種別にみると、すべての障害で「不安がある」が5割を超えて多くなっています。

図表 現状についての不安の有無



		調査数	(1) 不安はない	(2) 不安がある	(3) わからない	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=						
			1位	2位		
全体		32	12.5	53.1	21.9	12.5
障害種別	身体障害	4	25.0	50.0	25.0	-
	知的障害	8	25.0	62.5	-	12.5
	精神障害	1	-	100.0	-	-

8. 権利擁護について

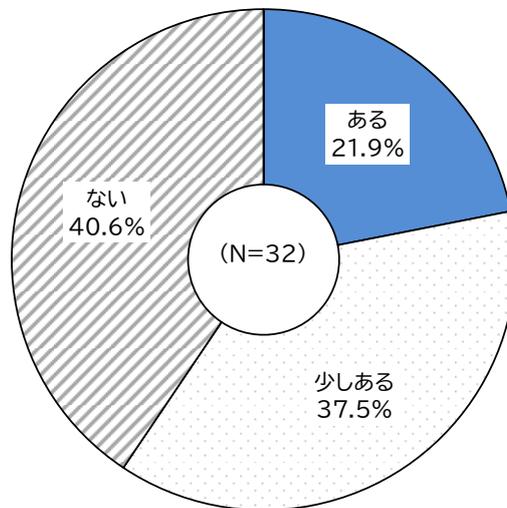
問22 お子さんが障害があることで差別や嫌な思いをする（した）こと

あなたは、お子さんに障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがありますか。（○は1つだけ）

お子さんが障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことは、「ある」（21.9％）と「少しある」（37.5％）を合わせた『ある』は約6割となっており、「ない」（46.6％）と比べて多くなっています。

障害種別にみると、すべての障害で「少しある」が5割を超えて最も多くなっています。

図表 お子さんが障害があることで差別や嫌な思いをする（した）こと



			(1)	(2)	(3)	
		調査数	ある	少しある	ない	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=						
			1位	2位		
全体		32	21.9	37.5	40.6	-
障害種別	身体障害	4	25.0	50.0	25.0	-
	知的障害	8	37.5	62.5	-	-
	精神障害	1	-	100.0	-	-

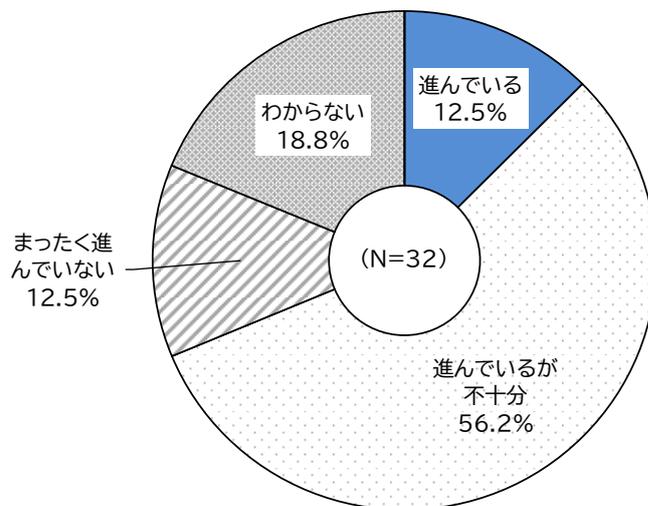
問23 障害や障害者に対する周りの理解度

障害や障害のある方に対する周りの人の理解は進んでいると思いますか。(○は1つだけ)

障害や障害者に対する周りの理解度は、「進んでいるが不十分」(56.2%)が5割以上を占めており、次いで「わからない」(18.8%)、「進んでいる」、「まったく進んでいない」(同率で12.5%)となっています。

障害種別にみると、すべての障害で「進んでいるが不十分」が6割を超えて最も多くなっています。

図表 障害や障害者に対する周りの理解度



			(1)	(2)	(3)	(4)	
		調査数	進んでいる	進んでいるが不十分	まったく進んでいない	わからない	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=							
				1位			
				2位			
全体		32	12.5	56.3	12.5	18.8	-
障害種別	身体障害	4	-	75.0	-	25.0	-
	知的障害	8	25.0	62.5	12.5	-	-
	精神障害	1	-	100.0	-	-	-

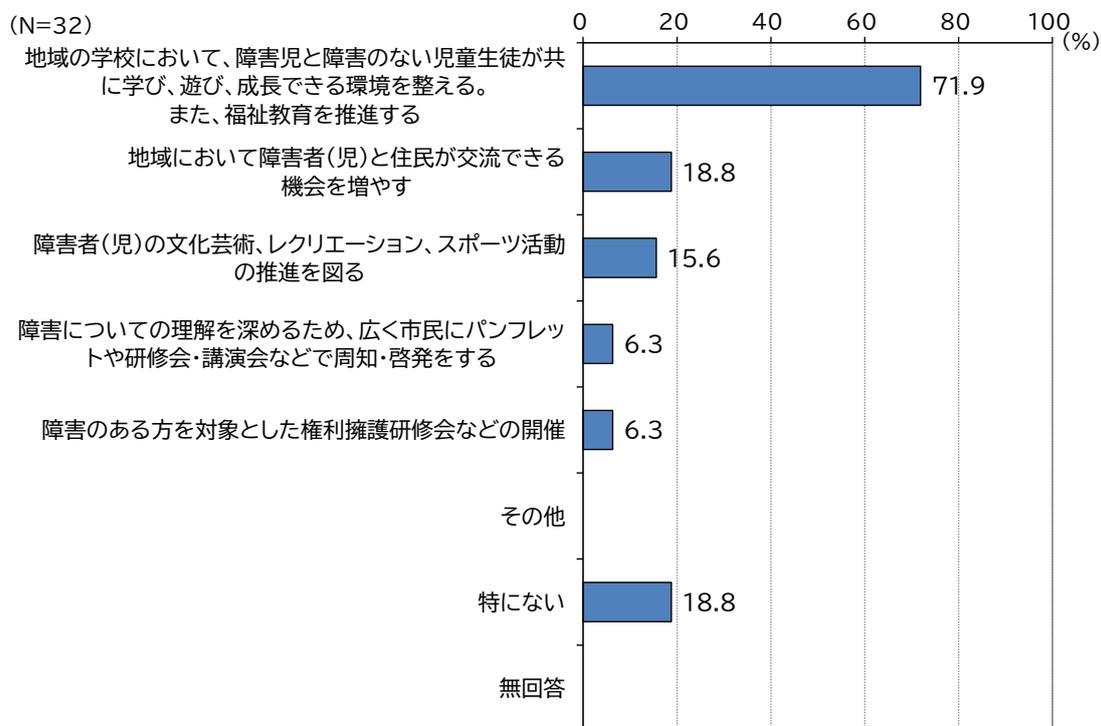
問24 障害者に対する偏見や差別解消のために必要な取組み

障害のある方への偏見や差別を解消するため、取り組んで欲しいことは何ですか。(〇は2つまで)

障害者に対する偏見や差別解消のために必要な取組みは、「地域の学校において、障害児と障害のない児童生徒が共に学び、遊び、成長できる環境を整える。また、福祉教育を推進する」が7割以上を占めており、その他の項目と比較して突出しています。

障害種別に見ると、身体障害・知的障害では「地域の学校において、障害児と障害のない児童生徒が共に学び、遊び、成長できる環境を整える。また、福祉教育を推進する」が最も多く、精神障害では「障害者（児）の文化芸術、レクリエーション、スポーツ活動の推進を図る」が100.0%となっています。

図表 障害者に対する偏見や差別解消のために必要な取組み



【表の見方】 比率(%) 網掛け=	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	無回答
		地域の子 童学校に おいて、 障害児と 障害のない 児童生徒 が共に学 び、遊び 、成長で きる環境 を整える 。また、 福祉教育 を推進す る	が地域に おいて障 害者(児) と住民 の交流の 機会を増 やす	を障害者 (児)の文 化芸術、 レクリエ ーション 、スポーツ 活動の推 進を図る	障害者(児) の文化芸 術、レク リエーシ ョン、ス ポーツ活 動の推進 を図る	障害者(児) の文化芸 術、レク リエーシ ョン、ス ポーツ活 動の推進 を図る	障害のある 方を対象 とした権 利擁護研 修会など の開催	その他	
全体	32	71.9	18.8	15.6	6.3	6.3	-	18.8	-
障害種別									
身体障害	4	75.0	50.0	25.0	-	-	-	25.0	-
知的障害	8	87.5	37.5	37.5	12.5	-	-	12.5	-
精神障害	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-

10. その他の環境について

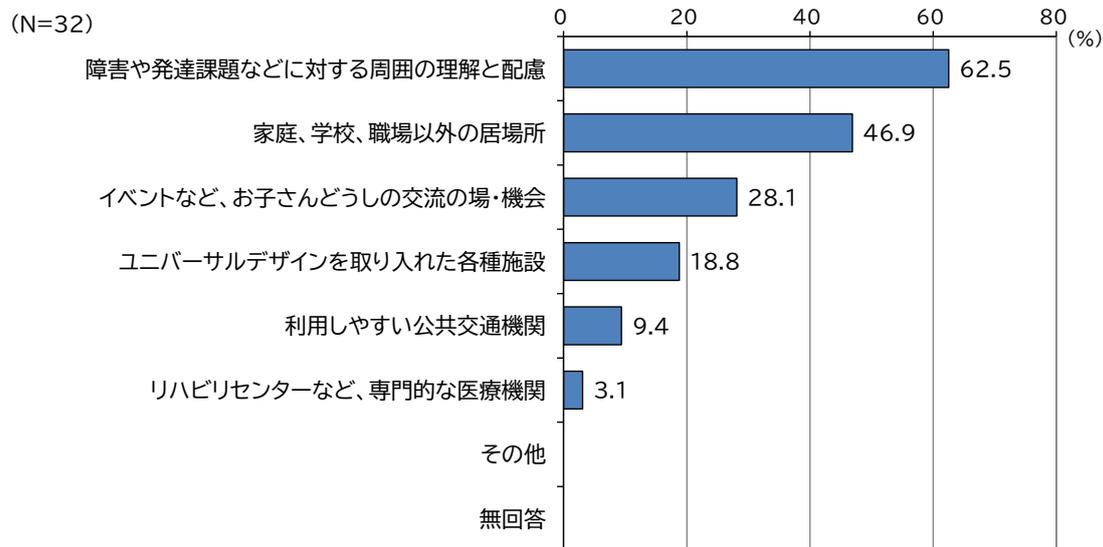
問26 お子さんが過ごす環境に必要なもの

お子さんが過ごす環境に、他にどのようなものが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

お子さんが過ごす環境に必要なものは、「障害や発達課題などに対する周囲の理解と配慮」(62.5%)が最も多く、次いで「家庭、学校、職場以外の居場所」(46.9%)「イベントなど、お子さんどうしの交流の場・機会」(28.1%)などのソフト面、「ユニバーサルデザインを取り入れた各種施設」(18.8%)などのハード面での環境が必要という結果となっています。

障害種別にみると、身体障害・知的障害では「障害や発達課題などに対する周囲の理解と配慮」が最も多く、身体障害では「家庭、学校、職場以外の居場所」、「イベントなど、お子さんどうしの交流の場・機会」も同率(50.0%)で最も多く、精神障害では「ユニバーサルデザインを取り入れた各種施設」、「家庭、学校、職場以外の居場所」が同率(100.0%)で最も多くなっています。

図表 お子さんが過ごす環境に必要なもの



【表の見方】 比率(%) 網掛け=	調査数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	無回答
		の障害や発達課題などに対する周囲の理解と配慮	家庭、学校、職場以外の居場所	交流の場・機会、お子さんどうしのイベントなど	たユニバーサルデザインを取り入れた各種施設	利用しやすい公共交通機関	医療機関	リハビリセンターなど、専門的な	
全体	32	62.5	46.9	28.1	18.8	9.4	3.1	-	-
障害種別									
身体障害	4	50.0	50.0	50.0	25.0	-	-	-	-
知的障害	8	62.5	37.5	25.0	25.0	25.0	-	-	-
精神障害	1	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-

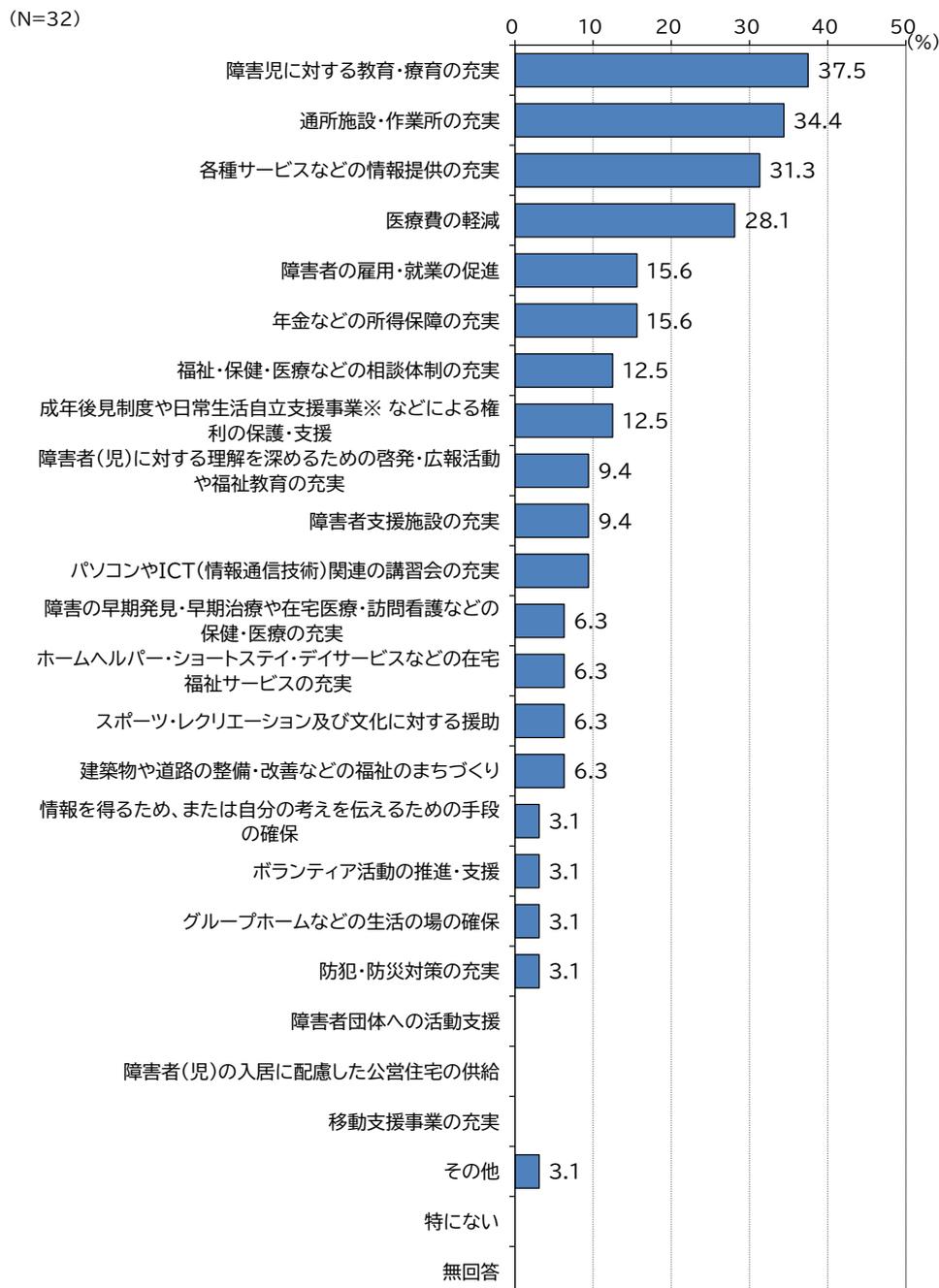
11. その他について

問27 障害者福祉分野においてもっとも充実してほしいこと

今後、障害者福祉分野においてあなたがもっとも充実してほしいのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

障害者福祉分野においてもっとも充実してほしいことは、「障害児に対する教育・療育の充実」(37.5%)が最も多く、次いで「通所施設・作業所の充実」(34.4%)、「各種サービスの情報提供の充実」(31.3%)となっており、障害児に対する教育・療育、障害者(児)に対する理解を深めるための啓発・広報活動や福祉教育などのソフト面での充実を望む人が多い結果となっています。

図 障害者福祉分野においてもっとも充実してほしいこと



障害種別にみると、身体障害では「各種サービスなどの情報提供の充実」(75.0%)が最も多く、知的障害では「各種サービスなどの情報提供の充実」、「障害者の雇用・就業の促進」、「年金などの所得保障の充実」(同率で37.5%)、精神障害では「障害児に対する教育・療育の充実」、「医療費の軽減」、「スポーツ・レクリエーション及び文化に対する援助」(同率で100.0%)がそれぞれ最も多くなっています。

表 障害者福祉分野においてもっとも充実してほしいこと

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
【表の見方】 比率(%) 網掛け=	1位										
	2位										
	調査数										
	障 害 児 に 対 す る 教 育 ・ 療 育 の 充 実										
	通 所 施 設 ・ 作 業 所 の 充 実										
	実 各 種 サ ー ビ ス な ど の 情 報 提 供 の 充 実										
	医 療 費 の 軽 減										
	障 害 者 の 雇 用 ・ 就 業 の 促 進										
	年 金 な ど の 所 得 保 障 の 充 実										
	の 福 祉 ・ 保 健 ・ 医 療 な ど の 相 談 体 制 の 充 実										
	事 業 後 見 制 度 や 日 常 生 活 自 立 支 援 な ど に よ る 権 利 の 保 護 ・ 支 援										
	育 児 の 充 実										
	障 害 者 (児)に 対 す る 理 解 を 深 め る た め の 啓 発 ・ 広 報 活 動 や 福 祉 教 育										
	障 害 者 支 援 施 設 の 充 実										
全体	32	37.5	34.4	31.3	28.1	15.6	15.6	12.5	12.5	9.4	9.4
障 害 種 別											
身体障害	4	50.0	25.0	75.0	25.0	-	-	-	25.0	-	25.0
知的障害	8	25.0	25.0	37.5	25.0	37.5	37.5	12.5	25.0	12.5	25.0
精神障害	1	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-

		(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)
【表の見方】 比率(%) 網掛け=	1位											
	2位											
	術 パ ソ ン コ ン や I C T へ 情 報 通 信 技 術 関 連 の 講 習 会 の 充 実											
	の 医 療 の 充 実											
	障 害 者 の 早 期 発 見 ・ 早 期 治 療 や 在 宅 療 育											
	サ ー ビ ス の 充 実											
	ホ ー ム サ ー ビ ス な ど の 在 宅 福 祉											
	文 化 に 対 す る 援 助											
	福 祉 の ま ち づ く											
	建 築 物 や 道 路 の 整 備 ・ 改 善 な ど の 援 助											
	情 報 を 得 る た め の 手 段 の 確 保											
	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 の 推 進 ・ 支 援											
	確 保											
	グ ル ー プ ホ ー ム な ど の 生 活 の 場 の 保 護											
	防 犯 ・ 防 災 対 策 の 充 実											
	障 害 者 団 体 へ の 活 動 支 援											
	障 害 者 (児)の 入 居 に 配 慮 し た 公 営 住 宅 の 供 給											
全体	9.4	6.3	6.3	6.3	6.3	3.1	3.1	3.1	3.1	-	-	-
障 害 種 別												
身体障害	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
知的障害	12.5	-	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
精神障害	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-

		(22)	(23)	(24)	
【表の見方】 比率(%) 網掛け=	1位				
	2位				
	移 動 支 援 事 業 の 充 実				
	そ の 他				
	特 に な い				
	無 回 答				
全体	-	3.1	-	-	-
障 害 種 別					
身体障害	-	25.0	-	-	-
知的障害	-	-	-	-	-
精神障害	-	-	-	-	-

第6章 主な自由意見

1. 『障害者を対象とした調査』の主な自由意見

障害者福祉の各種制度の問題点や、障害者(児)をとりまく環境改善について要望・意見をお伺いしたところ、交通機関の整備・移動支援の拡充、生活支援、各種施設・サービスの充実などが多くなっています。

主な意見は、以下のとおりです。

■交通機関の整備・移動支援に関する意見

- 視覚障害者のための歩行者専用の横断歩道
- 介護者も同乗できる介護タクシー
- 移動支援の拡充
- 重度障害者にガソリン補助券の配布
- 交通の不便な場所での車移動
- 精神障害も他の障害と同じように利用料の減免（JRや高速道路など）
- 公道は段差だらけで、アスファルトがはがれかけ、陥没などがそのまま放置されてる場所が多くあり、とても危険
- 「てんかん」と診断された人に障害者手帳がなくても交通機関を使えるようにしてほしい

■生活支援に関する意見

- 障害者に対しての生活支援金に関する支援金の拡充
- 障害者が生活しやすい環境作り、生活費の援助
- 障害者の高齢化と補助者（父母等）の老齢化による生活支援の強化
- 外出難民、買い物難民のためのタクシー代等の支援
- 子育て世代や非課税世帯に限らず、単身で障害を持つ世帯への支援

■各種施設・サービスに関する意見

- 将来自立して生活できるようにグループホーム、福祉ホームなどの充実と援助制度の確立
- 社会復帰がしやすい施設や設備
- 市内でも送迎付きのデイサービスの利用を希望
- 利用している施設以外でも短期入所できるようにしてほしい（本人、家族が自分の時間をもったり休息できる時間がほしい）
- 障害者老人福祉施設の拡充
- 高次脳機能障害のリハビリなどできる通所施設の拡充

■就労・雇用に関する意見

- A型ないし、障害者雇用の充実
- 障害者の自立のための就労支援・経済的支援の充実
- 外での作業が多く、内での作業が少ない
- 身体障害者だけでなく、精神障害者や発達障害者の働ける場所の拡充

■教育（理解）に関する意見

- 健常者の障害への理解の促進
- 学校や会社での勉強会などの充実
- 周りの人に、障害者（児）の理解をしっかりとしてほしい

■介助者に関する意見

- 老老障害者在宅介護に直面した際に、訪問診療・看護の空白時に容体観察がリモートできるように設備等の支援

■経済的負担に関する意見

- 障害者が重複障害がある場合、制約を大きく受ける
- 年金等の所得保障の充実

■行政に対する意見

- 民間サービス事業が多々広く地域に入っているが、地域福祉への移行は停滞している
- 障害者福祉は、高齢者福祉と比べ施策が後発であって、追従しないよう総合かつ複合的福祉施策を講じる必要がある
- 障害者への公的サービスとして障害のこと、社会のしくみのことを理解、情報提供いただけるしくみを作っていたきたい

■相談できる窓口に関する意見

- ネットでも気軽に相談可能な窓口の充実
- 相談窓口の充実（移動手段・買物・病院等の相談）
- プライバシーに配慮した、相談方法の拡充
- 困っている時に、頼れる場所を希望

■情報に関する意見

- 障害者が困る事例を広報で伝達（パンフレットなどへの取り組みが必要）

■災害時に関する意見

- 災害時に避難する方法がない、家族だけで逃げれるか。要援護者登録は、どういうふうを活用されるのか分からない

■その他の意見

- 見た目にはわからない障害を、何かのかたちでわかってもらえるようになってほしい（例えば、手や胸、背中になにかのシール（しるし）をつけるなど）
- アンケート内容の簡素化
- 身体障害者の認定方法 後期高齢者健康で障害者5級であり介護保健認定が4級と認定方法の差がある

2. 『市民を対象とした調査』の主な自由意見

徳島市の障害者福祉について要望・意見をお伺いしたところ、行政に対する要望、各種施設・サービスの充実などが多くなっています。

主な意見は、以下のとおりです。

■情報に関する意見

- 障害者福祉について若い方達にもわかるような情報発信

■教育に関する意見

- 一人一人の障害状況について、把握しそれに応じた教育や福祉サービスの充実
- 定期的な理解のために、学校や、企業でも勉強（知る機会）の取組み
- 特別支援教育充実
- 学校教育で福祉・障害者のことを学ぶ機会の充実

■行政に対する意見

- 障害者についてもっと具体化した施策
- 障害者福祉以外の拡充も必要
- 障害者福祉の市町村での格差
- 役場の窓口対応の柔軟化
- 講習の開催（家族で将来の介護のための講習等）

■地域生活に関する意見

- 障害者が安心、安全に暮らしていける環境作り（親が高齢になった場合その後一人での生活について等）

■各種施設・サービスに関する意見

- 障害者に対するリハビリやスポーツ施設の充実
- 介護従事者の増員及び作業に見合う報酬を、与える
- 各機関（学校や病院、行政、支援センター、デイサービス等）をつなぐコーディネーター的役割の存在
- ヘルパーや施設の増員増設、賃金UPの取組み
- グループホームや入所施設の拡充

■その他の意見

- 家族の精神的な支えになる機関や団体が少ない
- 手助けが必要な方に向けたマーク等の配布
- 肉体は健全だが精神的なダメージを受けた人に対する配慮は非常に低い
- 参加しやすいイベントなどがあればボランティアで参加しやすい

3. 『障害児を対象とした調査』の主な自由意見

障害者福祉の各種制度の問題点や、障害者(児)をとりまく環境改善について要望・意見をお伺いしたところ、行政に対する要望などが多くなっています。

主な意見は、以下のとおりです。

■各種施設・サービスに関する意見

- 親が仕事などで送迎できない場合の代行送迎サービスの充実

■行政に対する意見

- 家族が生活できる公的援助（資金等）が必要
- 障害を早期に発見し、自動的な支援へ繋げるフォローの確立
- 障害者（児）は他の人と比べて入院退院が多く、医療費以外でも金銭的サポートが必要

■その他の意見

- 放課後デイの利用日数制限による負担
- 知的障害児用に身につけられるマークなどがあれば、周知されやすい